

1. 《経営理念》

- ①時代の変遷にともない、福祉ニーズの変化を敏感に把握し、社会の人々のために、良質な福祉サービスを提供する。
- ②いつでも、どこでも、誰でもが必要な時に最善の福祉サービスを提供できるように日々研究努力する。
- ③All for One, One for All [全てが一人の為に、一人が全ての為に]

2. 《基本方針》

- ・法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、人権を尊重した運営をする
- ・各施設の基本方針を尊重する
- ・社会的に評価を得られるよう努める

3. 《令和4年度法人ヴィジョン》

①経営の強化

- ・役職者に会計の研修を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染や大規模修繕等の補助金の申請や借入を行った。

②教育システムの充実とサービスの質の向上

- ・レジェンド発表会を実施（動画による視聴と採点を行った）
- ・職員 OF 職員の実施。
- ・動画配信による教育システムの活用

③地域社会に必要とされる法人

- ・ほっとかへんネット西・中央・兵庫に参画した

4. 《令和4年度目標》

①時代に合った広報・人材確保の強化

- 法人のパンフレットをリニューアルした。
- 就職フェアに参加すると共にオンラインやSNSを活用した広報を行った。
- また、リモートでの見学会を実施した。

②部門間の協力体制作り

- 月に1回の法人運営会議で情報共有を行った。
- 新規事業開設に向けて、会議を行った。

③コロナ禍での運営と変化に対応する能力の向上

- 新型コロナウイルス感染症が発生した時も、リモートを活用して、情報共有を行ったことで感染を最小限にすることが出来た。

5. 《会議》

法人運営会議	4/22、5/17、6/21、7/13、8/17、9/12、10/17、11/16、12/19、 R5 1/24、2/20、3/7
予算・経営会議	R4/11/15、R5/2/13

6. 《行事等》

日付	行事等
5月18日・19日	監事監査
5月27日	理事会（事業報告、決算他）
6月10日	定時評議員会（決算、社会福祉充実残高）
6月13日	資産登記
7月15日	目的及び事業の追加登記
7月11日	緊急理事会（ゾーニング工事公告案他）
8月23日	緊急理事会（ゾーニング工事入札参加業者審査・決定他）
9月 8日	緊急理事会（ゾーニング工事予定価格決定他）
9月 9日	ゾーニング工事入札
9月12日	緊急理事会（ゾーニング工事契約他）
11月25日	理事会（一次補正予算、規程変更他）
3月17日	理事会（ICT借入、事業計画・予算・二次補正予算他）

7. 《総括》

今年度も新型コロナウイルス感染症が終息することなく、年度を終える事となった。各施設で感染者が出たことで、様々な厳しい状況がありながらも、この数年の経験も生かし、健全な運営が出来たことは、職員一人一人の努力のお陰である。

また、今年度は三年振りにレジェンド発表会が開催された。内容や発表に工夫が凝らされており、レベルアップしたものとなった。

福祉従事者の疲弊が大きい近年だからこそ、私達の原点を見つめ直し、私達の仕事に誇りを持つ良い機会になった。

新規事業については、他法人の見学や会議を引き続き行い準備をすすめる。

☆ 高齢者部門

1. 《目標》

全員が主体的になれる部門を目指す

- ・様々な変化に対応できる現場づくり
- ・誰もが自分の意見を言える場づくり
- ・営業部長を中心として、安定した採用と入所者確保をすすめる
- ・大規模修繕の実施

2. 《行動計画》

- ①介護力向上、業務改善と共にそれらを実行できるリーダーを育成する
- ②部署内、部署間、施設間で率直に話し合える雰囲気と関係を作る
- ③営業部長配置二年目になるため、昨年度の振り返りと今後の仕組み作りを行う
- ④外壁や ICT、エアコン等の大規模修繕を最後まで安全に行えるよう設計会社等と協力していく。また、助成金についてもチームで関わり取りこぼしがない様にする。

3. 《総括》

今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大による様々な制限を受けながらの運営となった。家族の方とのコミュニケーションがとりにくい中、写真の送付やリモート面会や窓越し面会は継続してきた。

また、デイサービスやショートステイでは、利用控えがあり充足率が下がってしまった。入所施設でも新型コロナウイルス感染症が発生したことによる充足率低下が見られ、昨年以上に新型コロナウイルス感染症の影響を受けることとなった。何度も繰り返される施設での新型コロナウイルス感染症の発生による職員の心身の疲労は大変大きなものであり、退職や勤務形態の変更につながっている。そんな中でもケアハウス大慈と大慈ショートステイさくらが昨年度よりも充足率が上がり、収入増となった。

大規模修繕については、特に大きな問題もなく補助金確保や工事の実施が行われた。また、技能実習生については、今年度はインドネシアより3名を受け入れた。技能実習生から特定になった2名の退職があったため、これで技能実習生11名、特定技能外国人5名となった。

人財の確保については、専任者を配置したものの苦戦が続いている。新たな対策や取り組みが必要と感じた。

組織向上プログラムを大慈弥勒園以外にも導入したので、それも活用しながら人財育成だけでなく、人財確保に繋げる。

4. 《人財確保と育成等》

①人財確保 新卒10名採用

人財の採用については、新卒は3名に留まった。

②人財育成計画

ネット配信による研修システムを導入する事で入職時研修や虐待研修等をリモートで行った。集合で行う会議も実施しながら、必要に応じてリモート会議を行い、常にコミュニケーションを怠らない環境を作る事が出来た。

大慈弥勒園で実施してきた組織向上プログラム（チームコーチング）をケアハウス大慈・大慈智音園でも導入を開始した。

③福利厚生等

互助会よりコロナ慰労金として、会員に1万円支給した。

5. 《地域貢献事業》

榎谷地区の給食会の送迎を行った。ほっとかへんネット西に参画した。地域のごみ拾いを定期的に行った。

6. <<広報活動>>

今年度は、営業部長を中心にあんしんすこやかセンター等に営業を行い、新規利用者につなげた。また、インスタグラムやフェイスブックを活用して広報を行った。法人パンフレットを発行した。

- 随時対応・・・ホームページ更新作業

7. <<研修会等>>

月	研修名	対象者
4月～7月	介護職員初任者研修	新人職員
4月～7月	新人職員研修	新人職員
2月	ステップアップ研修	昇級予定者
毎月1回	コーチング研修	役職者

8. <<施設整備等>>・・・50万以上の主な工事等を記載

項目	施設
UTM 設置工事	高齢者部門
大規模修繕時の際に合わせて行う、見守りセンサー等の ICT 機器導入 (令和4年度分)	大慈園
LED 整備	大慈園
ゾーニング環境及び面会室の整備	大慈園
看取り環境の整備	大慈園
簡易陰圧装置の導入	弥勒、吉祥、SS、ケアハウス、智音
電気メーター取替工事	ケアハウス
浄水器設置工事	ケアハウス
車両購入 (ミライス)	居宅

※SS→ショートステイ

※大慈園→大慈弥勒園、大慈ショートステイ、大慈デイサービスセンター、大慈吉祥園

9. <<会議・委員会>>

会議名等	
事業戦略推進会議	予算管理委員会
広報委員会	モチベーションアップ委員会

10. <<新型コロナウイルス感染症報告>>

○発生件数

陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)
95 人	93 人

○費用・補助金等

感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
¥12,947,271 円	¥23,593,440 円

○まとめ

- ・毎日リモート会議を行い、感染状況の把握、予防や対策について決定又は周知を行った。
- ・感染時の事業継続計画 (BCP) 作成とシュミレーションの実施。

- ・応援派遣時の対応フローや職員の宿泊場所等の情報収集の実施。
- ・職員への定期的な抗原検査の実施。

☆ 保育・児童部門

1. <目標>

施設間の情報共有の強化

チーム会議をオンラインで開催し、情報の共有を図った。

2. <令和4年度報告>

- ・今年度よりハーバー大慈も含めた会議を行った。
- ・園長管理者会議をオンラインや対面で行った。
毎月1回 各園（館）の状況や取り組み、課題を共有し、運営や保育を進めた。
- ・保育教諭会議をオンラインで行った。情報交換、意見交換を行い、問題解決に向け検討を重ねた。
- ・キッチン会議をオンラインで行った。献立の意見交換、情報交換、食育に関する相談等を行い、実際に園での取り組みや献立に反映させた。
- ・リスクマネジメント会議をオンラインで行った。環境要因、人的要因等、課題を抽出し解決、改善に向けて取り組んだ。

3. <人財確保と人財育成等>

① 人財確保

- ・こども園…兵庫県・神戸市合同就職フェアに参加した。
- ・ハーバー大慈…社会的養護施設合同フェアに参加した。

② 人財育成

- ・今年度は、各園、館内での教育に加え、オンラインで全園共通研修を行った。
- ・個々の保育技術、教育的知識を高められるようにオンラインでの研修も行った。
- ・職場内での伝達研修を強化した。

4. <地域貢献事業>

- ・新型コロナウイルス感染症が落ち着き始めたので、子育てサロン、園庭開放、トライやるウィークを行った。
- ・児童館において、親子館事業のプログラムは、年間を通して完全予約制にし、一般来館は自由に遊びに来られるようにした。
密を避けながら子育て支援に努め、地域貢献に取り組んだ。
- ・小学生の学習支援、外国にルーツを持つ子どもの学習支援は、基本的に通常通り行った。
- ・大慈こども園の地蔵盆は、園児のみで行った。
- ・7月19日より「おやこふらっとひろば中央」の運営を開始した。
- ・子育てサロンを開催した。（こども園、小規模保育園、おやこふらっとひろば中央）
- ・園庭開放を再開した。（こども園）
- ・こども園の保育時間外保育を再開した。（ハーバー大慈）
- ・ほっとかへんネット中央との連携を行った。（こども園、ハーバー大慈）
- ・ほっとかへんネット兵庫との連携を行った。（大慈ひょうごこども園）

5. 《研修会等》

月	研修名	対象者
4月	新任職員研修（オンライン）	新卒職員
5月	中堅職員研修（オンライン）	2年目、3年目職員
2月	子どもの人権を尊重するための研修	全職員

6. 《施設整備等》・・・50万円以上の主な工事等を記載

項目	施設
大慈ひょうご幼保連携型認定こども園	屋上フェンス改修工事
ハーバー大慈	全室電気メーター取り換え工事 退所後のリフォーム 防犯カメラの増設
大慈学童クラブ	登下校等管理システム

7. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

陽性者（職員）	陽性者（子ども）
37件	144件

○費用・補助金等

感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
¥6,917,560円	¥6,419,968円

○まとめ

- ・神戸市からの通達をもとに対応をした。
- ・感染対策を緩めることなく講じた。
- ・感染者が発生した際、法人内で情報を共有した。
- ・こども園、小規模保育園の行事は概ねコロナ前と同じように行った。
- ・ハーバー大慈の短期保護事業、新規入所者の受け入れを制限して行った。

8. 《総括》

- ・新型コロナウイルス感染症が落ち着き始めたので、子育て支援等を再開し始めた。
- ・キャッシュレスやペーパーレスに向けての取り組みを行い始めた。
- ・「おやこふらっとひろば中央」の運営が始まり、想像以上にたくさんの方に利用していただいたことや子育て支援が今まで以上に広く深くできたことはよかったと思う。
また、大慈厚生事業会の知名度も上がり、子育てサロンや園庭開放、園見学者の人数が増えた。

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様に努める。

2. 《中長期行動計画》

○最終目標（10カ年）

『選ばれる施設になる』・・・新規採用者25名以上の応募がある

- ・技術と情熱の両輪が育っている
- ・コミュニケーションと繋がり大切にする
- ・一人一人の夢や目標を叶える
- ・地域の中心的な拠点となり、地域とともに持続可能な社会をつくる
- ・大慈で蓄積した技術が世界の福祉を変える

○中長期目標（5カ年）

- ・高齢者介護の拠点として競合他社に負けない独自の強みをつくる
- ・ここで働きたいと思える施設になる

3. 《令和4年度重点目標》

①健全な経営 各施設で設定した充足率の目標達成を目指す。

- ・強みの開発やサービスの変革を行い続ける
- ・看取り専用居室
- ・経営勉強会の継続
- ・ケアマネ見学会



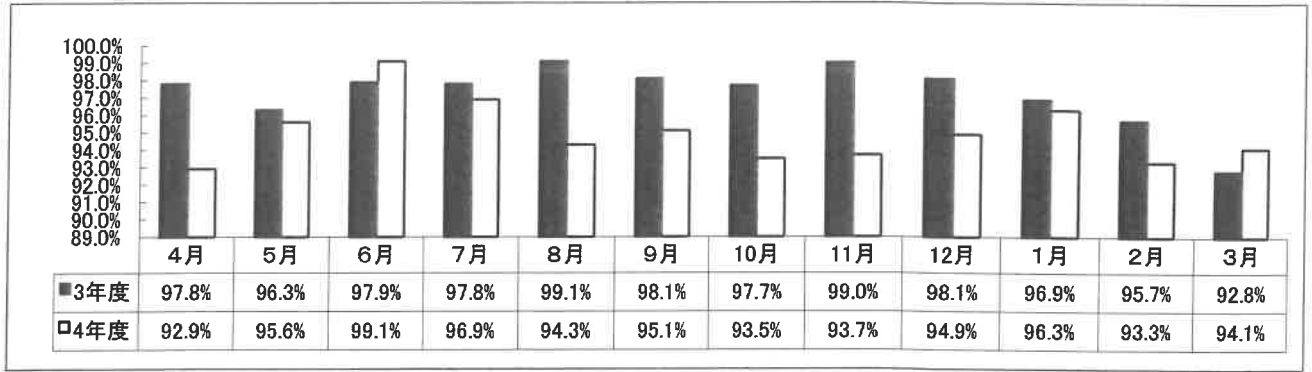
【充足率の目標達成値】

- ・特別養護老人ホーム大慈弥勒園（定員100名） 98%

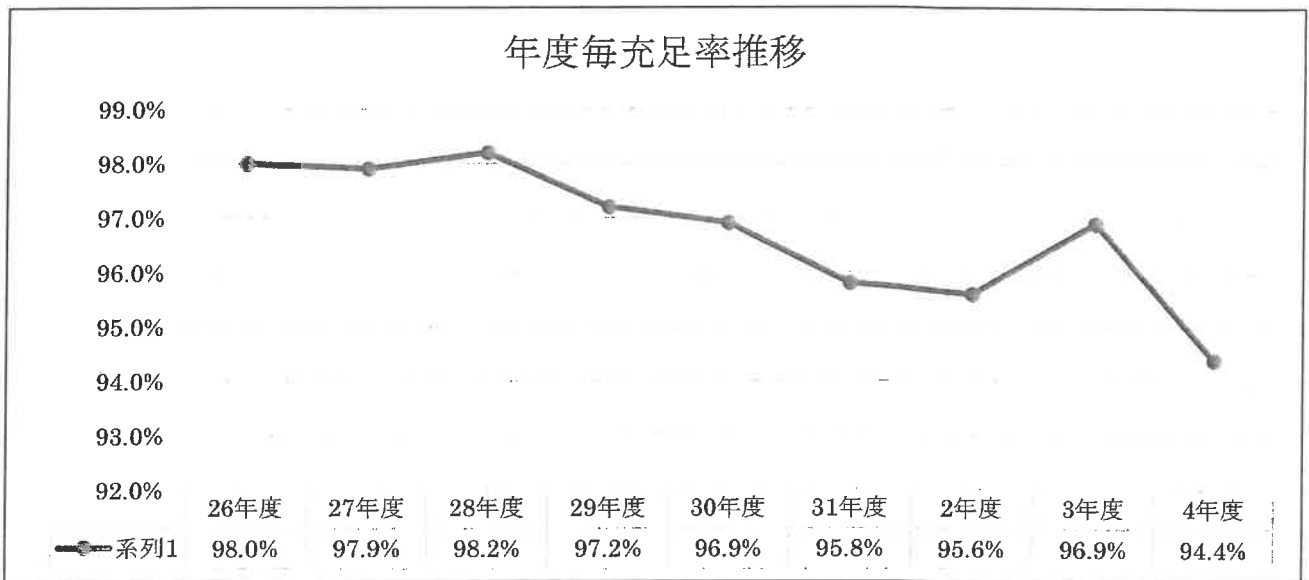
社会福祉施設を必要とされているゲストやご家族に対して、インテークから入所後の介護サービスの提供まで、各部署が役割を理解し迅速に対応できていたと思う。ただ、令和4年11月に感染対応を重視することとなり、相談や受け入れ対応が出来ず充足率の目標値には達しなかった。

次年度に向けて引き続き、ゲストに安全な介護サービスの提供、社会福祉施設を必要とされている方の受け入れが迅速にできるように努めたい。

○令和4年度月別充足率表



○充足率推移 (%)



○入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和3年度	25	3	21	19	28	20
② 令和4年度	38	1	34	32	34	3
増減①－②	+13	-2	+13	+13	+6	-17

○介護度別年齢別等人数表

令和5年3月31日時点での在籍数

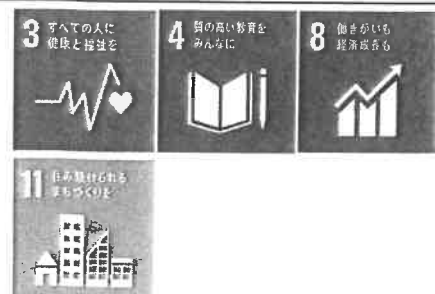
平均滞在期間3.1年(男性3.5年、女性3.0年)、最高滞在期間16.7年(女性)

要介護度	令和4年度				令和5年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	1	0	1	84歳	0	0	0	歳
2	5	2	3	86歳	5	1	4	88.5歳
3	35	8	27	88.2歳	44	11	33	87.8歳
4	34	10	24	86.3歳	3	8	29	87.7歳

					7			
5	25	6	19	86.4 歳	9	6	3	86.1 歳
合計	100	26	74		95	26	69	
平均介護度		3.7	3.7	3.7		3.78	3.78	3.78
平均年齢		85.3 歳	88.2 歳	87.4 歳		85.7 歳	88.1 歳	87.4 歳
最高年齢		94 歳	102 歳			99 歳	100 歳	
最小年齢		62 歳	68 歳			64 歳	75 歳	

②人材育成 情熱・ロマン・思い・気持ちを共有

- ・目的のある会議を毎月1回以上開催し、参加率を70%以上にする
- ・一人一人の強みを見出し、活躍の機会を共につくる
- ・課題解決型ではなく目標達成型の面談を2か月に1回実施する



《職員会議・OFF-JT》

頻度	会議名				
月1回	看取り介護委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	369会議	身体拘束適正化検討委員会	チームコーチング	部門会議	給食委員会
	褥瘡防止委員会	全体会議 (1F・3F)	非常災害時対策委員会	営業会議	法人運営会議
	人事委員会	研修委員会	予算・経営会議	広報委員会	技能実習担当者会議
	モチベーションアップ委員会	医療的ケア推進委員会	労働衛生委員会	社会貢献委員会	事業継続会議 (BCP)
随時	ケアカンファレンス		人事検討会議		

日付	研修会内容	参加人数
5月26日	非常災害 (防火・防災) 対策研修・BCP	15名
6月20日	BCP 訓練 (感染)	10名
6月30日	事故再発防止対策委員会 (食事姿勢・誤嚥・緊急対応) 看取り介護の指針普及・看取りの基礎・24時間オンコール体制と観察項目	15名
8月24日	労働安全衛生教育と認知症・ハラスメント防止	全職員配布
9月14・28 10月5・13・19・21	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	全職員
10月28日	感染症発生時のマニュアルとガウンテクニック	13名

12月21日	非常災害対策研修（土砂災害対策・不審者対策）	11名
2月22日	看取りケア・褥瘡対策・事故再発防止・腰痛予防	14名
3月3日・8・7・10・14・15日	労働衛生教育（ハラスメント防止に関する研修）	全職員
3月24日	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	9人
毎月	チームコーチング研修	役職者
都度	医療的ケア 認定特定行為業務従事者（経管栄養）の手技確認・心肺蘇生訓練	対象者

・インドネシア技能実習生の細やかなサポートにより初級試験に合格（2名）

・中途採用（介護職）に関しては、主に求人広告・ハローワーク・成果報酬型求人サイトをメインに活動を行う。ハローワークからの採用が0件、求人広告からが3名ホームページからが0名、リファラルが3名、人材紹介会社からが1名、成果報酬型サイトからが3名。介護職だけでなくその他の職種、復職者も含めると合計17名の採用を行った。また、退職者の傾向として、人間関係・給与や待遇などに不満を持たれ退職される方も複数名確認する。他にも、ハラスメントによる退職も見られた為、関係性の構築・教育に力を注ぎ、退職率を下げ定着率をあげる事も必要である。

・新卒採用については、過去の情報（卒業校）を元にご紹介下さった高校の推薦人員を増やし学校に案内を行う。求人票については、各施設の特徴や強みを出し高校生にも理解が出来るよう工夫を凝らした。その他、介護実習の受入れについては、コロナ禍ではあったが、積極的に受け入れていたが、在校生の就職率が下がっており進学を選択される生徒が増加しているとの事で、実習生が就職されることはなく、結果、弥勒園1名、吉祥園1名、ケアハウス大慈2名、智音園0名、合計4名の獲得が叶った。しかし、各施設1名以上獲得出来なかった事を考えると、ブランディング・広報活動等にもっと注力すべきであったと反省点が残る。

③働きがい メンタルコーチと共にチームビルディングを実践

- ・ホームページの集客人数20%UP
 - ・大規模修繕計画、予算に基づいた、改修工事
- 【令和4年度環境整備計画予定】
- 1) ゾーニング改修工事（面会室）
 - 2) 看取り環境の整備・多床室プライバシー確保
 - 3) Wi-Fi ネットワーク構築・介護機器のICT化
 - 4) その他（設備関連工事等）



・ホームページの集客分析として数値の大幅な増減はないが、令和3年度と比較すると増加傾向にある。（セッション数+1284、ユーザー数+515、ページビュー数+452）その理由として挙げられるのが、Instagramを7月に開始し広報活動を行った事とブログの更新を頻繁（月平均3.9件）に行った事が考えられる。しかし、コロナ感染者の発生等もあり、更新が出来ない時期がありユーザー数・ページビュー数の大幅な増加が叶わなかった。結果として、数値の増加が見られたが、ホームページからの採用はほとんど出来ていない。今後、自社のブランディング・広報活動の強化・競合他社との比較・分析を行う必要があると考える。

【工事関連】令和4年度

- ・見守りセンサー等のICT機器導入(令和5年3月15日 完了)
- ・ゾーニング環境及び面会室の整備/補助金額¥19,000,000(令和5年3月15日 完了)
- ・看取り環境の整備/補助金額¥3,500,000(令和5年3月15日 完了)

- ・感染症予防及び拡大防止に伴い簡易陰圧装置の導入/補助金額¥9,570,000(弥勒・吉祥・SS)
(令和4年12月23日 納品)
- ・天井照明のLED化【会議室相談室等・1F居室・3F談話室、廊下等の共有部・1F3F浴室】
(令和5年3月完了)
- ・3F寮母室の改修工事、静養室の整備(令和5年3月15日完了)

④地域貢献 介護予防と介護の魅力を伝える

- ・地域に積極的に出向き、友達を10人つくる
- ・要援護者支援センターとして地域の防災訓練・福祉避難所訓練に年に1回参加する
- ・災害発生時に地域の方をスムーズに受入が出来るよう、基幹福祉避難所開設訓練を年1回実施する
- ・学生を対象としたレジェンド発表会を開催し介護について考える教育機会をつくる
- ・地域向けレジェンド発表会を開催し、介護で困っている方のサポーターとなる



- ・基幹福祉避難所開設訓練を実施しマニュアルの確認・備蓄の点検・対策上の疑問点や問題点を解決した。
- ・地域サポート施設として地域での福祉活動(生きがいデイサービス・健康教室・移動支援)を再開できた。
- ・認知症サポーター養成講座も再開でき、地域のサポーター増加に寄与できた。
- ・地域や学生を対象にしたレジェンド(施設サービスの取り組み)発表会の開催は出来なかった。

⑤新しいことにチャレンジ

- ・Beauty Dayの実践。化粧やおしゃれな洋服を着て美しくなることで、心身の健康増進を図る
- ・他業種と協力して商品開発を行う
- ・「大慈園で〇〇がしたい」等、思いや考えを集めるBOXを設置し、実践することで未来を変える
- ・企画立案件数10件と実施率100%
- ・アロマを使用する

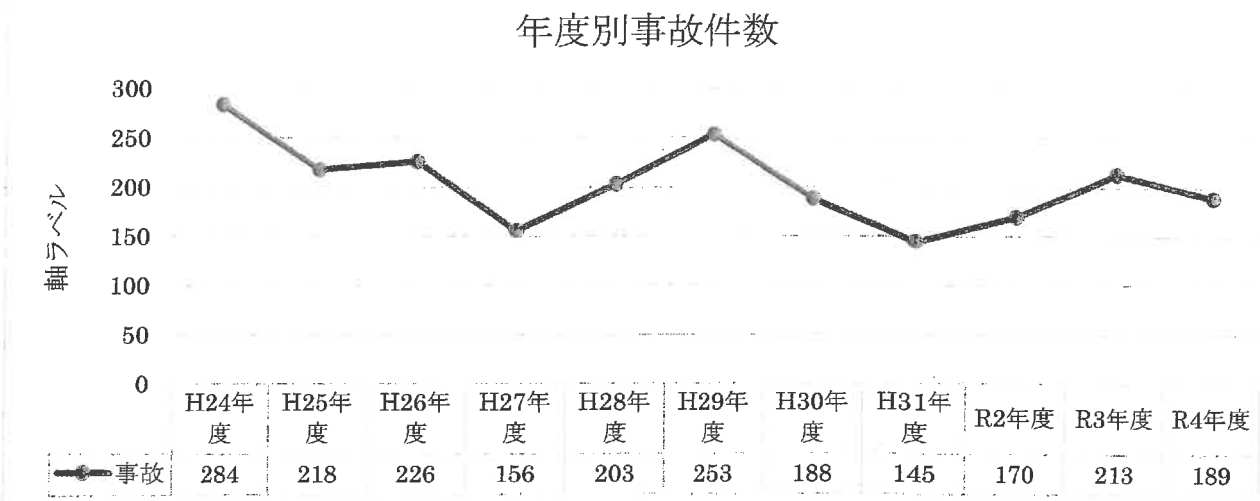


- ・BEAUTY DAY、アロマの活用、アニマルセラピー、断捨離、手品、意見BOX、アイデアを募る、メンタルヘルス(職員のための保健室)、全員が楽しめる(社食)、発信の実施。
- ・BEAUTY DAYではご家族様にも利用者様の美しくなった姿を見て頂き、大変喜んでいただきました。また全国老人福祉施設協議会のフォトコンテストでは、一昨年の実施時の写真が優秀賞となった。
- ・意見BOXの活用を行い、次年度に向けた動きもスムーズに取ることが可能となった。
- ・看取り利用者様の居室にアロマを設置し、穏やかに過ごして頂けるようなサービス。
- ・目標としていた、企画件数16件に対し10件実施(実施率62.5%)、一昨年よりは約2倍の実施率。メンバーが増えた点や、イベント実施時にチームメンバー以外のサポートがあったため実施率の上昇が考えられる。

4. 《リスクマネジメント報告》

①報告件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

○年度別事故件数

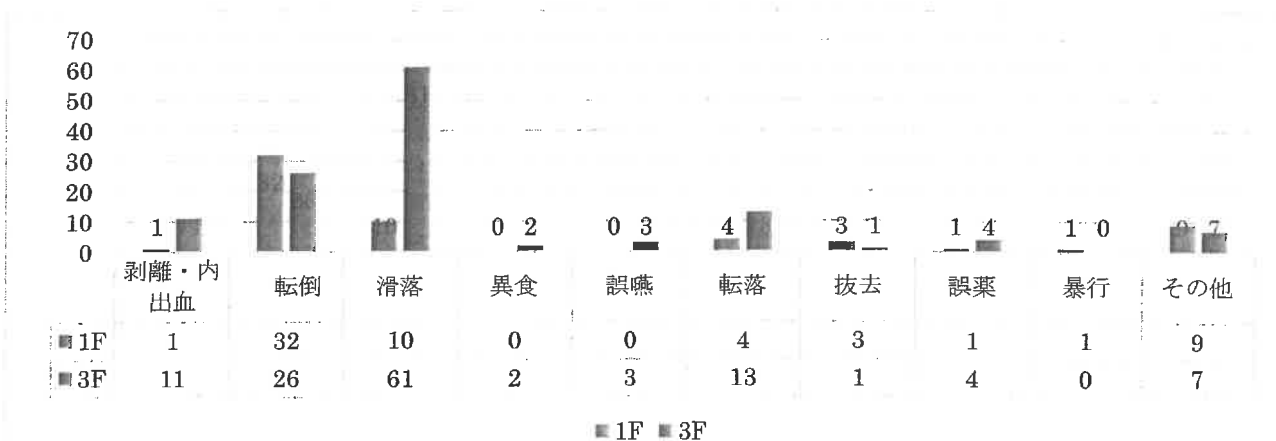


○フロア別内訳

令和3年度				令和4年度			
	合計件数	事故	ドキドキ		合計件数	事故	ドキドキ
1F	2501件	80件	2421件	1F	1739件	61件	1678件
3F	4257件	133件	4124件	3F	3919件	128件	3791件

③発生内容別件数

○事故内容



④リスクマネジメントまとめ

前年度と比較して1F・3F共に、事故件数に大きな変動は見られない。種別としては転倒・滑落事故が圧倒的に多く、センサー等の設備は整っているが、見守り不十分である等が要因として考えられる。今後の対策として、職員が連携し、事故に対する意識レベルの向上を目指す必要がある。また、設備は整ってきており、眠りスキャンも導入された為、最大限に活用して事故防止に努めていきたい。

5. <<苦情・相談結果報告>>

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

令和3年度				令和4年度			
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
1F	2件	0件	2件	1F	0件	0件	0件
3F	4件	0件	4件	3F	0件	0件	0件

○苦情相談まとめ

特になし

6. <<新型コロナウイルス感染症報告>>

○発生件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

令和4年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等 (見込み含む)
1F	15件	31件	¥1,701,357	¥4,920,000
3F	10件	0件		

○新型コロナウイルスまとめ

- ・毎日リモート会議を行い、感染状況の把握、予防や対策について決定又は周知を行った。
- ・発生時の対応フローチャート作成及び事業継続計画（BCP）作成し、シュミレーションを実施。
- ・応援派遣時の対応フローや職員の宿泊場所等の情報収集の実施。
- ・クラスター発生時の応援派遣体制の構築と、応援派遣職員に対する防護服等の着用に関する研修とマニュアルの作成。
- ・定期的な抗原検査の実施。
- ・11月9日特養プラム棟のゲストに陽性者を確認。後、最後の陽性者が療養期間を終了したのが12月1日であり、約1カ月間、施設内にて療養者の感染対応を行った。その間、他者との接触を軽減、居室内で過ごす時間の増加等の感染拡大防止対策を行った結果、ゲストのADL、生活の質低下に多大なる影響を与えたと感じている。

【補助金・見舞金】

- ・介護事業者等サービス継続支援事業(神戸市)、新型コロナウイルス感染症対応医療機関支援事業(神戸市)、健康管理支援補助金(兵庫県)、神戸市老人福祉施設連盟

7. <<総括>>

1年間を通し、新型コロナウイルスのクラスター発生等、緊急を要し不安や困難を感じる様々な場面があった。また昨年度に引き続き、感染症まん延防止策を徹底する中で外出の自粛要請、イベントの中止、面会禁止（オンラインの使用）等を受け、ゲスト・職員ともに生活に大きな影響があったと感じる。

しかし、数々の不安や困難とは対照的に、チームプロジェクトを進め、地域貢献事業、広報活動、設備工事（ゾーニング改修工事・ICT設備導入工事等）、職員満足やゲスト満足を高めるための取り組みを実践してきた。次年度においても「緊急ではない重要なこと」にフォーカスを置き、

行動目標を決め、職員一人一人が目標に向かって行動し、各職員間のコミュニケーションの質を大切に行う。そしてご利用者満足を高めたい。

令和4年度 事業報告書

大慈ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和4年度重点目標・行動計画>

『強みを作ることで新たに利用したいと感じるサービスを提供する』

①行事・レクリエーション・リハビリ等、参加したいと思える活動を推進

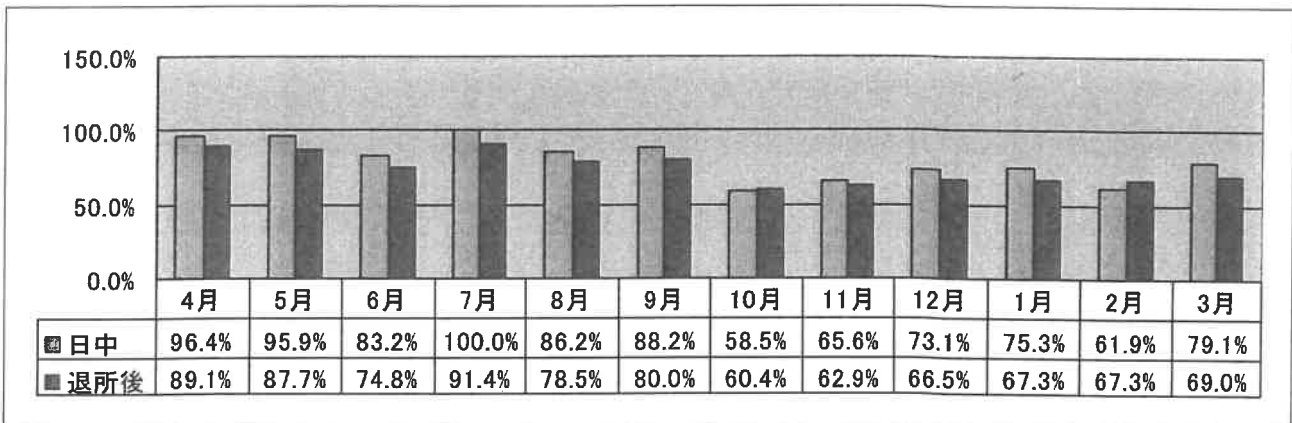
毎朝の全館放送のラジオ体操、機能訓練指導員による個別機能訓練や集団体操、看護職員による口腔体操は継続しゲストの日課となっている。次年度はYouTubeなどを活用しゲストが自分の意思でしたいことを選択し楽しい時間を過ごせるように努めたい。

② 在宅介護で困っている方への手を差し伸べる（介護相談・地域貢献）

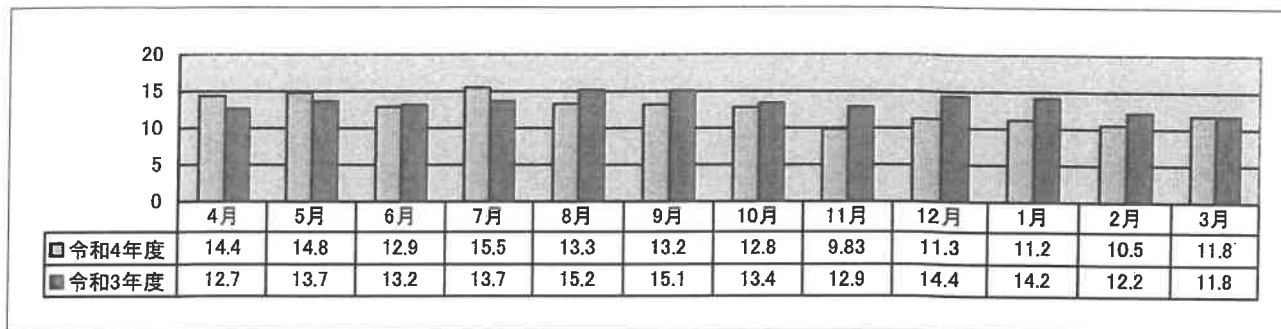
施設生活だけの困りごとではなく、自宅に戻ってからの生活を考えた介護方法を多職種と訪問し一緒に考えることが出来た。現場職員の意識もゲストが自宅に戻ってからの生活も大切であることも意識出来ていると考える。今後も現場職員がご家族へのご説明や、コミュニケーションが図れるように、送迎時の工夫を行い、困りごとや不安の解消に努めたい。

○充足率→日中81.01%、退所後74.13%

(前年平均 日中83.27%、退所後75.79%)



○利用定員：15名 平均人数→日中12.6人、退所後11.4人
 (前年度平均 日中11.5人、退所後11.2人)



●介護度別年齢別等人数表 (3月31日時点での実人数)

要介護度	令和3年度				令和4年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	3	0	3	93.3歳	1	1	0	85.4歳
支援2	0	0	0	歳	4	1	3	88.3歳
1	24	1	23	89歳	19	5	14	85.8歳
2	52	8	44	84.2歳	72	30	42	81.0歳
3	114	51	63	82.6歳	140	47	93	90.7歳
4	86	18	68	85.8歳	88	28	60	87.4歳
5	82	18	44	81.6歳	48	28	20	87.4歳
合計	361	116	245		372	140	232	
平均介護度		3.8	3.2	3.4		3.5	3.0	3.2
平均年齢		80.4歳	85.4歳	82.9歳		80.02歳	85.24歳	83.42歳
最高年齢		94歳	99歳			96歳	101歳	
最小年齢		63歳	59歳			64歳	59歳	

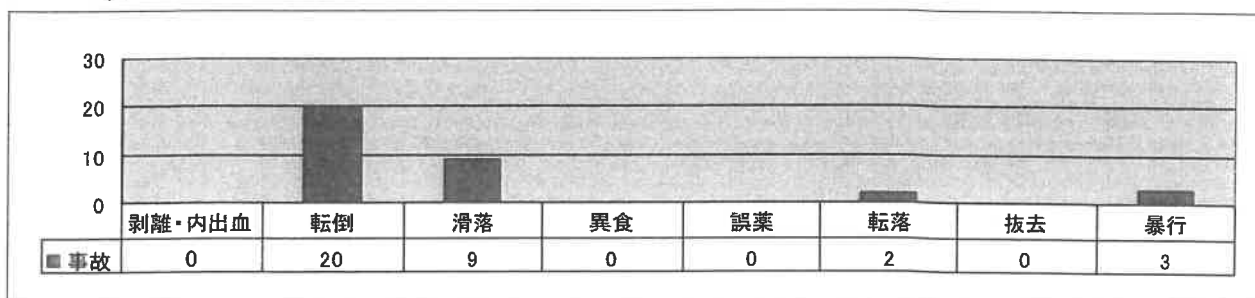
3. <リスクマネジメント報告>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

①報告件数

	令和3年度	令和4年度
事故件数	31件	34件

②発生内容別件数



③まとめ

転倒や滑落事故が増えている。歩行はできないが車椅子で活発に移動される方や認知症の周辺症状等で事故に繋がってしまうケースが増えている。転倒リスクの高いゲストの動向を把握し職員間で周知することで事故予防に努めていく。また周辺症状からくる暴言・暴力に関する事故も増えており環境の変化等により心身が不安定になったことから発生したことが考えられる。今後はゲストの相性なども考えリスクの低い環境を作ることを優先し再発防止に努める。

4. <苦情・相談結果報告>

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	3件	0件	3件		2件	0件	2件

○まとめ

ゲスト・家族のご要望を真摯に受け止め誠実に対応することが出来ていなかったことで不信感や混乱をまねいた。ご家族にご説明を丁寧に差し上げ、理解して頂けることを心がけ、誠意を込めた対応に努めたい。

5. <新型コロナウイルス感染症報告>

○発生件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

令和4年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要 した費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等 (見込 み含む)
ショートステイ	1件	2件	¥478,200円	¥986,280円

○新型コロナウイルスまとめ

11月10日ショートステイゲストに陽性者を確認。同時に併設である特養ゲストのクラスター発生を確認し、12月1日に療養期間終了となる。コロナ対策として、新規利用者の受け入れ停止を行い、施設内にて療養者の感染対応を行った。その間、他者との接触を軽減、居室内で過ごす時間の増加等の感染拡大防止対策を行った結果、ゲストのADL、生活の質低下に多大なる影響を与えたと感じている。

【補助金・見舞金】

- ・コロナ禍における物価高騰対策福祉施設等緊急支援事業給付金
- ・新型コロナウイルス感染症対応医療機関支援事業

6. <総括>

令和4年度新規契約者は61件であり、昨年と比較して24件増加、日中充足率平均81.1%となっている。新規契約は増加しているが充足率増加にはつながっていない。令和4年11月～令和5年1月のコロナ感染拡大が大きく影響したことやロングショートを受け入れや定期利用の受け入れが迅速に出来なかった事が充足率低下につながった。また、感染拡大時に受け入れが出来ず定期利用の方も数名他施設に移ってしまった。しかし感染対策で入所時前に検温の徹底や問診票の記入をして頂くことを継続しご家族にも感染対策の意識も高く持つて頂くことができた。今年度の新規契約者も大きく増加していることか

ら来年度も新規契約者を積極的に受け入れるために、特養空床利用の有効活用や特養入所希望者からロングショーの受け入れや、各事業所に空床の情報などを広め安定した充足率向上に繋げていきたい。

1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、要援護の高齢者がより自立的な生活を可能な限り自立して安らかに営むこと、社会的孤立感を解消すること、心身機能の維持、向上を図ることを目的として高齢者自身を援助することの他、介護する家族の身体的・精神的負担を軽減できるよう努力し、在宅での介護が中心となるデイサービスの利用者に対し、ケガ・事故のない様に細心の注意を払い、より良い環境でのサービスを提供していく。

2. <令和4年度重点目標>

『在宅生活の支えとなるデイサービスの構築』

3. <部門別目標>

①多職種連携と介護力の強化

昨年度に比べ、中重度者(要介護3～5)の割合が増加。(令和3年度：53.2% 令和4年度：56.2%)

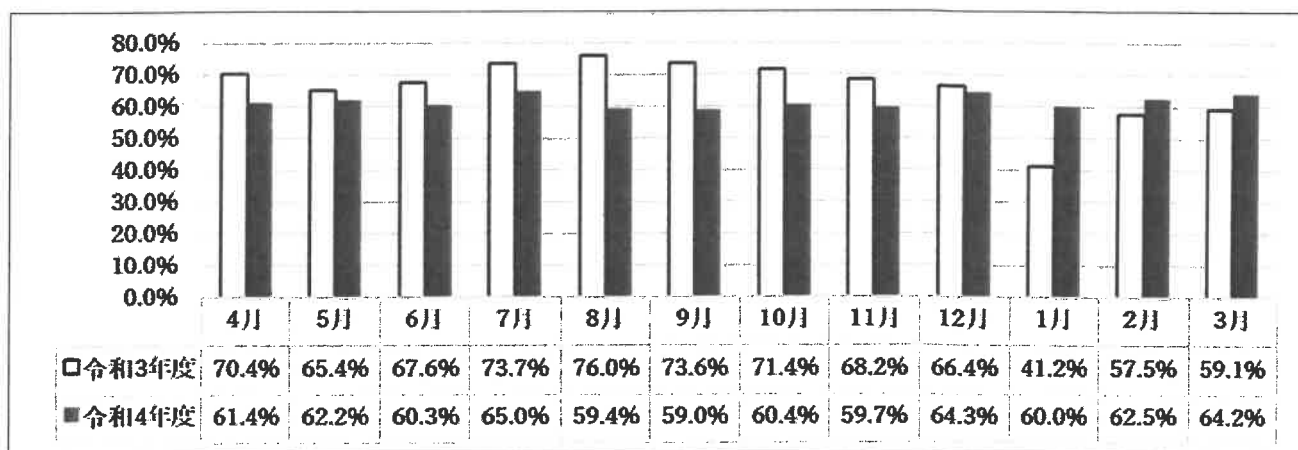
福祉用具(フレックスボード等)の活用や機能訓練指導員によるOJTが増えた事で、利用者様及び職員の負担軽減や介護技術の向上にも繋がっている。

前年度同様、多職種との連携において活用しているラインワークスについても、情報共有及び対応の遅れも減っている。

次年度についても、引き続き研修会の定期開催や多職種連携による知識・技術の向上に取り組んでいきたい。

②広報活動の推進と営業方法を変更

●充足率推移 (%)



●介護度別年齢別等人数表 令和5年3月31日時点での実人数

要介護度	令和3年度				令和4年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	5	2	3	85歳	5	2	3	85.4歳
支援2	2	1	1	90.5歳	2	1	1	88.3歳
1	11	7	4	86.4歳	7	4	3	85.8歳
2	11	3	8	88.5歳	9	2	7	81.0歳
3	7	1	6	89.1歳	6	2	4	90.7歳
4	6	4	2	83.5歳	5	3	2	87.4歳
5	8	4	4	83.1歳	10	5	5	87.4歳
合計	50	22	28		44	19	25	
平均介護度		2.7	2.4	2.5		3.8	3.4	3.5
平均年齢		83.3歳	89.9歳	87.1歳		82.1歳	89.8歳	87.3歳
最高年齢		71歳	100歳			93歳	98歳	
最小年齢		69歳	96歳			63歳	59歳	

新規利用者数：25名 体験利用者数：40名 問い合わせ事業所数：11事業所
 前年度新規利用者数(15名)を10名上回り、事業所数も増加傾向にある。
 パンフレットの作成及び営業活動により、新規事業所からの問い合わせ件数も増加している。
 次年度においては、運営会議にて課題分析及び強みの開発と営業活動を中心に、大慈デイサービスセンターの取り組みを地域へ発信できるようにしていく。

4. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

○年度別報告件数

	令和3年度	令和4年度
事故件数	8件	5件

②発生内容別

剥離・内出血	転倒	滑落	事故・その他
1	3	0	1

○リスクマネジメントまとめ

前年度同様、転倒事故件数が半分以上を占めている。重大事故(骨折)に繋がったケースもあり、アセスメント及び支援の方法を部署内で共有し、事故防止及び件数の減少を目指したい。

5. <<苦情・相談結果報告>>

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告 件数	合計件数	苦情	相談	報告 件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		3件	0件	3件

○苦情相談まとめ

利用前の情報や利用後しばらくご利用して頂く中での情報のズレによる件数が多かった。次年度においても、利用者様・家族様との関りの機会を増やし、情報共有を徹底していく。

6. <<新型コロナウイルス感染症報告>>

○発生件数

令和4年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
DS	0件	4件	¥52,200円	¥ 276,160円

○感染まとめ

新型コロナウイルス感染者の発生に伴い、休業はしていないが、自粛希望者は数名あった。休業に至らなかった背景としては、感染症対策による蔓延を回避できたことがあげられる。次年度においても、感染症対策を徹底し、事業の継続につとめる。

【補助金・見舞金】

介護事業者等サービス継続支援事業(神戸市)

7. <<総括>>

目標としていた充足率80%達成及び維持には至っていない。新規利用者と並行して入退院及び登録終了者も多く、安定しなかった。しかし、在宅生活を支える上でのご家族への情報提供や関係事業所との連携もでき、職員の技術向上等、上手くいった部分も多かった。次年度においては、事業所内での強みの検討や営業方法の見直し及び地域との繋がりを目標とした行動計画をたて、事業目標の達成を目指す。

令和4年度 事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和4年度重点目標・行動計画>

『コミュニケーションを重視し、信頼関係を構築させる』

① 笑顔になれることを考え実行する。(月1回はニコニコツアー実施)

今年度は新型コロナウイルス感染症の発生が4月・7月・11月と3回あり、コロナが始まった3年間で一番職員・ゲスト共に疲弊することが多い1年であった。その中で何とか行事や外出が出来る方法を考えたが、感染者が出た際の恐怖を知っているだけに積極的に動くことが出来なかった。年度末が近づくにつれ、少しずつ緩和され、買物ツアー再開や外食ツアー、園庭散歩に出て行く事が出来たのは良かったと思う。この1年は笑顔になれることを考える事ができずコロナの対応に追われたが、来年度は慰問や外出行事等を企画し実行していきたい。

② 自分の事、相手の事を大切にする。

コロナ感染発生により部署内で協力し合って早い収束を目指し、お互いの事を考え、一致団結して動けた。ゲストに対してはコロナ収束が一番になってしまい対応をもっと検討すべきであった。ゲスト同士のもめごとが多く、職員が間に入らなければならないことが増え、ゲストにとっても閉鎖された空間ですっと生活するのは、かなりのストレスになっていたのではないかと思われる。

③ 会議への参加率増。

職員・処遇の部署会議についてはコロナ感染者発生により開催できない月もあったが、昨年度よりリモート参加が出来るようになり参加率が増加した。職員会議・処遇会議を別日に実施していたが、一緒にするようになり効率的に会議を進めることができた。

今年度は行事が少なく、ブログなどの掲載が少なくなってしまったので来年度は、より多くの行事をして園のいいところを発信して行きたい。

3. 令和3年度月別充足率表

○充足率推移 (%) 定員 70名



~ 1 ~

待機者がいないまま年度が始まり6月に満床となる、11月にコロナ陽性者を確認後、コロナで亡くなった方は1名であるが、その後、退居1名、看取りの方が4名、急変で亡くなった方の2名の退居が相次ぐ、退居となる前から役所へ入所希望者の問い合わせを行うが、全体的に相談件数が減っているとの返事であった。今年に入り、あんしんすこやかセンターに養護老人ホームの入所の窓口と特色を知らせに回るがスムーズな入居には繋がらなかった。今年度の充足率89.6%という結果に終わる。このような状況は今後も続くと思われるが、契約入所も検討しながら満床になるよう努力していく。

○入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和年度	6	8	24	22	7	0

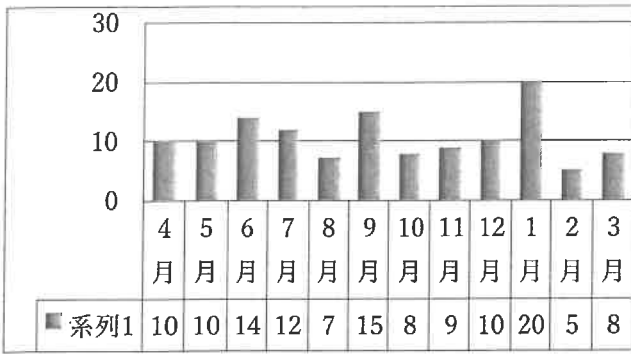
○介護度別年齢別等人数表

令和4年3月31日時点での在籍数

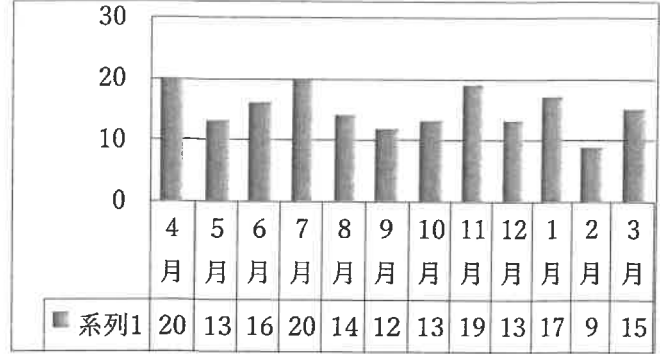
介護度	令和3年度				令和4年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
非該当	6	2	4	83.0歳	5	2	3	85.8
要支援1	10	3	7	83.7歳	8	2	6	83.5
要支援2	3	1	2	83.5歳	3	0	3	91.3
要介護1	20	3	17	83.5歳	18	6	12	84.9
2	15	4	11	87.0歳	13	4	9	85.2
3	7	1	6	88.7歳	10	2	8	86.7
4	5	2	3	85.1歳	5	1	4	87
5	3	0	3	88.5歳	5	1	4	89.6
合計	69	16	53		67	18	49	
平均介護度		1.7	1.8	1.7		1.8	2	1.9
平均年齢		82.9歳	86.9歳	86歳		83.1歳	86.9歳	85.9歳
最高年齢		92歳	98歳			93歳	99歳	
最小年齢		71歳	73歳			72歳	74歳	

4. 《リスクマネジメント報告》

令和3年度月別事故発生件数



令和4年度月別事故発生件数



①報告件数

令和3年度	令和4年度
128件	181件

②発生内容別件数

○事故内容

転倒	107件
剥離・内出血	6件
転落	2件
異食	0件
暴行	5件
滑落	43件
誤嚥	5件
誤薬	6件
その他	7件

③リスクマネジメントまとめ

前年度と比較すると大幅に件数が増えている。発生内容別では居室での転倒事故が最も多い。コロナで閉鎖となり、居室で過ごす時間が増え、活動量の低下とともにADLの低下につながった。また普段であれば、見守りの環境で過ごしている方が、居室で過ごすことになると環境面での対応が難しく、センサー反応で訪室するが、間に合わず転倒や滑落を起こしてしまうことが多く見られた。

転倒防止の対策も対策となっていないものもあるため、職員会議等で検討する場所を作り、全員が対策を考えられるようにしていく。次年度は、転倒や滑落の件数を減らす目標をたてる。

4. 《苦情・相談結果報告》

報告件数

報告件数	令和3年度			令和4年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	17件	1件	16件		15件	5件	10件

まとめ

同じ方からの相談やコロナでの対応についての苦情が多かった、ゲストの居室対応や面会中止での双方のストレスを多く感じた。その他は養護特有の利用者のトラブルもあり、お話を聞くことで対応できた、日頃からの関りが重要で、関係作りができれば、苦情にもつながらないため、次年度も相談のうちから傾聴することで日常のコミュニケーションを大切にしていく。

5. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
12件	29件	¥2,461,943	¥5,743,000

○新型コロナウイルス感染症まとめ

- ・感染会議を朝礼で行い、感染状況の把握、予防や対策について決定又は周知を行った。
- ・令和4年度は、4月、7月、11月とクラスターが発生し、合計ゲスト29名、職員12名が新型コロナウイルス感染症に罹患する。当初に比べると軽症の方が多くはなっているが、2名が重症化しお亡くなりになられた。
- ・クラスターが発生する事で、ゲストには居室で過ごす行動制限、人と交流する機会もなくなり精神的にもダメージが多く、職員も業務量の増加による疲労とコロナに罹患するかもという不安との闘い、ケアやサポートも十分に提供できる内容でなく、ゲスト、職員ともにストレスの毎日を過ごしていた。基本的な感染対応は行いながらではあるが、第5類への移行を機に施設での対応も変化していくので、ゲストに笑顔の機会が増えるように次年度は取り組んでいく。

《総括》

今年度もコロナの対応にゲストや職員は、多大なストレスを感じる一年であった。コロナによる死亡者だけでなく、看取りや退所で合計8名の退所があり、入所は6件となった、待機者もなく、区役所等に連絡を入れるが、スムーズな入所にはつながらなかった。結果、充足率は89.6%であった。各区のあんしんすこやかセンターに挨拶に回り、養護老人ホームの特色や窓口を知らせて回った。引き続き、来年度も挨拶に回り、スムーズに入居につながるよう努力していく。大慈吉祥園での行事や計画は、クラスターが発生している期間以外は、規模は小さいが交流する場所や外出等は企画実行することも出来た。次年度は、コロナが5類へと移行し、これまでの対応とは異なるため、コロナが発生しても影響が最小限で運営が行えるように変えていく。

令和4年度 事業報告書

指定特定施設入所者生活介護事業所 大慈吉祥園

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和4年度重点目標・行動計画>

『コミュニケーションを重視し、信頼関係を構築させる』

※大慈吉祥園に準ずる

3. <職員体制>

管理者 1名	介護支援専門員 1名（吉祥園の相談員兼務）	支援員 6名
	相談員 1名（吉祥園主任相談員兼務）	

令和4年度 事業報告書

ヘルパーステーション大慈

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和4年度重点目標 行動計画>

『コミュニケーションを重視し、信頼関係を構築させる』

※大慈吉祥園に準ずる

3. <職員体制>

管理者 1名	サービス提供責任者 3名 (訪問介護兼任)	訪問介護職員 4名
--------	-----------------------	-----------

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、入居者の居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. 《最終目標》

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. 《令和4年度 施設の目標》

① レクリエーションの充実（各フロアでの行事などの楽しみづくり）（お楽しみ喫茶）

大きな行事としてはコロナ渦のため中止としたが、今年度は、智音祭りを音楽会として職員間の感染対策も検討した上で、フロア毎で実施し、ゲストの多くの笑顔を引き出した。又、個別のレクリエーションは、各フロアで事前にレクリエーションを計画する事で実行へ繋げた。前年度には無かった、喫茶やフロアで調理師が調理を実演するレクリエーションも実行する事が出来た。

② マナー向上（きれいな言葉と笑顔の提供）

毎月、マナーチェック表として「ゲストが自分を大事にしてくれていると感じて貰える～」を実施出来たかどうかのアンケートを、各個人の振り返りとして実施した。振り返って貰う事で、施設として大切にしている事が、浸透出来たと感じられる。又、各個人の悩みや対応で困っている事や他部署から見た疑問等も記入出来た事で、問題を放置せずに話し合える体制となった。

③ チーム作り（信頼関係を構築）

チームコーチングを取り入れた。1月からは、さらに新たなチームコーチングを取り入れ、施設の目指す将来像とその為に、今すべき事を考える機会となっている。又、職員間の信頼関係作りの足掛かりとなっていると感じられる。

④ 生活機能状況確認・対応指導（ポジショニングの指導、生活リハビリの指導）

入院によって長期臥床時間が強いられて退院されたゲストの機能低下は見られたが、帰園時に機能状態観察実施する事で、入院前と状態変化が大きく見られないゲストに対しては、生活機能の維持は、日常生活対応（残存機能活用）指示・実行する事で比較的維持は図れている。また退院時にレベル低下が見られるゲストに対しては、臥床時・坐位時のポジショニング（安楽な姿勢・拘縮進行防止・褥瘡形成防止等々）、日常生活内動作対応（サポート面）の変更等を指示・実行する事で進行を抑える事を現場職員で取り組んでいる。通常ゲストに関しては、日常生活内においての残存機能を活用した生活内動作（整容・口腔・洗髪・排泄・入浴動作等々）を実施する事で、過剰に介助に入るケアを最小限に抑える事で、ゲスト個々の機能維持を図る事が出来ている。

⑤ 利用時の健康管理・情報の提供（家族との情報の共有）

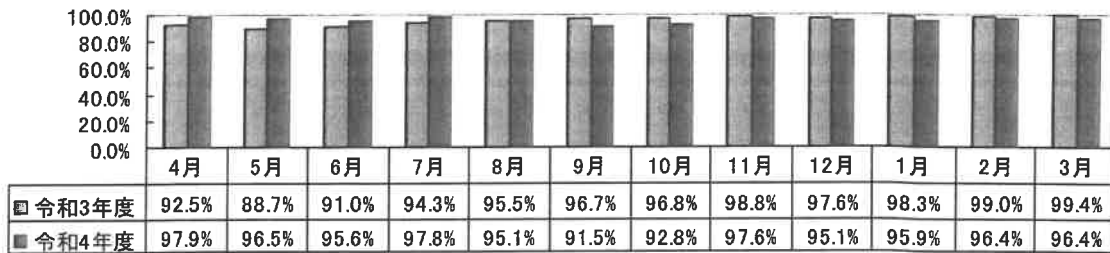
ご家族との情報共有に関しては、コロナ禍であった事もあり、情報共有は難しく感じられた。その為、毎月、施設でお過ごしのご様子を写真でお撮りし、職員コメントと共にご家族に送付する事を継続して続けた。笑顔のお写真を見る事で、ご家族よりお喜びのお声をたくさん頂けた。

4. 《経営部門》（定員70名）目標：充足率98%

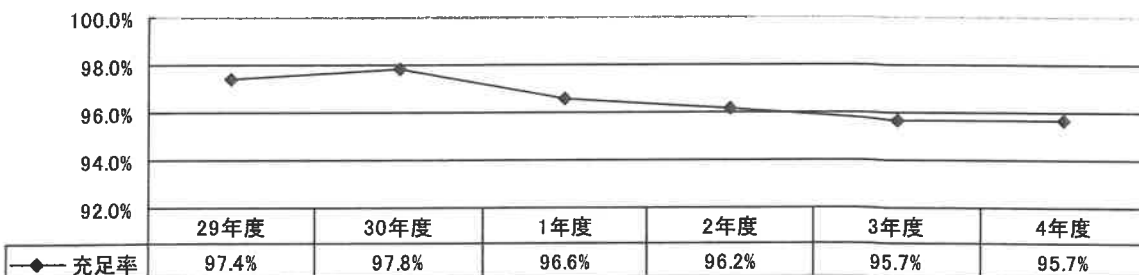
目標は98%であったが、95.7%にとどまった。理由はコロナ発生により、8月、1月と新入居受け入れが中止となったことが要因と考える。9月には、初めて入居者の紹介会社も利用し新入居獲得に努めた。

入院された方の退院待ちをする事で、稼働率が悪くなり、さらに、退院が出来ないという状況がみられる事があったので、多くの施設を持つ法人である強みを生かし、法人間で、協力しあえる話し合いを行う事で、今まで使用できなかったお部屋の利用によって充足率UPに繋げられる様に努めた。

○令和3・4年度月別充足率表



○※1 年度別充足率推移



○※2 入退所等内訳表（人）（延）

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和3年度	32	31	32	27	27	0
② 令和4年度	24	13	35	20	10	0
増減②-①	-8	-18	3	-7	-17	0

○介護度別年齢別等人数表

令和5年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間31月（男性23ヶ月、女性34ヶ月）

最高滞在期間95ヶ月

要介護度	令和3年度				令和4年度			
	合計 人数	男	女	平均	合計 人数	男	女	平均
1	0	0	0		0	0	0	
2	1	0	1	92	1	0	1	93
3	25	7	18	88.4	29	10	19	87.8
4	28	5	23	87.5	23	4	19	87.6
5	16	3	13	82.8	17	5	12	85.1
合計	70	15	55	86.8	70	19	51	87.1
平均 介護度		3.7	3.8	3.8		3.7	3.8	3.8
平均年齢		83.7	87.6	86.8		83.7	88.6	87.1
最高年齢		97	101			98	101	
最小年齢		64	71			65	71	

5. <<OFF-JT>>

日付	研修内容	参加人数
6/29	感染委員会から感染者対応・カスタマーハラスメントについて	10名
9/20	リスクマネジメント（薬関係の事故を無くす為に）	7名
10/25	リスクマネジメント（服薬に対しての意識改革）	8名
11/30	感染委員会より（尿路感染症を減らす取り組み、陰部洗浄について） 勉強会（介護現場で使えるコミュニケーションスキルについて）	8名
2/15	リスクマネジメント（服薬に対しての意識改革）	26名
2/17	看取り介護、オンコール対応時の留意点	9名
3/29	労働衛生 身体拘束 次年度の事業計画について	6名
10/1より複数回	コンプライアンス・高齢者虐待防止研修 身体拘束の適正化に関する研修	59名

6. <<年間実施行事>>

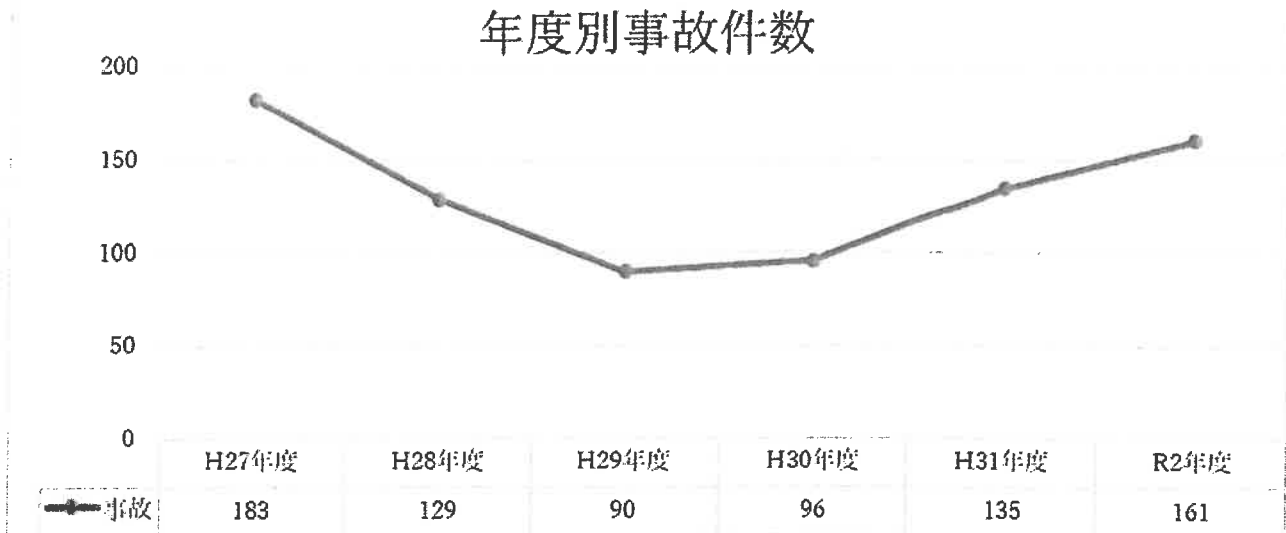
月	年間行事	
	施設内行事	
4月	花見弁当	巻き寿司とエビフライを弁当箱に入れて提供した。寿司と揚げ物が両方あり喜ばれていた。
5月	母の日（おやつ）	マフィンにホイップクリームとカラーチョコをトッピングして提供した。ご自身でトッピングされ、楽しまれていた。
6月	父の日（おやつ）	コロナ感染防止にて、実施できず。

7月	七夕 (ちらし寿司)	ちらし寿司を提供して、いつもと違った寿司に美味しいとの声が多く聞かれた。
8月	夏のそうめん	コロナ感染防止にて、実施できず。
9月	敬老の日 (巻き寿司)	巻き寿司といなり寿司を提供し、2種類の寿司を楽しんでいただいた。おやつに焼き芋を提供して、熱々の芋を美味しく召し上がっていた。
10月	秋の味覚行事 (土鍋ご飯)	フロアで季節の竹の子ご飯を土鍋で炊いた。炊きあがるとフロア全体にいい香りがして、喜んでいただいた。
11月	冬の土鍋雑炊	フロアで雑炊を炊いて提供した。出汁の香りで出来上がる前から楽しんでいただき、召し上がられてからも味に満足いただいた。
12月	クリスマス会 クリスマスランチ プリンデコレーション 年越しそば	コーヒー牛乳プリンに、ホイップクリームとチョコスプレーをトッピングして提供した。ゲストにトッピングしていただき、楽しんでいただいた。
1月	おせち 七草粥 鏡開き (ぜんざい)	おせちは具材がたくさんあり、豪華だと喜んでいただけた。 七草粥は普段ご飯のゲストも粥を提供したため、いつもと違う食事に喜んでいただいた。 鏡開きのぜんざいは、甘くておいしいと好評だった。
2月	節分 (巻き寿司) バレンタインデー (チョコレートケーキ)	節分には錦糸卵で巻いた巻き寿司を提供した。食べやすく美味しいと、喜んでいただけた。 バレンタインにはチョコレートケーキを提供して、甘いケーキを召しあっていた。
3月	ひな祭り	ひな祭りはいなり寿司を提供した。スルー食にはあげを刻んで盛り付けて、稲荷寿司を味わっていただいた。

7. <リスクマネジメント報告>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数



	令和3年度	令和4年度
事故件数	141件	158件

② 発生内容別件数



③ リスクマネジメントまとめ

前年度と比較して全体の事故件数は増加。増加した要因としては特定ゲストが1日に数回転倒されることが複数フロアで発生した。対策自体も検討、実施するがあまり効果がなく、1日だけではなく、継続して事故が続いたことが大きい。

上半期には薬関係の事故が多く、下半期から研修し意識改革を行うことで薬関係の事故は半分以下となった。研修に効果があったと判断し来年度も継続して実施していく。

8. <苦情・相談結果報告>

苦情の定義→4月～9月施設長が対応した物

10月～3月智音会議にて、多種職での話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	39件	1件	38件		50	7	43

○まとめ

4月から9月までは施設長が対応した物を苦情とする定義であったが、中身を重視する事とし、10月より苦情の定義を職員会議にて話し合う様にして以降は、苦情との判定が増えた。中身としては、ご家族と直接会えない事で、不信が生まれ、苦情となるケースが多かった様に思われる。ご家族の要望が大きく、出来ない対応を伝える事で、苦情となるケースもあったが、施設の対応として、謝罪すべき事は謝罪するものの、あいまいにするのでは無く、出来ない事は出来ないとお伝えする対応の大切さも痛感した。ご家族との信頼関係構築に向けて、ご家族と職員が触れ合える機会の増加に努めたい。

9. <新型コロナウイルス感染症報告>

令和4年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た 補助金
ショート	32人 (厨房2人・保育3人・医師1人含む)	5人	かかりまし人件費 (2,695,811円)	補助金 受領済(8,168,000円)
特養		13人	対策必要物品費用 (2,409,920円)	申請中(4,707,000円)

10. <総括>

今年度の充足率の目標を達成することが出来なかった。

今年度は、施設内で8月、1月と2回、新型コロナにゲストが感染されクラスターとなった。1月には、施設内で感染と同時に新型コロナのお薬(ラゲブリオ)を処方して頂け、ゲストに飲んで頂ける様になった。結果、症状も軽く療養を終える事が出来た。

常に、新型コロナによる影響を最小限におさめる事が出来る様に、事前に対策を考えるも、結果として、新型コロナが発生した際は、新入居を受け入れる事が出来ず、充足率を達成するには至らなかった。来年度は、新型コロナが第5類となる事も踏まえて、ゲストと職員の安全を守りながら、新入居をどうすれば受け入れる事が出来るのかを考えていく必要がある。

今年度も、面会制限や家族不参加の担当者会議の開催でご家族との交流機会は減ったままであった。陰圧室導入により、リモート面会からビニール越しの直接面会に移行したが、直接お会いしたいとの要望もお聞きしており、来年度は感染対策を講じた上で直接面会が実施出来る様に検討していく。

来年度は、コロナ対策に振り回されるだけでなく、再び直接触れ合う事を大切に、職員間の信頼関係、ゲスト・家族との信頼関係を深め、施設の成長に繋げる1年としたい。

令和4年度 事業報告書

大慈智音園ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、身体的な援助を行う。又、居宅における生活と利用時の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいてゲストが相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. <最終目標>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. 令和4年度 施設の目標

①レクリエーションの充実（各フロアでの行事などの楽しみづくり）（お楽しみ喫茶）

大慈智音園同様

②マナー向上（きれいな言葉と笑顔の提供）

大慈智音園同様

③チーム作り（信頼関係を構築）

大慈智音園同様

④生活機能状況確認・対応指導（ポジショニングの指導、生活リハビリの指導）

大慈智音園同様

⑤利用時の健康管理・情報の提供（家族との情報の共有）

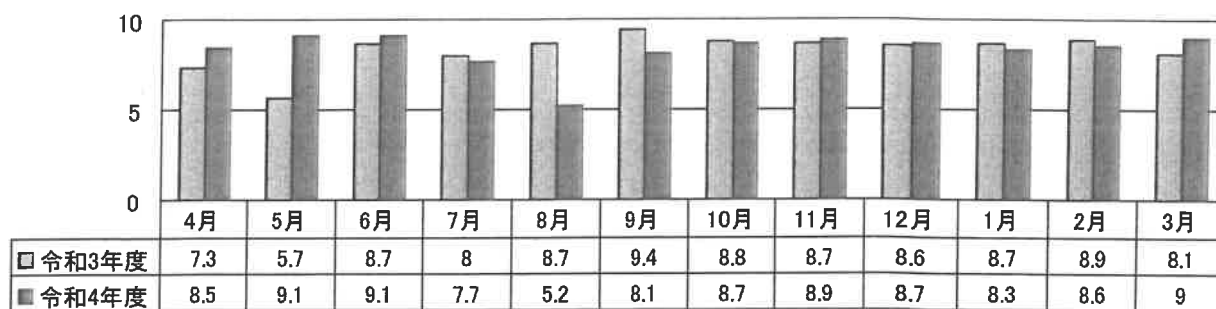
大慈智音園同様

4. <経営部門>（定員10名）目標：充足率 日中100%

日中92.9%という結果となり、前年とほぼ同水準の結果となった。昨年度同様に、8月にコロナ陽性ゲストが確認され、利用者の受入中止となった事から8月の日中利用者が53.2%となった事が大きな原因である。

ショートステイでコロナ陽性者が出てしまった際には、在宅から受入をする事は難しく、結果、コロナが収束するまでは、利用を控えて頂くしか手立てがない状況であった。

●平均人数→夜間8.3人（前年度 夜間8.3人）



●介護度別年齢別等人数表（令和5年3月31日時点での実人数）

要介護度	令和3年度				令和4年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	0	0	0		0	0	0	
支援2	8	3	5	84.3	14	6	8	84
1	29	11	18	91.5	20	3	17	93.9
2	78	17	61	90.4	73	13	60	92.8
3	58	17	41	84.8	64	29	35	90
4	59	6	53	85.7	62	10	52	88.3
5	32	13	19	88.2	40	23	17	87.8
合計	264	67	197	87.1	273	84	189	90.1
平均介護度		3.6	3.3	3.2		3.5	2.8	3
平均年齢		84.5	88.7	87.1		86.9	91.6	90.1
最高年齢		97	97			94	97	
最低年齢		64	63			75	71	

5. 《OFF-JT》

6. 《年間実施行事》

大慈智音園同様

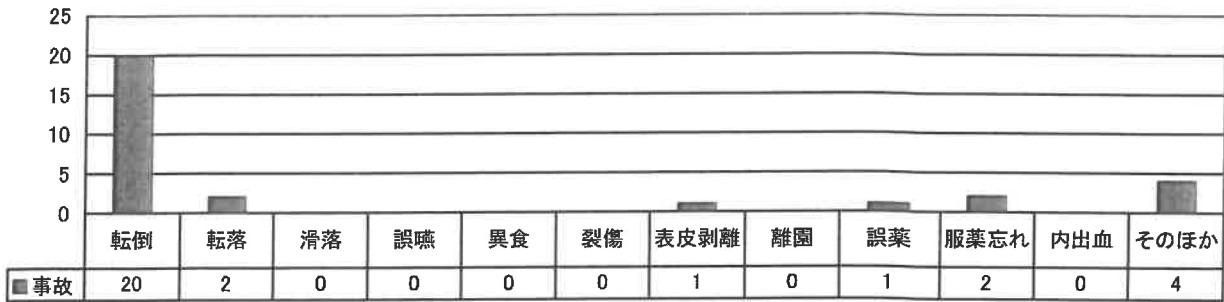
7. 《リスクマネジメント報告》

事故の定義→膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数

	令和3年度	令和4年度
事故件数	45件	30件

②発生内容別件数



③まとめ

前年度に比べて、事故件数は減少した。減少した要因としては職員のリスクに対する意識が高まり、ハイリスク者の行動を観察し見守りを行っていることが大きいと思われる。ただ、誤薬や服薬忘れ等の薬関係の事故が3件あり、職員が入れ替わるごとに服薬マニュアルやメソッドの指導が不十分になってしまい、事故発生に繋がっていると思われる。

今後はフロア内での指導育成や対策の継続実施をどのように進めていくかを重要課題として取り組んでいきたい。

8. <苦情・相談結果報告>

苦情の定義→4月～9月施設長が対応した物

10月～3月智音会議にて、多種職での話し合いの結果決定する。

○報告件数

報告件数	令和3年度			報告件数	令和4年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	14件	1件	13件		3件	0件	3件

○まとめ

苦情相談件数としては、3件であった。

ショートステイとして、苦情や相談を吸い上げる事が出来ていない可能性もあるが、ポジティブにとらえれば、前年に比べて、ご家族や利用者との話を密にする事で、多くの苦情を未然に防ぐ事も出来ていると捉えられる。

来年度については、相談の件数を上げショートステイの改善点を多く見つけ出し、苦情は0件に出来る様に努めたい。

9. <総括>

8月ショートステイと同フロアの新入居者が入居2日目で新型コロナウイルス陽性と診断があり、ショートステイでもコロナ対応をする事となった。コロナの陽性者対応については、昨年度経験した事を、十分に発揮する事ができた様に感じられる。ただ、陽性者と分かっているからの対応は上手くなったものの、陽性と分かっている状態をサポートをしている状況では、感染を防ぐ事が出来ず、利用者から職員への感染も見られてしまった。

利用者と積極的にコミュニケーションをとる事が必須とされる介護の中で、感染を防止する事は難しく、With コロナの中での感染対策の限界も痛感した。

来年度は、大慈智音園ショートステイの強みを外部に発信する事で、利用者を増やし、コロナが第5類になる為、感染防止の対応の変化を敏感に把握しながら、利用者の安全と共に、安定したご利用をして頂ける様に取り組んでいきたい。

令和4年度 事業報告書

事業所内保育事業 大慈さくら保育園

1. 《ヴィジョン》

世代を超えた関わりのもと、安心して自分を出せる子どもを育てる

2. 《基本方針》

- ① 高齢者との多様な関わりを通して、思いやりの心を育む
- ② 自然との関わりを通して、多様な経験をする
- ③ 子どもが安心して生活できるように、保護者との連携を図る

3. 《最終目標》

心・和み・笑顔 ～世代を超えた関わり、誰からも愛される園を目指します～
「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

4. 《中長期目標》

- ① 保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する
- ② 子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする
- ③ 子ども一人一人を大切に見守り、適切な援助により自主性を養う

5. 《令和4年度計画》

- ① 保育理念に基づき、環境を見直し整え、子どもの自主性を養う

少人数で年齢に応じて発達にあった対応が十分にできました。一人一人に適切な援助をし、自主性が養われており、各子どもに合った保育の大切さを実感しています。

- ② 事業所枠の園児数推移に因っては、地域枠の拡大を申請し、在園児数を増やす

事業所内枠・地域枠どちらの申し込みも少ない現状です。

- ③ 老人施設事業所内保育の特性を活かし、高齢者との交流を定期的実施する

コロナ感染症防止の観点から、長い間実施できていませんでしたが、下半期から交流を開始することが出来ました。特養職員からは、子どもがフロアに来てくれるだけで、ゲストが笑顔になると好評です。今後は子どもの年齢に合わせて、ゲストとの交流方法を考えていきたいと考えています。

6. 《月行事計画》

月行事	頻度
お誕生日会	毎月1回
発育測定	毎月1回
特養高齢者との交流会	毎月1回

7. <<年間行事>>

月	行事	月	行事
4月	入園式、進級式	10月	秋の遠足
5月		11月	
6月	2歳児 園外保育	12月	クリスマス会
7月	七夕まつり	1月	正月あそび
8月	花火大会 (特養と合同)	2月	豆まき
9月		3月	ひなまつり、お別れ会、お別れ遠足

8. <<防火防災計画>>

①運営に関する基準に準じ毎月の防災訓練を実施する

月行事	頻度
防災訓練 (避難及び消火訓練)	毎月1回
防犯訓練	毎月1回
安全チェック	毎月1回
事故対応訓練 (SIDS・誤飲・アレルギー対応)	随時

②訓練や設備点検等、大慈智音園の防火防災計画と連動を図る

<例：大慈智音園防火防災計画>

月	内容
4月	消火器使用期限確認 防災マニュアル確認
5月	高圧電気点検 不審者対策 消火訓練
6月	災害連絡網確認 通報訓練 水害訓練
7月	消火訓練 災害食作成訓練 地震訓練
8月	図上避難訓練 消防設備点検 溺水訓練
9月	不審者対策 災害連絡網確認 SIDS 対応
10月	消火器使用期限確認 防災マニュアル確認
11月	総合避難訓練 (夜間) 通報訓練
12月	消火訓練
1月	図上避難訓練 地震訓練
2月	消防設備点検
3月	総合避難訓練 (日中) 不審者対策 暗証番号変更

9. <<リスクマネジメント報告>>

令和3年度			令和4年度		
合計件数	事故	ヒヤリハット	合計件数	事故	ヒヤリハット
20	0	20	15	0	15

○リスクマネジメントまとめ

少人数で運営しているので件数自体は少ないが、成長するに従い動きが活発になり、「ぶつかる・たたく・ひっかく」といった園児同士のトラブルも出てきました。ヒヤリハットを職員全員で共有し、連携して事故を防ぐことが出来る様に見守っていききたいと思います。

10. 《苦情・相談報告》

・担当者を明記し随時受け付け口頭・書面で上司へ報告し敏速で確実な対応を行う。

令和3年度			令和4年度		
合計件数	苦情	相談	合計件数	苦情	相談
0	0	0	0	0	0

○苦情相談まとめ

毎日の送迎時に保護者とのコミュニケーションが十分に取れているのは、少人数運営の利点だと感じています。保護者の理解・協力もあり、良い連携がなされています。今後も家庭との連携を大切にしていきたいと思えます。

11. 《幼保連携型認定こども園 神戸潤和保育園との連携》

- ・保育内容の支援（巡回指導・相談等・代替え保育）
- ・集団保育の体験機会（行事参加または屋外遊戯場の利用等）
- ・地域枠で入所される児童（3歳以降）の連携・調整
- ・給食の搬入

○まとめ

0歳児の離乳食について、進捗状況や今後の方針について十分な連携が行えました。コロナ感染症防止の観点から、集団保育の体験については今年度も見送りました。

12. 《保健衛生計画》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	年1回
園児身体測定	月1回
園児検尿	年1回
保育従事者の検便	月1回

13. 《新型コロナウイルス感染症報告》

令和4年度			
陽性者(職員)	陽性者(園児)	感染拡大防止対策に要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金
3	3	475,000	475,000

14. 《総括》

少人数である事を活かし、子どもに合わせた柔軟な対応と、保護者とのコミュニケーションを十分に実施できていると感じています。

在園児の半数が外国籍の家庭であり、日本語での情報共有が難しい家庭については、保育中に撮影した写真や、子どもの作品を通して保育の状況を保護者に伝える様にしています。それでも伝わりづらい細かな点については、外国籍の家庭向けの書類等を活用し、お互いの理解を深めていく努力を今後も継続していきます。

子どもの人数が少ないので、職員の配置体制を含め、柔軟な受け入れ態勢が整えられるかを検討していきたいと考えています。

令和4年度 事業報告書

ケアハウス大慈

1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を決やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. <最終目標>

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気を大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

<令和4年度重点目標>

<ケア部門> (定員90名)

①個別ケアを充実させる

- A) 24時間シートを活用し情報の共有を図る
- B) スタッフ間で共通のサポートができるようになる

②働きやすい職場環境を構築する

- A) 上司評価を定期的実施し、風通しの良い職場作りを目指す
- B) 定期面談を実施し、離職防止・定着に繋げる
- C) 新人職員への研修・座談会を実施する

○まとめ

24時間シートの更新が思うように進まなかった。

家族等のコロナ感染に伴い自宅待機が出たことで全体的に職員配置が薄くなった。他フロアからのヘルプの対応となり、業務を実施した印象がある。この状況で大きなミスや事故に繋がらなかったことは良かったと思われる。下半期は次年度に向けて、職員の働きやすい職場と個別ケア充実によるゲストの満足度アップを図るため、組織体制改革の話し合いを多くもった。年度末には体制の構図が出来上がったこともあり、次年度は試行錯誤しながら体制を作り上げ、目標に向かって職員全員が邁進できるように努めていきたい。

<経営部門>

①在籍率97%以上、在園率95%を維持する

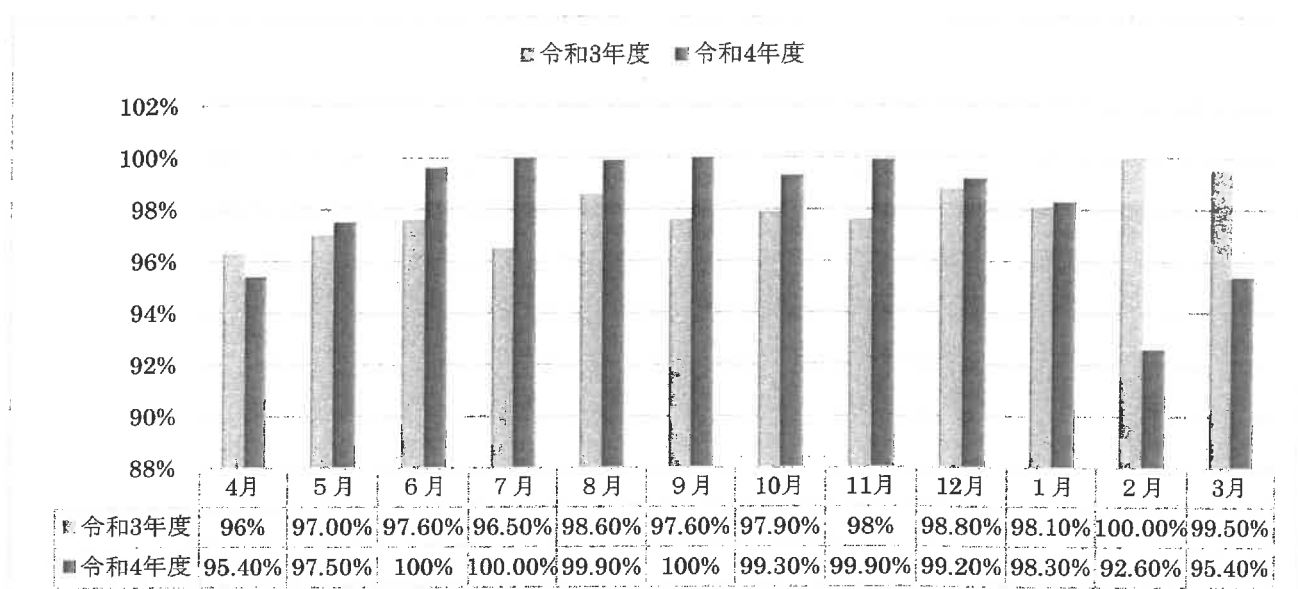
- A) 確実な待機者数5名以上確保しておく
 - ・定期的な連絡を実施する
 - ・定期的な営業活動を実施する
- B) 入院者が必要最小限の入院期間で退院できるよう病院と連携し、情報の交換に努める

○まとめ

充足率に関して、目標を達成することができた。大きな要因として、ショートステイさくらの知名度も上がり、さくらのロング利用から入居に繋げることができたことが大きい。
 また、入居ゲストの繋がりから紹介を受けたケースも多くあり、これはこれまでやってきたことの成果が表れていると考えられる。下半期後半1月から2月にかけて、看取りゲスト10名が亡くなられたこともあり、大きく充足を下げた。3月後半には目途を立てることはできたが、ショートステイさくらのロングショートの入居待機の利用者が無くなったこと、入居待機者がほぼいなくなったことは次年度に入るに当たり、その影響は否めない。早急に対策を講じて待機者確保に努めていきたい。

<充足率> (90名定員)

充足率 令和3年度 97.96%
 令和4年度 98.12%



○入退所等内訳表

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
3年度	21	20	50	45	13	6
4年度	18	21	35	29	14	11
増減	-3	+1	-15	-16	+1	+5

○介護度別年齢別等人数表 (定員90名)

要介護度	令和3年度				令和4年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
非該当	4	1	3	89.1歳	4	1	3	90.69歳
支援1	14	3	11	90.84歳	12	3	9	92.08歳
支援2	9	4	5	88.41歳	10	4	6	90.56歳
1	11	1	10	90.19歳	14	3	11	89.83歳
2	14	4	10	92.02歳	16	3	13	92.99歳

3	12	1	11	90.58 歳	9	1	8	88.94 歳
4	18	5	13	89.7 歳	15	5	10	89.15 歳
5	8	1	7	94.17 歳	11	1	10	93.84 歳
合計	90	20	70		86	21	65	
平均 介護度	3.0	3.1	2.9		2.9	2.7	3.1	
平均 年齢		90.74 歳	90.86 歳	90.83 歳		89.1 歳	90.51 歳	90.13 歳
最高 年齢		98 歳	99 歳			98 歳	98 歳	
最小 年齢		67 歳	81 歳			68 歳	81 歳	

3. <環境整備計画>

大規模修繕計画を作成し、経年劣化による修繕と業務効率を意識した整備を実施する

○まとめ

令和4年度・・・ケアハウスは無し。

4. <地域貢献事業>

- ① 社会貢献委員会が主催する行事
- ② ほっとかへんネットKOBE・西との連携

○まとめ

令和4年度はコロナ感染症流行のため、実施できなかった。

5. <コロナ感染症補助金>

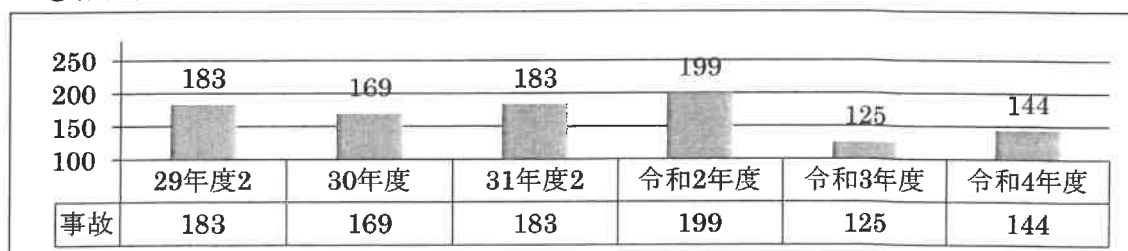
○発生件数

陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等 (見込み含む)
20 件	9 件	¥3,042,552	¥3,500,000

6. <リスクマネジメント報告>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数



③ 入退所等内訳表

平成3年度				令和年4度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	1056件	125件	931件		935件	144件	791件

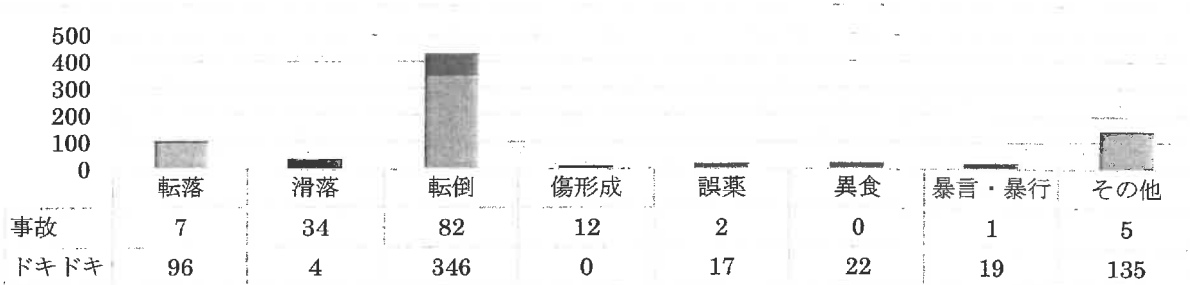
④ フロア別内訳

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	65件	9件	56件	2F	86件	18件	68件
3F	235件	35件	200件	3F	196件	40件	156件
4F	165件	33件	132件	4F	228件	39件	189件
5F	372件	27件	345件	5F	207件	20件	187件
6F	219件	21件	198件	6F	218件	27件	191件

④ 発生場所別件数



⑤ 内容



○まとめ

今年度は事故件数が前年度に比べると74件減少している。ドキドキの時点で対応策の効果が出ているように思われる。しかし、居室での事故・ドキドキ件数が多く、その要因として、目が行き届きにくく見守り困難が上げられる。また、高齢に伴い下肢筋力の低下や認知症状による理解力の低下も上げられる。今以上に機能訓練指導員や看護師との連携、施設全体での対策が必要と考える。また、事故後の現場検証と対策、観察、記録など確実にを行い、事故を未然に防ぐよう努める。今年度は各フロアを見学し、ゲストの状態把握に努める予定であったが、コロナ感染症流行に伴い実施には至らなかった。次年度は、毎月ヒヤリハット及び事故発生の高

いゲストに焦点を当て24時間シートの活用、また、記録とリスク回避のための対応策がリンクしているか確認しあい、状態把握とその対策をしっかりと立てて事故回避に努めていきたい。

7. 《苦情・相談報告》

☆苦情提議・・・サービス向上委員会にて話し合い、苦情か相談かを決定する。

<報告件数>

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	57	0	57		17	0	17

○まとめ

今年度は苦情・相談事項が大きく減少した。しかし、苦情・相談事項の内容は、情報共有の足りなさ、ゲストへの気遣いや配慮、また、コロナ感染症流行に伴い、ご家族への連絡など手薄になっていたことも含み、全体的に必ずしも満足できるものではないように思われる。ご家族が面会に来られ、ゲストと久しぶりに対面された時のご家族の印象は、どんな風に映っているのか、意識することが必要と考える。施設内に入れないご家族への配慮も忘れないように努めていきたい。

8. 《総括》

今年度の充足率は目標を達成することができた。見学希望者も月に数件あり、コンスタントに実施できた。また、過去の入居者親族やお知り合いからの紹介も多数あり、安定した充足率を維持できたことが大きい。次年度も広報の仕方を考え、見学者を増やして待機者確保に努めていきたい。設備に関して、見学者から施設内の清潔さや、ゆったりして落ち着いた雰囲気があるという言葉が毎回いただいている。このことも契約に結び付いている大きな要因となっている。大きな反省点として、情報共有の徹底が薄かったこと、受け身型の業務のあり方、気付きや配慮の不足などが挙げられる。今年度は、今後のケアハウス大慈を見据え、ゲストの個別ケアの充実や職員が働きやすい職場、介護の質の向上、専門性を高めていくための組織体制の見直しを行った。次年度はコーチング研修を通して、組織力の強化、専門性があり働き甲斐のある職場を目指して、全員が積極的に参加・協力し合えるような組織作りをしていきたい。

令和4年度 事業報告書

ショートステイさくら

1. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. 《最終目標》

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

3. 《令和4年度重点目標》

<ケア部門>・・・

①基本に忠実な介護を目指す

- A) 整容・整理整頓を行い、基本的なケア、当たり前のケアを徹底させる
- B) ゲストに寄り添うケアができる人材育成を行う

②個別ケアサービス計画の充実を図る

- A) カラオケ・リズム体操などの集団レクリエーション、個別のニーズや要望に応じた楽しみを提供する
 - B) 居宅サービス計画書を基にショートステイでもサービス計画書作成し、目標を達成できるように努める
- ・お好きな事柄を入れ、個別性を高める

○まとめ

基本に忠実な介護に関して概ねできた。大きな苦情はなかったが課題として、入退所チェックが甘い時があり、返却し忘れが数件あった。ゲストに寄り添うケアができる人材育成に関しては、福祉倫理観を重んじ、1人ひとりが満足していただけるように寄り添うケアができるように努めた。毎日ケース記録をチェックし疑問に思う言動に対しては、聞き取り、丁寧に対応してきた。個別ケアサービス計画は、初回面接時、利用時に個別のニーズを聞き取り(習字、脳トレ、歩行練習、体操、話題、趣味など)個別性をもたせ、できる限り対応した。リハビリなどの運動に関して、ニーズが高いが配置人数の兼ね合いもあり、提供できる頻度が少なかったのが今後の課題として残る。

<経営部門>

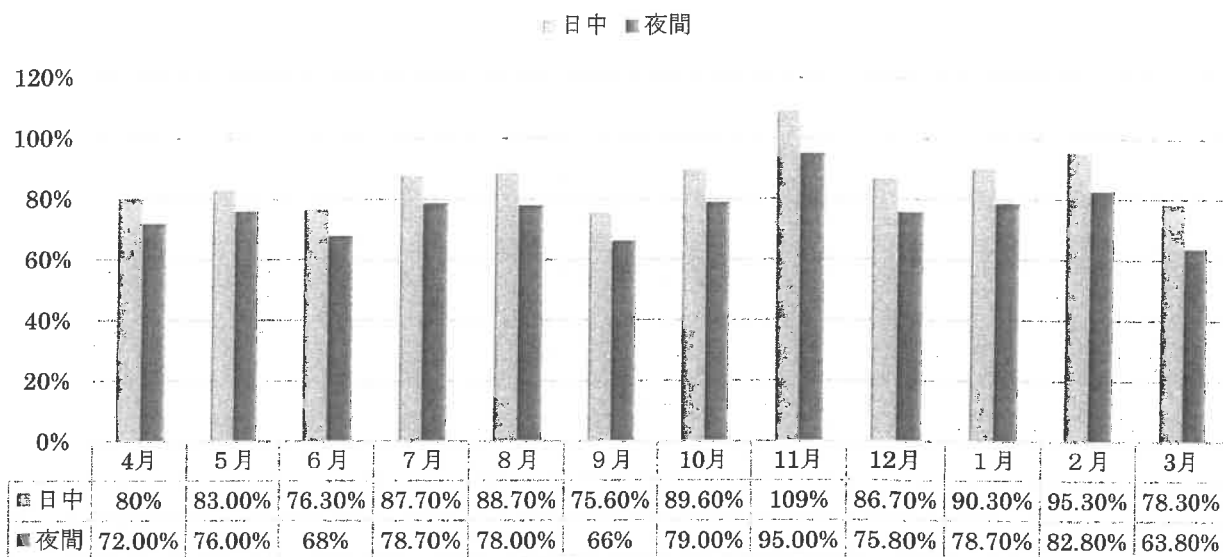
①充足率の向上(目標95%以上)

- ・空きベッドの公開、外部への連絡調整を行う
- ・ケアカンファレンスへ参加し、ケアマネジャーとの情報交換に努める

②定期的な営業活動の実施

・あんしんすこやかセンター、病院関係等への訪問

<充足率> (10名定員) 日中充足率86.7% 夜間充足率70%



○入退所等内訳表

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
3年度	200	200	0	0	0	0
4年度	287	287	0	0	0	0
増減	+87	+87	0	0	0	0

○介護度別年齢別等人数表

要介護度	令和3年度				令和4年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	28	14	14	87.26歳	83	27	56	87.53歳
2	52	15	37	88.19歳	68	15	53	90.16歳
3	20	6	14	86歳	44	7	37	87.79歳
4	75	24	51	87.77歳	54	10	44	86.6歳
5	25	4	21	84歳	38	11	27	85.07歳
合計	200	63	137	86.64歳	287	70	217	87.43歳
平均介護度	3.2	3.0	3.4	3.3	2.6	2.4	2.9	2.65
平均年齢		86.42歳	89.59歳	88.0歳		86.96歳	88.82歳	87.89歳
最高年齢		85歳	97歳			97歳	98歳	
最小年齢		69歳	88歳			67歳	76歳	

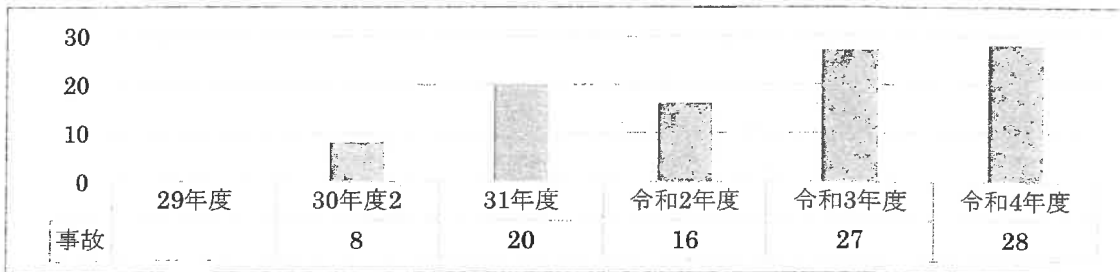
○まとめ

充足率は昨年対比で10%上がったが、入院、特養への入所、ケアハウスへの入所などにより、目標の95%には届かなかった。ショートステイさくらの知名度は上がってきており高評価をいただいているが、キャンセルが出た場合の補充の対応が課題として残った。今年度、営業については3回実施、ラインワークスや電話を基に情報交換に努めた。またコロナ渦ではあったが、できる限り担当者会議などにも積極的に参加した。次年度は営業の実施回数を増やすと共に新たな新規顧客の獲得に力をいれると同時にショートステイさくららしさを出していけるよう取り組んでいきたい。

- 4. 《環境整備計画》
 - 5. 《地域貢献事業》
 - 6. 《職員会議等》
 - 7. 《月行事・行事食・年間行事》
 - 8. 《職員構成》
- } ケアハウス大慈に準ずる
- 9. 《リスクマネジメント報告》

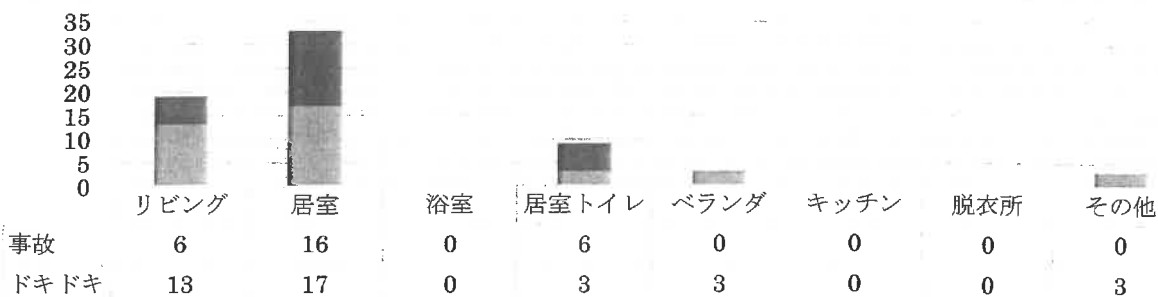
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

- ①報告件数
- 年度別事故件数

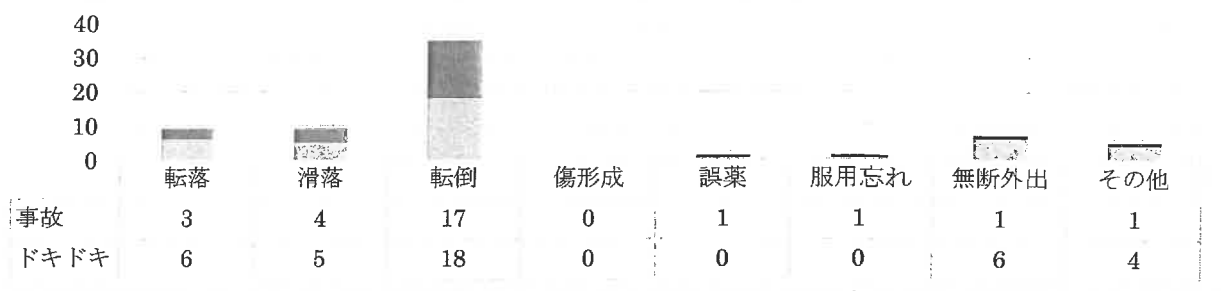


報告件数	令和3年度			令和4年度		
	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故
	97件	27件	70件	67件	28件	39件

○発生場所別件数



○内容



○まとめ

前年度に比べると事故件数に変動はないが、ドキドキ件数が減少した。事故については、居室での転倒事故が多い。前年度も居室での転倒事故が多くあったため、入所利用前にご本人やご家族の聞き取りを行い、より家に近い居室環境を整えたが全ての事故に関して未然に防ぐことはできなかった。今後は、より一層対策を講じ、安全に過ごしていただけるように努めていくと同時に、職員の危険予測能力を高め事故を未然に防いでいく必要がある。ドキドキ件数は減少したが、必要なドキドキについて書ききれていないこともあると思われる。今一度、ドキドキの重要性について考えながら取り組んでいく必要がある。

9. 《苦情・相談報告》

☆苦情の定義・・・サービス向上委員会にて話し合い、苦情・相談かを決定する。

<報告件数>

報告件数	令和3年度			令和4年度		
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情
	2	0	2	4	0	4

<内容>

- ・退所後、荷物の整理、ケース記録の渡し忘れて謝罪の連絡を入れる（ご家族へ連絡）
- ・洗面台に貼ってある塗り絵は子供みただから剥がしてほしい（ご本人）
- ・母は立てないが、お風呂で立たされて手が痛くなって腫れている（ご家族）
- ・夜にトイレに1回しか連れて行ってもらえないと言っている（ご家族）

○まとめ

今年度は4件の苦情・相談があった。ご本人やご家族へ細部に渡って聞き取り、職員への情報共有の在り方を再度見直す必要があると考える。人員配置が手薄の時にミスが起こったり気遣いが足りなかったりすることが要因であった。特に入浴時、補聴器を外された状態での言葉がけに注意が必要であった件に関して、その都度、職員は言葉がけをしたつもりでもご本人には聞こえていなかったという事例もあり、個別の特徴を理解しケアに当たっていくようにしていきたい。

10. 《総括》

今年度の充足率は、昨年度に比べ10%の伸びはあったが目標の95%を達成することができなかった。新規利用者契約の成立は、毎月数件ずつあったが、定期的な利用には繋がらなかった。また、キャンセルがあった場合の補充が難しかったこと、月初の定期利用が少な

ったことが課題として残る。今年度は、ショートステイさくらの特徴を打ち出すために試行錯誤を重ねてきたが、次年度はレクリエーション、リハビリなどを確立させていきたい。また、営業に関して、コロナ感染症流行により、今年度は3回しか各事業所を回れなかった。ショートステイさくらの特徴を全面に出せるような広報の仕方を考え、定期的に営業活動ができるようにしていきたい。

令和4年度 事業報告書

西神南あんしんすこやかセンター

1. 《基本方針》

- ①介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う機関であることを認識し、公正中立な事業運営を行う。また、地域の特性や実情を常に把握し何事に対しても柔軟に対応をしていく
- ②職員相互で常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく
- ③圏域の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・地域と密に連携をとり、地域包括ケアの充実に努める

2. 《実績》

○介護予防ケアプラン数

請求合計4,173件 前年比316件増
 (直営担当数: 2,397件 前年比214件増、委託数1,776件 前年比102件増)
 月平均は347件 (前年320件)。
 新規ケース数は年間164件 (前年比39件増)。月平均13件。
 コロナ禍も落ち着いてきたことにより、この数年でフレイルの進行や認知症状が悪化した方等、新規相談が非常に多くなっているのが現状である。介護になるケースも多いが、要支援でサービスの利用を開始する方が多く、新規件数も請求件数も大幅に増加している。
 また圏域内高齢者数は年々増加しており (令和5年3月末7,323人、令和4年3月末7,241人)、今後相談件数や新規件数は増加していくことが見込まれる。

○令和4年度月別請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	187	193	191	191	193	201	197	209	210	204	209	212	2397
委託件数	140	146	142	157	150	150	144	145	146	145	152	159	1776

○令和4年度月別新規件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	11	5	5	10	5	9	4	14	7	6	8	9	93
委託件数	3	6	4	12	6	2	0	6	6	6	11	9	71
新規合計	14	11	9	22	11	11	4	20	13	12	19	18	164

3. 《目標に対しての報告》

①相談対応の充実

○介護者支援の充実

在宅介護をされている方を対象に、介護リフレッシュ教室を年間6回(偶数月)開催。参加者同士が、ご自身の介護体験や悩みを話せる自助グループとしての役割を担っている。窓口に相談に来られた認知症ケースのご家族や、近隣居宅への開催案内を行ない、新規の

利用者も多い。

(内容)

4月27日：日々の介護についての情報交換会（講師：認知症家族の会）

6月17日：認知症介護のしかたについて

（講師：デイサービスあさんて管理者 加藤長年氏）

8月30日：納涼・安らぎの音楽

10月28日：日々の介護についての情報交換会（講師：認知症家族の会）

12月23日：クリスマス会

2月22日：日々の介護についての情報交換会（講師：認知症家族の会）

今年度は年6回全て開催する事ができた。毎回、5～15名の参加者があり、日々の介護に関する悩みの相談や情報交換を行った。

○地域力の向上

7月29日に地域ケアネットワーク会議を開催。圏域内の商業施設を対象とし、様々な立場から高齢者の見守りに関するネットワーク構築を目指す会議を開催した。コープ西神南、民生委員児童委員協議会、西区役所、西区社会福祉協議会、居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所等、合計23名の参加をいただいた。

また、8月22日には、東町グランコリーナで開催されている「カフェぐらん」にて、権利擁護講座を開催し、センターの啓発だけでなく、消費者被害や高齢者虐待に関する啓発も行った。

○地域の関係者との連携

コロナ禍で中止されていた地域行事の再開もあり、感染予防の観点から、参加職員は少人数としながらも、行事への訪問を行い参加者の状況の確認や介護予防の啓発等を行った。

(参加行事) 西神南集会所：カラオケ

井吹台住宅集会所：やさしい体操、フレイル支援予防事業

井吹西地域福祉センター：いきいき百歳体操

井吹北地域福祉センター：北町カフェ

榎谷地域福祉センター：おもと会

ルゼフィール井吹台集会所：フレイル予防体操、練功十八法、

カフェいばしょ、

グランコリーナ集会所：カフェぐらん 等

○相談窓口の周知徹底

センター広報誌、「すこやか便り」を5月11日に発行。民生委員の会議や地域行事にて配布を行った。

○認知症事業の啓発

今年度は井吹西児童館の子供を対象に、認知症サポーター養成講座と認知症高齢者声掛け訓練を行った。

また、認知症に関する相談も年々増加している状況。必要時相談者へ認知症神戸モデルやあんしん登録事業の提案を行った。困難ケースの解決にはオレンジチーム（認知症初期集中支援チーム）との連携を図りながら対応を行い、必要なサービスへ繋いでいく事ができた。

②介護予防の充実

○介護予防ケアマネジメントの充実

神戸市主催の研修にも参加し、適正なケアマネジメントを行う事が出来ている。月に1回、神戸市介護保険課より巡回訪問あり、指摘事項に関しても迅速に改善を行っている。

また、月1回の事例検討会をセンター内で開催し、職員のケアマネジメントスキルの向上、事例検討能力の向上を図った。

○介護予防事業への推奨

日々の相談ケースに関し、必要時介護保険認定申請を行い、必要な介護予防サービスへつないでいる。既存のサービスだけでなく、地域でのインフォーマルサービスなどにも繋いでいる。

③地域見守りの強化

○地域団体との連携

今年度はコロナ禍により中断していた行事の再開などもあり、参加できる行事や会議などには感染対策に留意しながら参加した。また、井吹西ふれあいのまちづくり協議会からの声掛けもあり、コロナ禍により高齢者のつどい場が減った現状等の情報共有を図る機会を頂き、説明を行った。これにより次年度は重点課題地区として取り組むこととなった。

○コミュニティ作りの充実

令和3年度はコロナ禍にて地域行事がなかなか開催できない状況ではあったが、令和4年度は徐々に再開、第7波等で感染者が激増する時期もあったが、感染対策を行い、できる限り行事への参加を継続した。

また、集会所行事の再開が困難になっている市営住宅エリアでのアンケート結果を踏まえ、ふれあいのまちづくり協議会に地域の現状をフィードバックする事ができた。今後は地域や西区社協と連携しながら、新たなコミュニティの構築に向けて検討していく予定。

4. 《会議》

	頻度	会議名
開催	月1回	あんすこ・居宅内部会議(事業所内)
		あんすこ会議(11月まで)、ネットワークミーティング(12月から)
	月2回	伝達会議
	随時	地域ケア個別会議
		地域ネットワーク会議 ケアマネジャー情報交換会
参加	月1回	西区あんしんすこやかセンター連絡会
	年2回	神戸市あんしんすこやかセンター区代表者会
		各民生委員児童委員協議会定例会(井吹東、井吹西、櫛谷、伊川谷)
	年1回	西区実務者会
		西区地域ケア会議
	随時	西区地域ケア会議ワーキング
職種別連絡会(主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士・地域支えあい推進員)		

	西区虐待防止検討委員会
	認知症初期集中支援チーム員会議
	神戸包括西区ブロック会議
	虐待コア会議

5. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→センター長が直接対応した件を苦情とする。

○令和4年度報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		2件	2件	0件

障害サービス併用の利用者より、障害に詳しくない職員が担当になり度々訪問されたりするのが苦痛だし不安、障害に詳しい職員に担当を替えて欲しいとの事。障害併用はほとんどないケースでどの職員も詳しいとは言えない状況、事業所内で障害サービスに関する勉強会を開催した。

またシルバー住宅の見守りシステムに関する苦情は、市にも報告。システム管理に関して警備会社との連携を図るとともに、センター内でも対策を検討した。

6. 《新型コロナ感染症報告》

○感染者数（職員）：3名

陽性者（職員）	感染拡大で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
3名	52,644円 内訳：感染対策備品（マスク、ガウン、手袋）	なし

日々の感染対策として、出勤前の検温、マスク着用の徹底、2時間おきの換気と消毒、デスク間のパーティションの設置などを継続。

第7派の7月～9月にかけて3名の職員の感染があったが、いずれも単発で職場内感染は認められなかった。

また、9月より国の方針に従い、週1回出勤前に抗原検査を開始、現在も継続している。

7. 《総括》

圏域内の高齢者数は年々増加しており、農村地域以外のニュータウン地域でも高齢化率が40%近くまで上昇している地域も出てきている。そういった地域は、50台後半から60台の人口が多く、今後も更に高齢化率の上昇は継続すると思われる。

高齢化の進行に伴い、認知症の相談も多く、更にはコロナ禍でフレイルの進行や認知機能が低下したことによる相談が増加。介護保険の申請を行い、サービス利用を開始するケースが多くなり、プラン総数は前年比214件増となっている。しかしながら、周辺の居宅介護支援事業で予防ケースの担当を断られる事も多くなっており（全市的に問題となっている）、現状としては全職員がかなりのケースを担当する事となっており、地域包括支援センター業務への支障も出ている状況である。今後もプラン数の増加は十分考えられるため、今後は予防プランナーの増員も検討する必要があると思われる。

コロナ禍により高齢者の外出の場が減少、ボランティアの高齢化等の理由で再開できないつどい場も多い。今年度は特に行事が激減した市営住宅エリアでのアンケート結果も元に、井吹西ふれあいのまちづくり協議会に地域の現状のフィードバックを行うことができた。次年度は地域や行政も巻き込みながら、新たなボランティアの発掘や、重点課題地域での新しいつどい場の立ち上げ支援なども行っていく予定である。

コロナ感染に関しては、事業所内では感染対策を徹底し、マスクの着用や手指消毒、パーテーションの設置、消毒や換気の徹底など、各職員が意識を持って取り組む事ができた。五類移行後も社会の情勢に合わせ、引き続き職員の健康管理や感染対策に努めていきたい。

令和4年度 事業報告書

居宅介護支援事業所 大慈園

1. 《基本方針》

- ①可能な限り住み慣れた地域において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう支援する
- ②公正中立な立場で、自己決定ができるように援助する
- ③質の高いケアマネジメントの推進
- ④医療と介護の連携強化

2. 《最終目標》

「豊かで安心できる在宅生活の実現」

- ・介護が必要な状態になっても住み慣れた自宅で最期まで過ごせるよう、様々な社会資源を活用し生活をサポートしていく。

3. 《目標》

①介護支援専門員としての資質の向上

- A) 相談援助技術、ケアプラン作成、認知症や高齢者に多い疾患等、基礎知識とケアマネジメントプロセスに関する勉強会を年9回行う
- B) 職務基準書（兼業務マニュアル）の見直しにより業務手順の再確認を行う（年4回）
- C) あんしんすこやかセンター主催の事例検討会に参加する（年1回）
- D) 伝達会議等を通じて、事業所内での事例検討の場を持つ
- E) 高齢者虐待防止の指針作成

○事業所内勉強会及び研修参加状況

月	事業所内勉強会	外部研修	他
4月	4/8 相談援助について	倫理研修	
5月	6/8 ケアプラン作成について①	慢性腎不全と透析	
6月	6/13 バイタルサインの基本	子供若者ケアラー 高齢者虐待防止の推進 認知症予防 コミュニケーションの取り方 多職種事例検討会	職務手順書 (個人ワーク)
7月	7/29 高齢者に多い疾患の基礎知識	認知症と薬の話 接遇対応レベルアップ研修 ハラスメント研修	職務手順書 (グループワーク)
8月		職員の声から始める組織づくり ホスピス住宅での暮らし	
9月	9/22 認知症について①		
10月	10/13 歯科衛生による訪問指導	認知症の人との心の対話 BCP策定を進めるために	あんすこ主催事例検討会 地域ケア会議 ケアプランチェックヒアリング (日本データ)

11月	ケアプラン作成について ②←変更 11/18 訪問看護について	ひきこもり支援研修会 在宅にける新型コロナの現状	職務基準書 (ケアマネジメントプロセス完成)
12月		ACP意思決定支援について 地域同行型基礎研修	
1月	1年の学びについて←変更 1/30 高齢者の低栄養について	コーチング研修 訪問薬剤管理指導 援助力を高める 支援経過の書き方 地域同行型初任者研修 若年性認知症支援研修会	ケアプランチェック報告 (日本データ)
2月		ケアプランデータ連携システム 医療介護関係者研修 身近な保険医療講座	
3月	3/23 認知症について②	ケアマネ情報交換会	高齢者虐待防止指針

○資質の向上に関するまとめ

今年度は神戸市委託事業のケアプランチェックを受けた。指定された25ケースのケアプランを8月に提出し、10月にヒアリング実施。ヒアリングでは、利用者や家族の困りごとに焦点を当てたプラン作成となっていたこと、支援経過やモニタリングにケアマネジャーのアセスメント内容や判断根拠の記載がなかったこと等指摘を受け、11月に改善事項の報告を行った。ケアプランチェックを受けたことで、ケアマネジャーが判断・アセスメントした内容を記載する重要性、利用者や家族ができていることや希望など自立に向けた個別具体的な目標設定を意識してケアプラン作成することの大切さを改めて学ぶ機会となった。

職務基準書兼マニュアルの見直しはケアマネジメントプロセス業務については完成したが、他の項目はケアプランチェックへの対応、ケアマネジャー退職に伴う利用者対応から次年度に持ち越しとなった。

事業計画に基づき予定していた事業所内勉強会は概ね予定通り実施できた。加えて、事業所外への研修参加を積極的に行い、参加した研修の要点発表の場を持ったことで個人の学びを事業所全体の学びとして共有できた。

今年度は地域ケア会議に大慈居宅の事例を提出した。認知症がある独居女性が地域で独り暮らしを続けるために地域住民の協力を得るきっかけとなり在宅生活継続の力となった。週1回の伝達会議にて利用者情報の共有や支援困難なケースの検討を行い、担当ケアマネジャーが不在の時にも事業所として利用者支援を行うことができた。

高齢者虐待の指針は年度末に完成、次年度は指針をもとにした手順書作成を行う予定。

②収益の維持

- A) 月平均150～160件請求する
- B) 入退院加算、通院加算等、可能な限り取得する
- C) 支出削減に向けて取り組みを行う

請求実績 1669件 (昨年度より59件増)

月平均 139件 (昨年度より3.7%増)

○月別・介護度別請求内訳

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護 1・2	79	83	85	86	86	83	85	86	90	90	93	89	1035
要介護 3・4・5	60	60	56	57	53	54	55	55	48	49	44	43	634
合計	139	143	141	143	139	137	140	141	138	139	137	132	1669

○入院加算算定状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院	4	2	0	3	2	4	1	3	2	0	1	1	33
退院	1	2	1	0	0	2	2	1	1	1	2	0	13
合計	5	4	1	3	2	6	3	4	3	1	3	1	46

○支出削減に向けた取り組み（レンタルスマホ活用による固定電話代削減）

単位：円

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
固定電話代	26,168	29,168	27,132	26,010	14,984	9,008
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
固定電話代	7932	データなし	7,512	6,594	6,480	7,303

○収益の維持に関するまとめ

請求件数は昨年度より59件（3.7%）増加したが、目標としていた150件の請求には至らなかった。理由としてはコロナ特例措置に伴う認定調査件数の増加に対して、現任の調査員では対応が困難となった為、1名を認定調査兼任としたことで担当できるケアプランの件数を減らさざるを得なかったこと、もう一つは、月末でケアマネジャーが退職したことで残りの職員の担当件数が増え新規を受け入れることができない期間があった為と考える。

入院加算は33件、退院加算は13件請求した。

入院加算では、在宅での利用者の生活状況や家族関係等を医療機関と情報提供し入院時から医療者と連携した事で、退院時に医療者から在宅生活において必要な支援等状況提供を受け、退院後の在宅生活への支援につながった。それぞれの加算は、算定を目的とするだけでなく、医療と介護の連携により顔の見える関係づくりにもつながったと評価する。

支出削減の為、固定電話代削減に向けて取り組みを行った。具体的には通話時間を画面に表示し、事業所間での通話時間の短縮を意識する事、8月からはレンタルスマートフォンを導入し固定電話の使用頻度を減らし、結果4月～6月の上四半期に比べ、1月～3月の下四半期の固定電話費は75%減となった。スマートフォンのレンタル費（5台で月15000円）を引いても支出削減できた。

③連携の強化

- A) 医療と介護の連携（在宅医・病院地域連携との情報共有）
- B) 西神南あんしんすこやかセンター及び圏域外の地域包括支援センターとの連携
- C) 地域行事に参加しインフォーマルサービスの現状を知る。

- D) 法人主催の地域貢献行事（地蔵盆）の参加、手伝い
- E) 担当ケースの以外の利用者の情報共有を密にする。

○連携の強化にかんするまとめ

病院、在宅医、歯科医院、薬局と積極的に連携を行い、40件近くの病院、クリニック、歯科医院、薬局と連携を行った。

西神南あんしんすこやかセンターや他圏域のあんしんすこやかセンターとは困難事例、虐待や身体拘束のケースについて情報共有や連携を行った。

新型コロナウイルス感染防止の観点から地域行事への参加は行えなかったが、次年度は法人主催の地蔵盆含めて、可能な範囲で積極的に地域行事に参加し、インフォーマルサービスを利用者支援につなげられるよう取り組みを行いたい。

④更新認定調査委託業務の維持・継続

○月別認定調査件数推移

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
調査件数	29	45	41	36	49	52	45	34	44	31	43	49	483

○認定調査に関するまとめ

一昨年、コロナの特例措置として認定調査を受けずに12カ月認定期間を延長となった影響から、今年度も8月～9月にかけての調査件数が多くなった。同時期に、調査員自身の怪我や調査員のご家族の体調不良に伴い調査員が長期的に出勤できない状況があった事から、現在の調査員では調査業務の遂行が困難となり、ケアマネジャー1名を予備調査員から兼任に変更したことで、依頼のあった調査委託業務を遂行できた。

2カ月に1回連絡会を継続開催し、特記事項の記載方法や視点についての情報共有、調査への苦情から軽度者福祉用具貸与について勉強会の場を持ち資質向上につながったと評価する。

⑤BCP計画作成と訓練実施

○BCPに関するまとめ

西神南あんしんすこやかセンターのBCP委員と協働し、BCP委員会を2カ月に1回開催した。令和4年度は感染症に対するBCPに加えて災害時の対象者リスト及び、災害時持ち出しファイルを作成した。3月に感染者宅訪問を想定したガウンテクニックの研修と机上訓練を実施した。

4. 苦情・相談結果報告

報告件数	令和3年度			令和4年度			
	苦情	相談	合計	報告件数	苦情	相談	合計
	2件	12件	14件		0件	8件	8件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談	0	2	1	2	0	1	0	0	1	0	1	0
苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(複数回答あり)

	話を聞いてほしい	調査依頼	教えてほしい	改善依頼	回答依頼	金銭面	謝罪要求
相談	6	0	2	1	0	0	0
苦情	0	0	0		0	0	0

○苦情報告まとめ

苦情報告は昨年度14件より6件減り8件の報告で内容としては相談であった。認定調査に関する相談が2件、ケアマネジャーの支援に関する相談が6件であった。認定調査への相談の2件は、共に認定結果が軽度となったことへの不満であった。1件は、担当事業所を通じての申し出で、直接管理者からの謝罪や説明は不要との要望だった。もう1件は管理者が対応。家族からの訴えの傾聴と、調査員から聞き取りした状況の報告、区分変更申請の手続きを含め電話や来所にて複数回対応したことで解決に至った。相談の内容を認定調査の連絡会で共有行うとともに、介護度により利用できない福祉用具の種類、軽度者でありながらそのサービスを利用している利用者には、特定の調査項目をより詳細に聞き取る必要がある事について勉強会を実施した。勉強会を行った事で介護度とサービス利用の関係を知らずして学びに繋がったと感想があった。

ケアマネジャーの支援に対する相談内容は、すぐに担当者と連絡が取れない、話を聞いてもらえない、担当を変更してほしい、希望通りの支援をしてくれないとの不満等であった。希望通りの支援をしてもらえないと不満を持たれたケースはケアマネジャーと訪問介護の業務を混同されていることから起こった相談であった。ほかの相談についても、説明が不足していたことでの誤解から生じた内容が多く、その都度、話を伺い丁寧に説明を行うことで解決につながった。

5. 年間行動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
法定研修見学実習受け入れ	無し	無し										○
地藏盆					中止							
他法人との事例検討				延期							2/10	
あんすこ主催の事例検討会									10/29			
B C P 研修・訓練実施												3/1

※伝達会議（週1回）、調査員会議（隔月）、研修・地域ケア会議・地域行事には随時参加
事業所内勉強会は年間計画表に沿って実施

6. 新型コロナウイルス感染症報告

○発生件数

令和4年度		
陽性者（職員）	感染拡大防止に対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
2名	¥52,644	¥0

○新型コロナウイルスまとめ

営業時間帯を通じて換気、2時間ごとのアルコール消毒、マスク、パーテーション等基本的な感染予防対策と、出勤前の検温、9月からは週1回の抗原検査を行い、感染の早期発見に努めた。

事業所からは職員の感染が2名あった。2名とも症状は軽度であった。感染の為休みとなった期間は出勤した職員が代理で利用者対応を行った。通常の事業所内での伝達を目的としたグループラインとは別のグループラインを作成し、休業した職員が担当する利用者からの相談内容、代理で対応した内容など、職員間で共有し統一した利用者支援ができたと評価する。

〈総括〉

年度当初より5名体制で業務開始。昨年度に比べて請求件数の増加はあったが、目標とした150件請求は達成できなかった。コロナの特例措置に伴う調査対象者の増加への対応とケアマネジャーの退職がその理由であった。今年度は業務用携帯（レンタルスマートフォン）を導入し、固定電話の使用を減らす取り組みを行った。その結果、経費削減につながっただけでなく、業務用携帯を一人一台持った事で利用者や事業所からの相談や連絡に随時対応でき、業務効率への効果もあった。

ケアマネジメントの質の向上を目的として、事業所内勉強会や外部研修へ積極的に参加し、学んだ内容を共有したことで事業所全体の学びの場を持つことができた。また今年度はケアプランチェックを受け、ケアマネジメントの帳票類の記載方法について外部評価・指導を受けることができ学びとなった。次年度は現状の帳票類を用いて事例検討会を開催し、ケアプランチェックにて指導受けた内容が実際の業務につながるよう学びの場を持ちたいと考えている。新型コロナ感染防止対策継続、BCP研修、定期的な抗原検査により感染の早期発見に努めた。

事業所から2名の感染者があったが、幸いにも症状は軽度であった。出勤した職員が代理で利用者対応し事業所全体で利用者支援ができた。

更新認定の調査委託業務は、コロナの特例措置の影響で今年度は兼任調査員を配置して対応した。認定期間が延長となっている昨今の状況から、更新の調査対象者は徐々に減少することが予測されるが、高齢者人口増に伴い要介護認定者は増えている為、必要に応じて調査員の増員等が今後の課題と考える。

1. 《基本方針》

- ・子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ・地域・保護者と共に歩む。
- ・教育・保育要領を理解し、教育保育を深める。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・広報活動、求人活動を積極的に行う。
- ・法人内幼保連携型認定こども園と連携を図り、独自性を出す。
- ・地域の子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和4年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・オンライン研修や園内研修を通じて勉強し、検討を重ねた。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・手作り玩具や保育環境チームで検討し環境を整えた。
- ③本園と分園の連携を密に図り、豊かな教育保育が行えるようにする。
 - ・コロナやノロウイルスなどの感染症の関係で行き来が十分にできなかった。
- ④特色・サービスの視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者と職員との交流を深める。
 - ・地域の施設・学校・関係者に園だより等を配布する。
 - ・湊川神社への避難訓練時、腕章をつけて、地域の方に知っていただく。
 - ・園庭開放、子育てひろばにて、園を知っていただく。
 - ・園庭開放ポスターを病院等に掲示していただく。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講する。
 - ・職員会議毎に研修、伝達講習、ブレインストーミング等を行う。
 - ・教育保育部門合同研修を行う。(2、3年目研修)
- ⑥人材確保・定着に努める。(ICTを活用し、効率化を図る。)
 - ・書類の効率化に努めた。
 - ・会議での保育の意見交換等によりやりがいを感じられる機会を作った。
- ⑦特別な配慮、支援の必要な子どもへの理解を深め、多角的にアプローチする。
 - ・すこやか対象児童以外でも配慮の必要な子どもの話し合いを定期的に行い、かかわりを深めた。虐待の恐れのあるケースについては親子ともに心身の状態を観察するようにした。
- ⑧子育てサロン、外国にルーツを持つ子どものための学習教室を通して、地域への支援を深める。
 - ・子育てサロンを9月から再開。学習支援は3人程度利用している。
- ⑨リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。

・世の中の事件や事故にもすぐに対応できるようにオンライン会議を活用した。

⑩ 1号認定に移行する法人内小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。

・1月より少しずつ登園機会を作り小規模の職員にも本園に来てもらい引継ぎをしっかりと行った。

⑪ 新型コロナウイルス感染症対策を行う。

- ・手洗い手指消毒、マスクの着用
- ・家庭内や園での健康観察の周知徹底
- ・十分な換気、空気清浄機の活用

*その他、日常の保育や行事の開催方法、地域貢献事業の開催についても、状況をみながら計画に合わせて対応していく。（秋ごろから少しずつ緩和していった）

4. 《地域貢献事業計画》

- ・8月 地蔵盆 （規模を縮小して行った）
- ・12月 おもちつき （中止）
- ・毎月、基本第4土曜日 子育てサロンを開催 （10月より再開した）
- ・毎週火曜日 外国にルーツを持つ子どものための学習教室
- *計画にはなかったが中央区社会福祉協議会「はじめの一步ツアー」
ほっとかへんネット中央「こどもと高齢者のオンライン交流会」を行った。

5. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止 説明会のみ行った）
5月	お楽しみ会（こいのぼり集会） 春の遠足（5歳児）（中止） 運動会（秋に全園児で行った）
6月	歯科教育指導（中止） 同園会
7月	全園児プール開き（水遊びに変更） 七夕祭り ワークキャンプ受け入れ（中止）
8月	地蔵盆（規模を縮小して行った）
9月	デイサービスお祝い会（中止） お泊り保育（5歳児）（特別な保育実施）
10月	秋の遠足（全園児）（0～2歳児は遠足ごっこに変更） 保育参加日（11月に行った）
11月	作品展 お楽しみ会 津波避難訓練
12月	クリスマス会 おもちつき（中止）
1月	よいこの集い 六甲山そり遊び遠足（5歳児）（11月園外保育に変更） お楽しみ会 津波避難訓練
2月	生活発表会 ピドスコープ撮影
3月	お別れ遠足（全園児） お別れ会 卒園式 津波避難訓練

月間行事

・お誕生日会（保護者参加なし） ・防災訓練 ・防犯訓練 ・ECC英語遊び

その他

- ・音楽指導、ダンス（4、5歳児）月数回 （ダンスは中止）
- ・盲学校幼稚園部児童との交流 月数回 （対象児童なし）

- ・事故対応訓練（SIDS プール事故 アレルギー対応）
- ・消火器 火災報知機の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 年1回

6. <<保健衛生報告>>

項目	頻度等
園児、職員定期内科健康診断	園児 春秋 年2回 職員 春 年1回
園児歯科健診	6月 11月 (4、5歳児)
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児眼科健診	6月 2月 (4、5歳児)
園児発育測定	月1回
園児検尿	年1回
調理員、保育者全員検便	月1回以上
調理室の消毒	月1回
グリストラップの清掃	年4回
エアコン、換気扇の清掃	年1回
砂場消毒	年1回

7. <<令和4年度在籍園児数>>

本園

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (9人)	1歳児 (21人)	2歳児 (23人)	3歳児 (25人)	4歳児 (26人)	5歳児 (26人)	合計 (130人)
4月	6	25	23	25	25	23	127
5月	7	25	25	25	25	23	128
6月	9	25	25	25	25	23	130
7月	8	25	25	25	25	23	130
8月	8	25	25	25	25	23	130
9月	8	25	25	25	24	23	130
10月	8	25	25	25	22	23	128
11月	8	25	25	24	22	23	128
12月	9	25	25	25	25	23	131
1月	9	25	25	25	25	23	131
2月	9	25	25	25	26	23	131
3月	9	25	25	25	26	23	131
合計	103	300	298	299	295	276	1555

1号認定

年齢 (定員)	3歳児 (5人)	4歳児 (5人)	5歳児 (5人)	合計 (15人)
4月	6	5	6	17
5月	6	5	6	17
6月	6	5	6	17
7月	6	5	6	17
8月	6	5	6	17
9月	6	5	6	17
10月	6	5	6	17
11月	6	5	6	17
12月	6	5	6	17
1月	6	5	6	17
2月	6	5	6	17
3月	6	4	6	16
合計	72	59	72	203

とも分園

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (2人)	1歳児 (3人)	2歳児 (4人)	3歳児 (5人)	4歳児 (7人)	5歳児 (9人)	合計 (30人)
4月	6	8	9	9	8	9	49
5月	7	8	9	9	8	9	50
6月	9	8	9	9	8	9	52
7月	8	8	9	8	7	9	51
8月	8	7	9	8	7	9	51
9月	8	7	9	8	7	9	51
10月	8	7	9	8	8	9	52
11月	8	7	9	8	8	9	52
12月	9	7	9	9	8	9	52
1月	9	7	9	9	8	9	52
2月	9	7	9	9	8	9	52
3月	9	7	9	9	8	9	52
合計	103	88	108	103	93	108	603

8. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

本園

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
8件	1838件	7件	1435件

○事故発生内容

- ・走って、カーペットでつまずいて、足がもつれての転倒での唇のけがが多かった。
- ・手をついたときに肘内障になった。
- ・友だちの爪が目当たった。

とも分園

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
1件	1218件	0件	1981件

○まとめ

- ・転倒した際に口を打つことが多かったので手をつくことができるようにハイハイやマット運動など取り入れたい。

9. 《苦情・相談結果報告》

※園長が直接対応した件を苦情の定義とする。

○報告件数・・・2件（本園1件 分園1件）

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	7件	7件	0件		2件	2件	0件

○苦情内容

- ・友だちに押し倒された場面に母・保育者がいたが母の思う対応をしてもらえなかった。以前も押されていたのを見たので日頃しっかり見てくれているのか心配で園長と話がしたいと申し出があった。
- ・とも分園の5歳児が12月に本園で1日過ごした際午睡の時にご座でかけ布団（バスタオル）もなく子どもが帰ってきて寒かったと言っていたが、どういうことかと園長に電話があった。

○まとめ

- ・日頃からの子どもの様子をこまめに伝え母親との信頼関係を築いていくとともに保育環境の見直し、園での決まりはどの職員でも同じように答えられるように職員間の意思疎通を図る。
- ・空調温度と床暖房によりバスタオルなしと判断したが、バスタオルを分園に取りに行くべきだった。手間を惜しまず子ども第一で考えて行動することを伝えた。

10. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和4年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
本園	12件	16件	1,259,254円	1,050,000円
分園	4件	23件		

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令における神戸市からの通達をもとにその都度運営会議を開き対策を話し合った。
- ・感染者が出た場合は法人内でできること（消毒作業）を積極的に行い連携を図った。
- ・登園自粛対象者の延べ人数 本園115人 分園9人

1.1. 《総括》

- ・令和4年度も、日頃の保育、行事等様々なところで新型コロナウイルス感染症対策を行った。また、少しずつではあるが、感染対策を緩和しながら、行事等を行える機会も増加した。
- ・日頃の保育については、職員間のコミュニケーションが不十分な場面がみられた。会議でのブレインストーミングを通して、意見等を自ら発信しやすい環境づくりを進めていく。
- ・保育内容については、保護者の方にも主体性を培い、非認知能力を高める保育の理解を深めていただけるように努めた。
- ・担任からの日頃の保護者との会話、園だよりで関連事項の記載を通して一定の理解を得られたと感じている。
- ・令和5年度も引き続き保護者の方への理解を深めていただける工夫をするとともに、子どものことを第一に考え、職員同士のコミュニケーションを円滑に図ることができるように努めていく。

令和4年度 事業報告書

大慈ひょうご幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ・安全を第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽に励み、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ・理念に基づいた教育、保育を職員で共通理解し、実施する。
- ・子ども、保護者に寄り添い、地域とともに歩む。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・法人内幼保連携型認定こども園、小規模保育園との連携を図り、独自性を出す。
- ・地域交流を深め、地域子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和4年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・子どもの発達段階をよく理解し、丁寧な関わりに努め、子どもの想いを共有した。
 - ・子どもが自ら活動できるよう環境を検討し、工夫した。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・その時の子どもの興味、関心を見逃さず、広がる遊びを予想し環境を整えた。
- ③子どもや保護者、地域とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにした。
 - ・地域の学校、施設、関係者に園だよりを配布し、園の活動内容を知って頂ける様に努めた。
 - ・要支援家庭、外国籍家庭に対して、職員が共通理解を持ち保育を進めると共に、関係機関と連絡を密にして子どもが安定して園生活を過ごすことができるようにした。
- ④異年齢児交流を行い、関わりを深めていく。
 - ・異年齢で一緒に散歩に行く等して関わりを深めた。
- ⑤資質向上のため、職場内、職場外研修（オンライン研修含む）を行い、全職員で共通理解をする。
 - ・キャリアパス要件を満たすようオンラインで研修を受講した。
 - ・職員会議毎に研修、伝達講習、ブレインストーミングを行った。
 - ・教育保育部門の管理者でオンラインで話し合いを行い、職員に周知徹底を行った。
 - ・法人内職員での専門性を深めるチーム会議を随時行い、各園に周知した。
- ⑥人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦行事に地域の方を招待し、一緒に遊ぶ機会を計画するなど、地域交流を深め、地域に根付いた園であり続ける。
 - ・感染症対策のため、行事などへの招待ができず、交流を持つことができなかった。
 - ・市民花壇の花に年長児と共に水やりをし、季節の移ろいに合わせた花を咲かせて、地域の方にも声を掛けていただいた
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。

- ⑨1号に移行する大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。
- ・今年度は法人内の小規模からの受け入れはなかった。
- ⑩感染症対策を、状況により取り組んでいく。
- ・マスク装着、手洗い、手指消毒、換気の徹底を行った。
 - ・家庭内や園での健康観察の周知徹底を図った。
 - ・発熱時、その他症状における対応を適切に行った。
 - ・神戸市からの情報を職員、保護者へ発信すると共に取り組み指導を行った。
- ※その他、日常の保育や行事の開催方法、地域貢献事業などは、状況をみながら対応した。

4. 《地域貢献事業報告》

- ・6月 体験保育（中止）
 - ・6月 10月 お楽しみ会（人形劇 ミュージカル等）（中止）
 - ・7月 8月 プール開放 夏まつり 大慈こども園の地藏盆（中止）
 - ・11月 焼き芋パーティー（中止）
 - ・毎月第1、3水、木曜日 園庭開放
 - ・ほっとかへんネット兵庫 地域の悩み相談、食品や日用品の交換配布会
- ※新型コロナウイルス感染症対策のため、地域住人の招待は中止した。
- ※園庭開放は人数を制限して行った。

5. 《修繕・購入報告》

- 幼児クラス床張り替え
 - ・令和5年度の大規模修繕で行うことになった
- 屋上のフェンスの取り換え工事 金額550万円

6. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止し説明会を行った）
5月	春の遠足（いちご狩り中止）
6月	食育フェア（中止） お楽しみ会（中止） 歯科教育指導
7月	プール開き 七夕祭り 夏まつり プラネタリウム（5歳児）（中止）
8月	プール参観（中止） 湊小学校プール参加（中止） ワークキャンプ受け入れ（中止）
9月	お泊り保育（夜までの特別保育、泊りは無し）
10月	運動会 いもほり遠足（3、4歳児） 秋の遠足 お楽しみ会（中止）
11月	焼きいも大会 参観ウィーク 作品展 津波避難訓練
12月	ドレミコンサート クリスマス会
1月	もちつき（中止） よい子のつどい（5歳児） そりあそび（5歳児）（中止） 津波避難訓練
2月	生活発表会
3月	お別れ遠足（全園児） お別れ会 卒園式 津波避難訓練

月間行事（月1回）

- ・お誕生日会
- ・防災訓練
- ・防犯訓練
- ・ECC英語遊び
- ・音楽あそび

その他

- ・兵庫区の保育園（所）との交流会 年3回
- ・兵庫区内児童館との交流
- ・法人内園の交流
- ・湊小学校との交流
- ・東出町自治会、老人会との交流
- ・消防署による消防訓練 年1回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 各年1回
- ・事故対応訓練（SIDS プール事故 アレルギー対応 痙攣）
- ・消火器、火災報知機の点検を年2回行う。

} 中止

7. 《保健衛生計画》

項 目	頻 度 等
園児、職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月 11月 年2回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
4、5歳児眼科健診	6月 年1回
園児身体測定	月1回
園児尿検査	年1回
調理員、保育者検便	月1回以上
調理室の消毒	月1回
グリストラップの清掃	年4回
エアコン、換気扇の清掃	年1回
砂場消毒	年1回

8. <<令和4年度在籍園児数>>

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (8人)	1歳児 (15人)	2歳児 (16人)	3歳児 (17人)	4歳児 (17人)	5歳児 (17人)	合計 (99人)
4月	8	18	18	15	20	18	97
5月	8	18	18	15	20	18	97
6月	8	18	18	15	20	18	97
7月	8	18	18	15	20	18	97
8月	9	18	18	15	20	18	98
9月	9	18	18	15	20	18	98
10月	9	18	18	15	20	18	98
11月	9	18	18	16	20	18	99
12月	9	18	18	17	20	18	100
1月	9	18	18	17	20	18	100
2月	9	18	18	17	20	18	100
3月	9	18	18	17	20	18	100
合計	104	216	216	189	240	216	1181

1号認定

年齢 (定員)	3歳児 (3人)	4歳児 (3人)	5歳児 (3人)	合計 (9人)
4月	3	3	3	9
5月	3	3	3	9
6月	3	3	3	9
7月	3	3	3	9
8月	3	3	3	9
9月	3	3	3	9
10月	3	3	3	9
11月	3	3	3	9
12月	3	3	3	9
1月	3	3	3	9
2月	3	3	3	9
3月	3	3	3	9
合計	36	36	36	108

9. <<リスクマネジメント報告>>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
7件	1800件	5件	1552件

○事故発生内容

- ・ 砂場のコンクリートの縁に躓いてバランスを崩し転倒し、砂場用玩具で上の前歯2本を打った。
- ・ 壁の木製部分がささくれている、指に棘が刺さった。
- ・ 食器を落とし、割れた食器の破片を踏んで左足裏から少し血が出ていた。
- ・ 歩いている時にバランスを崩し、玩具の棚の端に前歯と歯茎をぶつけた。
- ・ 水筒を左足の薬指の上に落とした。

○まとめ

- ・ バランスを崩して転倒、物にぶつかり打撲などのけがに繋がることがあった。けがに繋がらなくても何もない所でバランスを崩すことも多く見られたため、子どもの体幹を鍛える運動を取り入れていく。
- ・ 建物の劣化でささくれが出来、棘が刺さることがあった。令和5年度に大規模修繕を行うが、定期的に安全点検を行い、危険箇所はすぐに修繕していく。

10. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・1件

報告件数	令和3年度			報告件数	令和4年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	2件	1件	1件		1件	1件	0件

○苦情内容

- ・ 複数の子どもが同じ子どもに対して4回噛みつき事故が起こった。保護者から、5、6回目とまた子どもが噛まれるのではないかと心配になる。噛みつきが起きた状況と、対応策を書面で出してほしいとのことだった。

○まとめ

- ・ 噛みつきをする子どもが複数おり、同じ子どもを4回噛んでしまう、ということが起きた。噛みつき事故が起こる度に職員間で対応策を考え、同じ子どもが何度も噛まれないようにと話し合ってきたが、新卒職員が多く、危機管理への意識が薄いことで何度も噛みつき事故が起きてしまった。全職員で再び話し合い、噛みつきが起こった事案を1件づる振り返り、何故噛みつきが起こってしまったのか、どうするべきだったかを話し合い、その内容を保護者の方に口頭でも説明し、書面にして渡した。

11. 《新型コロナウイルス感染症》

○発生件数

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
3件	26件	1,083,041円	1,050,000円

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令による神戸市からの通達をもとに、その都度運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙やLINE配信にて保護者へと知らせた。
- ・感染者が出た場合は法人内でできること（消毒業者の手配、夜食の手配など）を積極的に行い連携を図った。
- ・登園自粛対象者の延べ人数 215人

1.2. 《総括》

- ・令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、大きな行事は人数制限を行うなど、保護者の方にもご理解ご協力をいただき開催した。令和4年度後半は数か月ごとに対応が変わり、職員も保護者も戸惑うことはあったが、その都度対応を周知し対策をとりながら保育・行事を行うことができた。
- ・普段の子ども達の姿を見ていただく機会が少なかったが、保護者の方と密にコミュニケーションをとることで、園内での子ども様子を知っていただくことが出来たと思う。
- ・3年間、行事を縮小して行ってきたため、若手職員が令和5年度から以前の保育に戻ることに對して職員が不安に感じている様子がある。保護者の方を招待して行う行事が増えていくため、行事を行うにあたって職員間でシュミレーションを行い、心構えができるようにしていく。
- ・子どもたちが主体的に意欲的にいろいろなものに挑んでいくことが出来るよう、主体性保育について勉強会や研修に参加するなど、保育者の質を高めていきたい。

1. 《基本方針》

- ・子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽し、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期計画》

- ・教育、保育要領を理解し、教育保育を深める。
- ・地域交流を深め、地域と共に育てる。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・広報活動、求人活動を積極的に行う。
- ・法人内の幼保連携型認定こども園、小規模保育園との連携を図り、独自性を出す。
- ・地域の子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和4年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・オンライン研修を活用し、主体的に遊べるように環境を整えた。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、子どもの主体性を育むよう、子どものつぶやきや発見を大切に保育環境を整えた。
- ③大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園との連携を図り、豊かな保育が行えるようにする。
 - ・職員間で情報を共有し、土曜日の合同保育を行った。
 - ・1号への移行児は、園が変わっても出来る限り子どもの負担にならないように、職員間で情報共有を図った。
- ④特色や事業内容の視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を知っていただいた。
 - ・ホームページやインスタグラムの更新をし、保育の発信を図った。
 - ・地域に園だよりを配布して、園のことを知っていただけるよう努めた。
 - ・子育てひろばは新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止した。園庭開放は参加人数を制限し、感染症対策を行いながら10月より再開した。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすようオンライン研修を受講した。
 - ・保育の専門性を高めるためオンライン研修を受講した。
 - ・部門全体でオンライン研修を行った。
 - ・毎月の職員会議でマニュアル研修をおこない、職員間での共通理解を深めた。
- ⑥人財確保・定着に努める。(ICTの活発な活用等により効率化を図る)
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・職員間で周知、改善をし、再発防止に努めた。
 - ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。

- ⑧園開放にたくさん参加していただけるよう受け入れ体制を整えておく。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため組数を制限し、園庭での受け入れとした。
(10月より再開)
- ⑨地域の子育てニーズに応えるべく一時保育を積極的に受け入れる。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、受け入れを中止した。
- ⑩子育てサロンを通して、地域の子育て支援を深める。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止した。(月1回 とも分園で開催した)
- ⑪新型コロナウイルス感染症対策を行う。
 - ・職員、3歳児以上のマスク着用、手洗い手指消毒の徹底、健康観察の周知徹底を行った。
 - ・こまめな換気、加湿器、空気清浄機の活用を行った。
 - ・職員や保護者へ取り組み指導を行った。
 - ・神戸市からの情報をその都度LINEやお手紙にて発信をした。
 - ・発熱や体調不良の場合は細かく症状を聞き取り、園児や同居の方の体調把握に努めた。

4. 《地域貢献事業報告》

- ・6月 お楽しみ会(中止)
- ・8月 プール遊び、夏祭り、大慈こども園の地藏盆(全て中止)
- ・11月 お楽しみ会(中止)
- ・1月 おもちつき(中止)
- ・毎月 基本第2、第4木曜日 園庭開放(人数制限をおこなないながら10月より再開)
- ・毎月 基本第2土曜日 子育てサロン開催(中止)
- ・ほっとかへんネット中央との連携(スマイルいそがみとのオンライン交流会)

5. 《大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園との連携》

- ・土曜日は大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児も大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
 - 新型コロナウイルス感染症やその他の感染症の状況を見ながら合同保育を行った。
- ・1号に移行する大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児(2歳児)を早めに受入れ慣れるようにする。
 - 1月下旬より感染症の状況をみながら交流をはかり、2月下旬よりこども園で過ごし始めた。

6. 《行事報告》

年間行事

月	行事名
4月	入園式（式は中止、説明会のみ）
5月	5歳児春の遠足（中止） お楽しみ会（中止）
6月	お楽しみ会（少人数ずつでおこなった） 歯科指導（中止）
7月	プール遊び（水遊びに変更） 七夕まつり ワークキャンプ受け入れ（中止）
8月	夏まつり（中止 同園会は7月に変更） ワークキャンプ受け入れ（中止）
9月	5歳児お泊り保育（夜までの特別な保育に変更）
10月	運動会（2部制で行った） 遠足ごっこ（0歳児～2歳児） 秋の遠足（3歳児～5歳児）
11月	参加、参観ウィーク 作品展 お楽しみ会 津波避難訓練（大倉山中央体育館）
12月	音楽会（4、5歳児のみに変更） クリスマス会
1月	おもちつき（中止） 5歳児そり遊び遠足（11月園外保育に変更） よいこの集い 地震避難訓練（大倉山中央体育館）
2月	発表会
3月	全園児お別れ遠足 津波避難訓練（大倉山中央体育館） お別れ会 卒園式

月間行事（月1回）

- ・お誕生日会（園児のみ） ・防災訓練 ・防犯訓練 ・ECC英語遊び
- ・園児発育測定

その他

- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 年1回
- ・事故対応訓練（SIDS プール事故 アレルギー 痙攣）

7. 《保健衛生報告》

項目	頻度等
園児、職員定期内科健康診断	園児4月9月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	6月 11月 年2回
園児耳鼻科健診	4月 年1回
園児眼科健診	6月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員、保育教諭全員検便	登録衛生検査所有研により月1回 6月～10月 月2回
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	アーテックサーキュレーションにより年4回
エアコン、換気扇の清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

8. <<令和4年度在籍園児数>>

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (6人)	1歳児 (10人)	2歳児 (10人)	3歳児 (11人)	4歳児 (11人)	5歳児 (12人)	合計 (60人)
4月	9	12	12	13	13	13	72
5月	9	12	12	13	13	13	72
6月	9	12	12	13	13	13	72
7月	9	12	12	13	13	13	72
8月	9	12	12	13	13	13	72
9月	9	12	12	13	13	13	72
10月	9	12	12	13	12	13	72
11月	9	12	12	13	13	13	72
12月	9	12	12	13	13	12	71
1月	9	12	12	13	13	12	71
2月	9	12	12	13	13	12	71
3月	9	12	12	13	13	12	71
合計	108	144	144	156	156	152	860

1号認定

年齢 (定員)	3歳児 (5人)	4歳児 (5人)	5歳児 (5人)	合計 (15人)
4月	5	6	5	16
5月	5	6	5	16
6月	5	6	5	16
7月	5	6	5	16
8月	5	6	5	16
9月	5	6	5	16
10月	5	6	5	16
11月	5	6	5	16
12月	5	6	6	17
1月	5	6	6	17
2月	5	6	6	17
3月	5	6	6	17
合計	60	72	64	196

9. <<リスクマネジメント報告>>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
11件	1463件	5件	1338件

○事故発生内容

- ・友たちと遊んでいる際に、転倒して前歯を打ち歯茎から出血した。
- ・友だちと遊んでいる際に前を見ていなくて壁に衝突。耳に擦り傷が出来た。
- ・室内で走っていて他児と衝突。下唇からの出血と上唇小帯が切れた。
- ・保育室のロールカーテンの後ろに隠れこんだ時に、ロールカーテンの部品が外れていたため、金具の部分で耳を切った。

○まとめ

- ・友だちとの遊びの中で前を見ていなかった事が原因で衝突、転倒、擦り傷、打ち身へとつながった。危険が予測される時、事前に防いでいけるように、その都度室内外の職員の配置を見直した。
- ・保育室のロールカーテンの部品が外れていたことから、切り傷ができた。園内の全てのロールカーテンを確認し、部品が外れている所は全て取り付け、再発防止を図った。

10. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	4件	3件	1件		5件	5件	0件

○苦情内容

- ・新型コロナウイルス感染症発生時に自宅待機の該当者となった保護者より、自宅待機の定義を知りたい。自宅待機中は仕事にいけないので困る等、新型コロナウイルス感染症に関する苦情が2件あった。
- ・お迎えに来た時、子どもが一人で玄関まで降りてきていた。その旨を伝えた時の職員の対応から重大なことだと捉えていないように感じた。
- ・職員間の会話を聞いて子どもが悲しい思いをした。
- ・食事の時間に保育者の関わり方で子どもが嫌な思いをした。その時の状況を知りたい。

○まとめ

- ・新型コロナウイルス感染症発生時の神戸市での取り扱いを説明し、理解していただいた。その他、保育者の子どもとの関り方や、職員間での対応の違いや配慮に欠けていたことが原因で保護者の方にご心配をおかけすることとなった。
- ・経験の浅い職員が多く、子どもや保護者の方への細やかな関わりが出来ていなかった。職員の資質向上に努めるとともに、職員間で共通理解を図ることが出来るように話し合いの場を設けたり、相談しやすい関係作りに取り組んでいきたい。保護者の方との日頃の会話を大切にし、信頼関係を築いていけるようにしていく。

1 1. 《新型コロナウイルス感染症》

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要し た費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等
11件	22件	726,919円	703,000円

○まとめ

- ・神戸市からの通達をもとに、その都度、運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応が変わるたびに、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙やLINEの配信にて保護者へと知らせた。
- ・登園自粛対象者の延べ人数 329人

1 2. 《総括》

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながらの保育となった。
- ・上半期は感染者が多く、自宅待機を呼びかけることが数件あった。下半期になると新型コロナウイルス感染症の取り扱いが変更になったため、感染症対策を行いながら園庭開放や行事を進めていくことができた。
- ・コロナ禍に就職し行事を経験していない職員が多いため、話し合いを重ねて行事に取り組んだ。保護者の方に見ていただく機会は子どもにとって、とても貴重な経験だと実感した。令和5年度は、感染症対策を行いながらも以前の日常に戻していく1年と予想できる。子どもたちが主体的に活動ができたり、豊かな経験ができるように職員間で話し合いを重ねて計画をし、知恵を絞り、環境を整えていきたい。

1. 《基本方針》

- ・子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽に励み、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ・保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する。
- ・子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・法人内幼保連携型認定こども園との連携を図り独自性を出す。

3. 《令和4年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
 - ・子どもの発達段階や興味のある玩具を置き、主体的に遊べるように環境を整えた。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にする。
 - ・園での様子をこまめに伝え、成長した姿を共有する中で家庭での様子を聞き、連携を図った。
- ③大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
 - ・職員間で情報を共有し、土曜日の合同保育を行った。
 - ・連携園に遊びに行くことで、各園の園庭や室内で同年齢との交流を図った。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員の名前と顔を知っていただいた。
 - ・地域に園だよりを配布し、園のことを知っていただくように努めた。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修含む）を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・教育・保育部門合同研修を行った。
 - ・毎月の職員会議でマニュアル研修をおこない、職員間での共通理解を深めた。
- ⑥日頃より、法人内園、児童館に行き、交流を深める。
 - ・各園や館に遊びに行くことで、園にはない玩具や園庭で遊び、園の子どもたちと交流をもてるようにした。
- ⑦人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・職員間で周知、改善をし、再発防止に努めた。
 - ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすように努めた。
- ⑨感染症対策を行う。
 - ・常に窓を開けて換気を行うことで感染防止に努めた。
 - ・職員、子ども、保護者の体調管理として健康観察表を毎日回収し、体調の把握に努めた。
 - ・手洗い、手指、玩具の消毒をこまめに行うよう徹底した。
 - ・掲示板や配布物を使い、神戸市からの感染症情報を発信すると共に、連携園と密に情報を共有し感染拡大防止に努めた。

※感染拡大防止に努めたことで、自粛することなく保育を行うことができた。

4. 《大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携》

- ・土曜日は大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
→新型コロナウイルス感染症やその他の感染症の状況を見ながら合同保育を行った。
- ・1号で移行する園児（2歳児）は各連携園に、早めに受け入れていただき、慣れるようにする。
→1月下旬より感染症の状況をみながら交流を図り、2月下旬よりこども園で過ごし始めた。

5. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止。説明会のみ行った）
5月	運動会（10月に実施した）
6月	個人懇談
7月	七夕まつり
10月	運動会・遠足ごっこ
11月	個人懇談（希望者のみ）
12月	クリスマス会
1月	お楽しみ会
2月	豆まき
3月	お別れ遠足（バスに乗ってどうぶつ王国へ行った） お別れ会（子ども達と職員と一緒に遊んだ） お別れ会（2歳児とその保護者が参加し修了式をした）

月間行事

- ・お誕生日会（子どものみ参加）
- ・ECC英語遊び
- ・防災訓練

その他

- ・防犯訓練
- ・事故対応訓練（SIDS 誤飲 アレルギー対応）
- ・消火器、火災報知機の点検 年2回

6. 《保健衛生計画》

項 目	頻 度 等
園児、職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月 年1回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児身体測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育者全員検便	（株）有研により月1回以上

*感染拡大状況により実施、内容、時期を検討し対応する。

7. 《令和4年度在籍児園児数》

年齢 (定員)	0歳児 (3人)	1歳児 (4人)	2歳児 (5人)	合計 (12人)
4月	1	4	4	9
5月	2	4	5	11
6月	2	4	5	11
7月	2	4	5	11
8月	2	4	5	11
9月	2	4	5	11
10月	2	4	5	11
11月	3	4	5	12
12月	3	4	5	12
1月	3	4	5	12
2月	3	4	5	12
3月	3	4	5	12
合計	28	48	59	135

8. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
1件	738件	1件	511件

○事故発生内容

- ・0歳児の子どもがままごとコーナーで遊んでいたときに、木の冷蔵庫でおでこをぶつけ病院受診をした。

○まとめ

- ・大きな怪我には至らなかったが、もう少し下だと目に当たっていた。色んなことに興味がある時期なので、一人一人の行動に気を付けていくことができるように、職員間で話をした。

9. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→管理者が直接対応した件を苦情する。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		1件	1件	0件

○内容

- ・消防点検の業者の方が園に入っていく姿を保護者が見ていた。その後、業者の方はスリッパを履いているのかを尋ねられた。スリッパは履いていないことを伝えると、水虫は靴下を履いていてもうつることを知り合いから聞いた。園の対応を教えて欲しい。

○まとめ

- ・子ども達は裸足で過ごしているため、足を踏むと危険なのでスリッパの用意はしていなかったが、衛生面を考えスリッパを置くようにした。

10. 《新型コロナウイルス感染症報告》

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (児童)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
0件	1件	220,678円	220,000円

○まとめ

- ・1人の陽性者が出たが、兄弟がかかり自粛期間中のため登園していなかったため、感染拡大することはなかった。
- ・神戸市からの通知をもとに、その都度教育・保育部門で運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応が変わるたびに、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙やLINEの配信にて保護者へと知らせた。

11. 《総括》

- ・4月当初は、新入園児の入園数が少なく、一人一人の子どもと十分関わることができた。また、保護者の方とコミュニケーションが取れ、園と家庭での情報交換が出来た。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、お誕生日会に保護者の方を招待することが出来なかったが、運動会は人数制限をしながら招待し開催出来た。また、お別れ遠足は久しぶりにバスに乗って全園児、神戸どうぶつ王国へ行けた。動物を近くで見られる体験ができ良かった。
- ・新型コロナウイルス感染症の制限がなくなることが予測されるが、感染症対策として、引き続き手洗い消毒を徹底していく。

1. 《基本方針》

- ・子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ・子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする。
- ・地域に愛される大慈さち小規模保育園になるよう努める。
- ・法人内幼保連携型認定こども園の連携を図り独自性を出す。

3. 《令和4年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
 - ・子どもの発達に合った室内環境を整え、主体的に遊べるようにした。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にする。
 - ・園での様子や成長した点をこまめに伝えることで、成長を共有し、保護者との信頼関係を築いた。
- ③法人内幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
 - ・連携園にこまめに遊びに行くことで、各園で砂遊びや広い園庭で十分に身体を動かすなど様々な体験を行った。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを配布し、職員の顔と名前が保護者に認識していただけるようにした。
 - ・散歩の際に気軽に声を掛けていただいたり、おたより配布のたびに子どもたちの成長を喜んでいただいたりした。
 - ・子どもたちと花壇の花を季節ごとに植えることで植物に関心を持てるようにした。地域の方にも子どもたちの植えた植物の成長を見守っていただけた。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う
 - ・キャリアパス要件を満たすよう、研修を受講した。
 - ・毎月の職員会議でマニュアル研修をおこない、職員間での共通理解を深めた。
- ⑥人財確保・定着に努める。(ICTの活発な活用等により効率化を図る)
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に取り組んだ。
- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・園だけでなく、部門全体で情報を共有し、想定内を増やすよう努めた。
- ⑧新型コロナウイルス感染症対策を行う。
 - ・職員や保護者等のマスク着用、手洗い手指消毒を徹底した。
 - ・健康観察表の体温を確認し、さらに保護者に体調不良等がないか声をかけることで早期に感染症に気づき、感染拡大を防止できるよう努めた。
 - ・常に換気を行うことで感染拡大防止に努めた。
 - ・掲示板や配布物を使い、神戸市からの感染症情報発信を行った。
 - ・発熱やその他の症状における対応として神戸市や連携園と密に情報を共有し、感染拡大防止に努めた。

4. 《法人内幼保連携型認定こども園との連携》

- ・土曜日は大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
→感染拡大防止のため感染症が流行している時は合同保育を控えた。
- ・1号で移行する園児（2歳児）は法人内幼保連携型認定こども園に、早めに受け入れていただき、慣れていけるようにする。
→年度当初から姉妹園の園庭に遊びに行く機会を作った。また、2月下旬から行事がある日以外は移行園に登園するようにした。

5. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止。説明会だけ行った）
5月	運動会（10月に実施した）
6月	個人懇談
7月	七夕まつり
10月	遠足ごっこ
11月	個人懇談（希望者のみ）
12月	クリスマス会
1月	おもちつき（中止）
2月	豆まき
3月	お別れ会（子どもたちと職員とで一緒に遊んだ） お別れ会（2歳児とその保護者が参加し、修了証書を渡した） お別れ遠足（神戸どうぶつ王国）

月間行事

- ・お誕生日会（子どものみ参加）
- ・ECC英語遊び（9月から実施）
- ・防災訓練

その他

- ・防犯訓練
- ・事故対応訓練（SIDS 誤飲 アレルギー対応）
- ・消火器、火災報知機の点検 年2回

6. 《保健衛生計画》

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科検診	6月 年1回
園児耳鼻科検診	6月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育者全員検便	（株）有研により月1回以上
エアコン清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

7. 《令和4年度在籍園児数一覧表》

年齢 (定員)	0歳児 (4人)	1歳児 (7人)	2歳児 (8人)	合計 (19人)
4月	3	7	8	18
5月	4	7	8	19
6月	4	7	8	19
7月	4	7	8	19
8月	4	7	8	19
9月	4	7	8	19
10月	4	7	8	19
11月	4	7	8	19
12月	4	7	8	19
1月	4	7	8	19
2月	4	7	8	19
3月	4	7	8	19
合計	47	84	96	227

8. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
3件	680件	1件	541件

○事故発生内容

- ・2歳児が保育室で顎を打ち、その衝撃で下の前歯がぐらついた

○まとめ

- ・ヒヤリハットの件数が100件以上も少なくなっている。ヒヤリハットを書く職員が限られていたため、少なくなったと考えられる。次年度はどの職員にもこまめに書くよう呼びかけ、事故発生の予防に努める。

9. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→管理者が直接対応した苦情とする。

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		1件	1件	1件

○苦情内容

- ・土曜日登園した際、持参しているお茶が全く減っていなかった。また降園後も普段と様子が異なった。平日はお茶を飲ませてもらっているが、なぜ飲ませてもらっていなかったか経緯を知りたい。

○まとめ

- ・土曜日に保育が普段と異なる場所でされていることに保護者自身も不安に感じている様子であった。自園の職員も必ず一人は出勤していることを伝え、安心して預けていただけるように対応した。また、ほまれこども園とも母親が不安を感じていることを共有し、不安を軽減できるように日中の様子をこまめに伝えるようにした。

10. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等
3件	4件	423,053円	405,000円

○まとめ

- ・神戸市からの通知に伴い、法人内園、館で会議を行い、新型コロナウイルス感染状況の把握や予防の対策について決定又は周知を行った。
- ・感染症対策や発生時の対応が変わるたびに、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙やLINEの配信にて知らせた。
- ・7月23日(土)から7月27日(水)登園自粛となった。
- ・登園自粛対象者延べ人数68人。
- ・LINEの配信を行うことで、家庭でも感染防止に努めていただき、仕事が休みの日は家庭保育に協力していただいた。

11. 《総括》

- ・退職や異動で職員が入れ替わったため、些細な体調の変化や子どもの成長を伝えることで保護者との信頼関係を築くようにした。
- ・地域の方には温かく受け入れていただき、子どもたちの成長を見守っていただいた。一方、園周辺に路上駐車をする車があった。近隣のマンションの工事車両ではあったが、安全面を考慮しビルの管理人や警察に連絡するようにした。
- ・新型コロナウイルスの影響で感染症対策をしながらではあったが運動会を実施することができた。また、お別れ遠足もバスに乗って神戸どうぶつ王国に行った。バスに乗ることや動物を近くで見ることができたことを喜んでいて。感染対策を万全に行いながら行事の開催方法を考えていくようにする。

1. 《基本方針》

家庭的な雰囲気の中で、遊びや子ども同士の関わりを通して、将来も幸せになるよう支援を行い、子育てコミュニティの拠点となるよう地域に開かれた児童館を目指す。

2. 《中長期計画》

- ・地域と連携して、子どもを健全に育成する拠点となる。
- ・法人内幼保連携型認定こども園と連携を図り、保育の玄関口となる。
- ・親子が気軽に集い、育児に対する負担感を軽減できる場となる。
- ・育児に不安を覚えた際に、安心して相談しに行きたい場所になる。
- ・初めてくる方が安心して利用できるように、また、児童館の存在を知らない子育て家庭に、知ってもらえるように広報活動をしていく。
- ・地域の小学生以上の児童が進んで遊びに来たくなる場所を目指す。
- ・ボランティアの募集を積極的に行い、児童館活動の更なる充実を図る。

3. 《令和4年度報告》

①地域との連携を密にし、児童館活動を充実させる。

- ・毎月おたよりの配布を行った。
- ・菊水天神祭りのこども神輿に希望者を募り参加した。
- ・新型コロナウイルスの影響を考慮し、指導員のみであったが地域防災訓練に参加した。
- ・子育てコミュニティの方達と打ち合わせをし、日曜開放や、行事に参加していただくことができた。

②法人内こども園と連携して、活動内容の見直しや、環境の整備を行う。

- ・園やおやこふらっとひろば中央で乳児が使っている玩具を紹介してもらったり、手作り玩具を作ってもらったりして、乳児がより楽しめる遊びを取り入れた。

③SNSやホームページを使って広報活動を積極的に行い、児童館の活動内容を地域の方々に知っていただく。

- ・LINEやホームページを活用して親子館事業のプログラムの予約案内をした。
- ・部門のInstagramに児童館の様子を載せた。
- ・中央区の合同行事にて遊びの動画を撮影し、YouTubeで公開した。

④気軽に足を運び、相談ができるように清潔で明るい雰囲気を作っていく。

- ・職員から来館者に声をかけ、気軽に話ができるよう努めた。
- ・きれいな児童館とじていただけるように壁の手垢などの掃除をした。

⑤ボランティア受け入れを行い、遊びや行事の充実を図る。

- ・学習支援教室で年間を通して活動を行った。
- ・めんこや射的等を用意していただき、昔の遊びを教えていただいた。

⑥学習支援教室を引き続き行い、子どもの居場所づくりをすることで地域貢献を行う。

- ・夏休み前までは10名ほどが参加し、宿題や苦手な部分の復習を行った。夏休み以降は塾などに行く子どもが増えたため、5名前後になった。チラシを配るなど参加者を募集したが参加者増とはならなかった。

4. 《地域貢献事業報告》

○ 学習支援教室「まなびやDAIJI」

- ・小学1年生～6年生を対象に令和4年度も引き続き実施した。
- ・主に湊川神社にて実施し、使用できないときは総合福祉センターを使用した。
- ・毎週金曜日15:00～17:00に実施した。
- ・登録人数：12人（1年生～6年生）
- ・ボランティア：3名
- ・令和3年度は新型コロナウイルスの影響で25回の開催であったが、令和4年度は50回開催することができた。
- ・地域や婦人大学、職員からの紹介により集まったボランティアにより宿題や、授業の分からないところを一緒に考えていくようにした。
- ・居場所づくりとして友だちが増える様に、学習用カードゲームを使用したレクリエーションタイムも設けた。

○ トライやるウィーク

- ・総合福祉センター内の施設が交代で受け入れ、湊翔楠中学校の児童を1日受け入れた。
- ・親子館事業の準備や乳児との関わり、学童保育の準備等の活動を通して児童館事業の体験をしてもらうようにした。

○ はじめの一步ツアー

- ・中央区社会福祉協議会「はじめの一步ツアー」にて参加者に館の案内とプログラムへの参加を行った。

○ ファミリーサポートセンターとの連携

- ・ファミリーサポートセンターからの要請を受け、講習時間中の保育場所の提供を行った。

5. 《児童健全育成事業報告》

- ・児童館での日常の自由遊びや行事を通して、児童の健全育成を図った。
- ・引き続き木製の大型遊具をリースで設置し、木のぬくもりを感じながらゆったりとごっこ遊びを楽しんだり、体を動かしたりできるようにした。リースの玩具の入れ替えも行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、本の見直し、個別で遊べる玩具を増やした。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら行事を開催した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、高齢者と多数の児童がふれあう行事は中止にした。

年間行事

4月	新入生歓迎会 こいのぼり作り
5月	楠北まつり参加（中止）
6月	つくって遊ぼう
7月	夏祭り（複数回に分けて「なつまつりごっこ」として開催）
8月	サマープログラム（夏祭りWEEK）（工作・ゲーム等） 交通安全指導 ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流（中止） 子ども神輿参加
9月	高齢者へのプレゼント（中止）
10月	ハロウィン写真撮影
11月	シェイクアウト訓練 音楽遊び
12月	年末お楽しみ会（複数回に分けて開催） なかよしひろばクリスマス会
1月	カルタ大会 けん玉グランプリ
2月	豆まき
3月	つくって遊ぼう

月間行事

・けん玉検定 ・おりがみ教室 ・みんなで遊ぼう ・おはなし会 (中止)

利用人数

	幼児	低学年 (一般)	低学年 (学童保育)	高学年 (一般)	高学年 (学童保育)	中高生	大人	合計
4月	159	9	466	16	198	4	179	1031
5月	173	7	388	12	149	0	160	889
6月	240	4	418	9	128	0	137	936
7月	210	22	416	19	155	21	86	929
8月	40	28	479	31	231	17	69	895
9月	260	12	347	3	118	0	250	990
10月	256	11	379	7	106	4	250	1013
11月	257	11	363	7	79	4	242	963
12月	209	16	382	11	114	6	202	940
1月	191	13	279	10	85	1	195	774
2月	287	7	299	2	78	5	279	957
3月	265	24	377	13	127	0	266	1072
合計	2547	164	4593	140	1568	62	2315	11389

6. <<在宅育児家庭支援報告>>

○ 親子館事

- ・在宅育児家庭における育児に伴う孤立化や育児不安などへ対応するため、地域に住む幼児と保護者を対象に親子が気軽に集える場として事業を行った。
- ・職員が仲立ちとなり、保護者同士が交流できるよう配慮した。
- ・季節が感じられるようなプログラム、親子のふれあいを楽しめるプログラムを取り入れた。
- ・登録児童とその保護者が活動に集中できるように、職員で0、1歳児の弟妹をできるだけ預かるようにした。

○ 「すこやかクラブ」2～4歳児とその保護者の仲間づくり (登録制)

目的：グループで楽しく遊び、保護者同士の交流を図った。

対象：2～4歳児とその保護者

実施日時：毎週木曜日10:00～11:00

毎週金曜日10:00～11:00

登録が19組だったので、新型コロナウイルス対策の為、木曜日と金曜日に分けて実施した。

託児機能：0、1歳児の弟妹は児童館職員ができるだけ預かり、登録の親子が活動に集中できるようにした。

登録組数：(子どもの人数)：19組(19名) 内5組が0、1歳児の弟妹同伴

実施内容・参加人数

	月	日	内 容	参加人数 (組数)
1 学 期	5	19 20	開講式	38 (17)
		26 27	発育測定 制作 (カレンダー)	38 (17)
	6	2 3	制作 (カエル)	35 (16)
		9 10	衛生指導(ふれあい講座)	43 (19)

		16 17	制作 (カレンダー)	32 (14)	
		24	こべっこラント利用 (2クラス合同)	24 (11)	
		30 7/1	制作 (ちょうちん)	36 (16)	
	7	7	七夕祭り (2クラス合同)	31 (14)	
		14 15	夏祭り 1学期誕生日会	43 (19)	
2 学 期	9	2	染紙 (2クラス合同)	32 (15)	
		8 9	制作 (カレンダー)	31 (14)	
		15 16	製作 (しおり)	39 (17)	
		22	制作 (とんぼ)	22 (10)	
		29 30	制作 (旗作り) サーキット遊び	32 (14)	
	10	6 7	制作 (カレンダー)	24 (11)	
		13 14	ミニ運動会	37 (16)	
		20 21	おかあさんプログラム	41 (18)	
		27 28	ハロウィンごっこ	38 (17)	
	11	4	シェイクアウト訓練 (2クラス合同)	25 (11)	
		10 11	制作 (カレンダー) サーキット遊び	33 (15)	
		18	ウマちゃんと遊んじゃおう (2クラス合同)	26 (12)	
		24 25	おかあさんプログラム	33 (15)	
	12	1 2	交通安全指導	25 (11)	
		8 9	防災指導	29 (12)	
		15 16	2学期お誕生日会 クリスマス会	39 (17)	
	3 学 期	1	12 13	つくって遊ぼう (かるた)	29 (13)
			19 20	制作 (カレンダー)	36 (16)
			26 27	歯科衛生指導	23 (10)
		2	2 3	節分遊び	33 (14)
9 10			子育て講座	28 (13)	
16 17			制作 (カレンダー)	32 (14)	
24			ふれあい遊び	18 (8)	
3		2	制作 (ひなまつり)	17 (8)	
		3	お別れ遠足 (王子動物園)	33 (15)	
		9 10	修了式	33 (15)	

○ 「キッズクラブ」すこやかクラブの保護者による幼児の相互関わりと交流

目 的：すこやかクラブのグループで保護者が交代で子どもを世話し、預かり合いをする。

対 象：すこやかクラブ員の希望者

- ・参加者を募ったが、希望者がおらず実施できなかった。

○ 「なかよしひろば」子育て親子の交流の場

対 象：0歳児～就学前児とその保護者

- ・0歳児タイム、1歳児タイムは新型コロナウイルス感染拡大防止の為、令和3年度に引き続き2部に分け、申込制にして実施した。1部、2部共に10組ずつで行った。

- ・予約の受付にインターネット予約を導入した。

実施日：毎週火曜日・水曜日（4月～3月）

- ・0歳児タイム…0歳児の親子が楽しく遊ぶ
毎週火曜日10:00~10:30、11:00~11:30
- ・1歳児タイム…1歳児の親子が楽しく遊ぶ
毎週水曜日10:00~10:30、11:00~11:30
- ・おべんとうひろば…自由に昼食をいただく
毎週月曜日~土曜日11:30~12:30
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、年間を通じて休止した。
- ・誕生日会…2カ月に1度行った(奇数月)

なかよしひろば参加人数

	0歳児タイム参加人数(組)	1歳児タイム参加人数(組)	合計人数(組)
4月	50(25)	76(37)	126(62)
5月	84(41)	36(23)	120(64)
6月	112(55)	58(29)	170(84)
7月	60(30)	92(46)	152(76)
8月	0(0)	0(0)	0(0)
9月	138(67)	118(57)	256(124)
10月	127(62)	118(58)	245(120)
11月	140(68)	136(65)	276(133)
12月	96(48)	103(51)	199(99)
1月	104(49)	35(17)	139(66)
2月	148(74)	139(68)	287(142)
3月	72(36)	141(66)	213(102)
合計	1131(555)	1052(517)	2183(1072)

7. <<子育てコミュニティ育成事業(児童館日曜開放)報告>>

目的:地域における子育てコミュニティづくりを図る

- ・地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」が実施する。
- ・児童館は日曜開放に積極的に協力し、委員の方と共に実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、予約制にして開催した。
- ・夏祭り、年末お楽しみ会は、少人数ずつ予約制にして複数回実施し、子育てコミュニティも分かれて参加した。

日曜開放実施内容及び参加人数

	内 容	参加人数
5月	プレゼント作り	10
6月	プラバン作り	29
7月	七夕飾り	13
7月	夏祭り (乳幼児対象 4回に分けて実施)	152
8月	夏祭りWEEK (小学生対象 5回に分けて実施)	246
9月	スーパーボールすくい	32
10月	スライム作り	32
11月	万華鏡作り	19

12月	年末お楽しみ会（5回に分けて実施）	189
1月	けん玉グランプリ	28
2月	ミニ運動会	23
3月	昔遊び	13

8. 《広報報告》

- ・ホームページを活用し、「じどうかんだより」の更新を行った。
- ・SNSを活用して、興味を持ってもらうことに努めた。
- ・毎月「じどうかんだより」を地域の関係者・関係機関に届け、地域との関係強化を図った。
- ・中央区の合同行事で作成した動画がYouTubeにて公開されており、幅広いPRにつながった。

9. 《安全指導・危機管理報告》

- ・避難訓練（火災、地震、水害、防犯）月1回～2回
- ・一般来館の児童も避難訓練に参加した。

10. 《研修報告》

- ・神戸市や中央区社会福祉協議会が開催した児童館研修に参加し、知識を得た。持ち帰り、他職員に伝達をしたり、実際行ってみたりと有効に活用できた。

11. 《総括》

- ・新型コロナウイルスの影響で、行事の中には中止や縮小したものもあったが、少しでも利用者に楽しんでいただけるように、夏祭りや年末お楽しみ会を小規模で複数の日に分けるなど工夫し行った。
- ・新型コロナウイルス対策で密を避けるため、0歳児タイム、1歳児タイムを今年度も年間を通じて申込制にして実施した。毎週楽しみに繰り返し来てくださる方が多く、母親同士のコミュニティも形成されていた。プログラムの無い日でも、遊びに来ていただくことが増えているので、いつでも気軽に遊びに立ち寄れる児童館であり続けたい。
- ・お母さん同士の友達関係が、幼稚園や保育所を利用するようになっても続いており、児童館で待ち合わせをして利用してくれている。職員に会いに来て近況を教えてくれることもあるので、うまく関係づくりができていたのだと実感している。
- ・学習支援教室では、夏以降の参加人数が減っているので、チラシの配布等広報活動に努めていく。
- ・学童保育利用児童の誘いで、一般来館で遊びに来る児童がおり、日曜開放にも参加していた。児童がたくさん住んでいる場所からは離れているが、それでも遊びに来たくなる場所であるように行事や遊びなどの活動内容を工夫していく。
- ・学童保育を利用していた中学生が一般来館で遊びに来たり、行事に参加したりして楽しんでいった。テストの後など時間に余裕があり、疲れている時にやってきてリラックスして帰る姿が見られたので、中学生にとっても、ほっと一息つける場所にしていきたいと思う。

令和4年度 事業報告書

神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ

1. 《基本方針》

- ・豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ・保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ・湊学童保育コーナーとの連携を密に図る。

2. 《中長期目標》

- ・児童一人一人と丁寧に向き合い、心落ち着く場にする。
- ・安心して学童保育が利用できるよう、保護者との関係作りに努める。

3. 《令和4年度報告》

①高学年児童への対応を学び知識、技能を深める。

- ・研修参加、ミーティングや会議で話し合いを重ねた。
- ・高学年児童とも積極的に関り、理解に努めた。

②豊かな経験ができるよう努める。

- ・お楽しみ会等の企画、準備、進行などを自分たちで行う等のサポートをした。
- ・地域の神輿に希望者とともに参加をした。

③夏季休業日期間の希望者にお弁当委託サービスを行う。

- ・昨年に引き続きライフデリに委託し、実施することができた。

④リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。

- ・部門で情報を共有し、安全確保に努めた。
- ・職員会議で毎月情報共有し、対応について話し合った

⑤児童、職員の交流を深め、湊学童保育コーナーと一体的に保育を行う。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、オンラインを活用してけん玉大会をして交流を図った。
- ・毎日オンラインで合同ミーティングを行い情報を共有した。

⑥植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。

- ・メダカの飼育や花、観葉植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。

⑦小学校との定期的な連絡会を実施する。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、定期的な連絡会は取りやめたが、情報のやり取りを随時行った。

⑧児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。

- ・児童が中心となって発案し準備、進行をしたクリスマス会を行った。

⑨Wi-Fi環境を整備し、小学生のパソコン学習に対応する。また、利用に関するルールについて職員も理解を深め、子どもに伝えていく。

- ・Wi-Fiにつないで宿題をしている。宿題をする時のみ使用できるルールになっていることを児童や保護者に伝えた。

⑩第二コーナー開設に向け、職員の確保・教育を行う。

・年間を通して募集を行い、採用後は湊コーナーで勤務し経験を積めるようにした。

4. 《児童への指導内容》

- ・健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
- ・学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保、自立支援に努めた。

5. 《行事報告》

年間行事

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり こども神輿参加（中止）
6月	七夕飾り作り 交流会（中止）
7月	たちばなカフェ 交通安全指導
8月	夏まつりWEEK（ゲーム・工作） ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流（中止） 子ども神輿参加
9月	運動遊び 高齢者へのプレゼント（中止）
10月	ハロウィン
11月	クリスマス飾り作り
12月	年末お楽しみ会（学童お楽しみ会） たちばなカフェ
1月	かるた大会 けん玉で遊ぼう 個人懇談
2月	地域作品展に編み物等を出品
3月	新1年生入会説明会 お別れ会 たちばなカフェ

月間行事

- ・誕生日会 ・けん玉検定 ・おりがみ教室 ・みんなであそぼう
- ・おはなし会（休止）

6. 《月別在籍数報告》 受け入れ可能人数84名

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
4月	11	4	23	13	6	3	60
5月	11	4	23	13	6	3	60
6月	11	4	23	13	6	3	60
7月	10	4	23	13	6	2	58
8月	10	4	23	13	6	2	58
9月	9	4	22	12	5	2	54
10月	9	4	21	8	5	2	49
11月	9	4	21	8	5	1	49
12月	9	4	21	8	5	1	48
1月	9	4	21	8	5	1	48
2月	9	4	21	8	5	1	48
3月	9	4	21	8	5	1	48
合計	116	48	263	125	65	22	639

7. <防災・防犯訓練報告>

- ・火災、地震、水害、防犯の何れかの訓練を月1回以上行った。
- ・総合福祉センターの防災訓練に参加した。

8. <会議報告>

- ・毎月職員会議を行った。児童について、児童の関わり、作業手順の統一、学童保育の約束事の共通理解、問題点や改善点について話し合った。
- ・長期休み期間を除く平日にオンラインで湊学童保育コーナーとミーティングを行い、情報共有をした。

9. <リスクマネジメント報告>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
2件	1318件	3件	2210件

○事故発生内容

- ・左足小指の骨折（児童）

室内用雲梯で体を大きく前後に揺らして遊んでいた。手を放してマットの上に着地しようとしたが、手を放すタイミングを誤り、雲梯の足場の上に着地した。保護者の迎えの時間直前であり、室内を歩いて移動していたためそのまま帰宅したが、翌日も痛みがあったので家庭から病院に行き骨折が判明。

- ・打撲（職員）

寝転んでいた児童の横を通る際、その児童に足をつかまれ転倒。脚と手首を打撲した。激しく転んでいたため受診をするように指示をした。

- ・打撲（児童）

平均台で遊んでいて足を踏み外し転倒。館内では普通に歩いたり走ったりしていたが、帰宅後打った場所が痛いと言った為、翌日保護者が病院へ連れていき受診。打撲と診断。

○まとめ

- ・児童の予想外の動きもあり怪我が起こってしまったので、今回の事例やヒヤリハットを教訓に、会議などで話し合い危険予測の能力を向上させていく。
- ・前年度と比較しヒヤリハットの件数が増えている。昨年度の後半より職員のヒヤリハットへの意識が高まり提出が多くなったことが理由として挙げられる。気付きの件数が増えるだけでなく、事故の芽を摘むことへ生かしていくように職員の意識を向けていく。

10. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		2件	1件	1件

○内容

- ・一般来館者より、こども青少年課へ以下の3点の苦情が入った。
 1. 13時前に行ったところ入館を待たされた。
 2. マスクの着用が必要と言われた。
 3. 雪かきをしていて邪魔なので退くように言われて気分が悪かった。
- ・利用児童の母より電話で相談があった
卓球をしていた際、他学年の児童にピンポン玉を投げつけられた。
近頃精神的にも参っている様子。初めて学童に行きたくないと言っていた。

○まとめ

- ・来館者には室内の消毒の際に利用を待っていただいたことがあったのでそのことと思われる。消毒時間やマスクについてはじどうかんだよりや掲示にて知らせていたが気付いていなかったと思われる。雪かきはしていないので、学童の受け入れ準備の為に部屋の移動をお願いしたのでそのことと思われる。気持ちよく使っていただけるよう理解を求めつつも、より丁寧な対応、周知を心掛ける。
- ・見守りカメラの映像を確認し、遊んでいた場所にいた職員からも情報を集め、本人も含めピンポン玉の投げ合いをしていたこと、相手も遊びのつもりであったことなどを伝えた。投げていた児童にはこちらで指導をしていることも伝えた。

11. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (児童)	感染拡大防止対策で要 した費用	感染拡大防止対策で得 た補助金・見舞金等
0件	19件	1,068,364円	800,000円

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令による神戸市からの通達をもとに、その都度運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙や『さくらメッセージ』の配信にて保護者へと知らせた。
- ・感染者が出た場合は感染者が出たことや兄弟の利用の有無を各園に知らせ連携を図った。

1 2. 《総括》

- ・湊学童保育コーナーから来た児童は職員との関わりや、人数が少ないのでゆったりと過ごせる等、児童館で過ごすことの良さに気付いていった。
- ・高学年の児童の中には、行事の際にみんなを楽しませることに喜びを感じていたり、日常での悩みや不満を職員に話すことで気持ちの切り替えをしていたりする姿が見られ、居場所としての役割の大切さを感じた。
- ・学校の垣根を越えて仲良く遊んでいて、友人関係が広がり、複数の学校の児童が利用している意義があった。
- ・次年度は湊小学校内に第二コーナーが開設するので、学童保育利用児童が少なくなる見込みである為、より一人一人の様子を見ながら関わっていくことができるので、職員の気付く力、対応力を上げていけるよう教育、指導を行っていく。

令和4年度 事業報告書

神戸市立湊学童保育コーナー

1. <基本方針>

- ・豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ・保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ・親館との連携を密に図る。

2. <中長期目標>

- ・児童一人一人と丁寧に向き合い、心落ち着く場にする。
- ・安心して学童保育が利用できるよう、小学校・保護者との連携作りに努める。

3. <令和4年度報告>

①小学校との連携を密に図り、定期的な連絡会を実施する。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、定期的な連絡会は取りやめたが、情報のやり取りは随時行った。

②児童、職員の交流を深め、親館と一体的に保育を行う。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、直接会っての児童の交流を取りやめたがオンラインを活用してけん玉大会をして交流を図った。

③豊かな経験ができるよう努める。

- ・学童内の行事の準備や進行を行い、友だちと協力して目的に取り組むようにするなど多様な経験をできるようにした。

④夏季休業日期間の希望者お弁当委託サービスを行う。

- ・昨年に引き続きライフデリに委託し、実施することができた。

⑤リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。

- ・会議で情報を共有し、安全確保に努めた。
- ・職員会議で毎月情報共有し、対応について話し合った

⑥植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。

- ・メダカの飼育や植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。

⑦児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。

- ・けん玉に熱心に取り組んでいる児童が新しい技に挑戦できるよう、解説書を購入した。また、けん玉協会の段位の技を調べて目標を持って取り組めるようにした。

⑧Wi-Fi環境を整え、小学生のパソコン学習のルールについて職員も理解を深め、子どもに伝えていく。

- ・Wi-Fiにつないで宿題をしている。宿題をする時のみ使用できるルールになっていることを児童や保護者に伝えた。

⑨第二コーナー開設に向け、職員の確保、教育を行う。

- ・年間を通して職員の募集を行い、湊コーナーで勤務をして実務経験を積めるようにした。

4. 《児童への指導内容》

- ・健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
- ・学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保、自立支援に努めた。

5. 《行事報告》

年間行事

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり・こども神輿参加（中止）
6月	つくって遊ぼう
7月	夏祭り 昼食会
8月	サマープログラム（工作・ゲーム） ビデオシアター こども神輿参加
9月	製作遊び
10月	ハロウィンパーティー
11月	製作遊び
12月	クリスマス会 昼食会
1月	お正月遊び 個人懇談
2月	豆まき 新1年生資料配布
3月	お別れ会 お別れ遠足（中止） 入会説明会 昼食会

月間行事

- ・誕生日会
- ・けん玉検定
- ・おりがみ教室
- ・みんなであそぼう

6. 《月別在籍人数報告》 受け入れ可能人数135名

	1年生	2年生	3年生	合計
4月	61	60	4	125
5月	61	60	4	125
6月	62	60	4	126
7月	64	58	4	126
8月	66	57	4	127
9月	64	56	4	124
10月	65	54	4	123
11月	64	53	3	120
12月	63	53	3	119
1月	63	52	3	118
2月	63	52	3	118
3月	63	52	3	118
合計	759	667	43	1469

7. <<防災・防犯訓練報告>>

- ・火災、地震、水害、防犯の何れかの訓練を月1回以上行った。

8. <<会議報告>>

- ・毎月職員会議を行った。児童について、児童の関わり、作業手順の統一、学童保育の約束事の共通理解、問題点や改善点について話し合った。
長期休み期間を除いて、平日に児童館とオンラインでミーティングを行い、情報共有をした。

9. <<リスクマネジメント報告>>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
3件	717件	2件	882件

○事故発生内容

- ・目の打撲

遊んでいる際、後ろにいた児童がぶつかり前にあった机で左目を打った。
眼科を受診し、打撲と診断。視力等に異常なし。

- ・肘内障

座っていた児童が職員に手を差し出したため、立ち上がらせようと手を引っ張った。
肘を痛がった為、病院を受診し肘内障と診断され治療を受けた。

○まとめ

- ・児童の人数が多いので、ぶつかったりすることが多くなっている。児童が分散するように遊び場所を変えたり、児童にも周りに気を付けるよう指導した。
- ・不用意に児童の手を持って引き上げたために起こってしまった。小学生でも起こりえることなので、引っ張らない、不用意に児童に触れないことを全職員に徹底するよう伝えた。怪我をさせたしまった職員は精神的に大きくショックを受けていた為、本人の希望も考慮し、たちばな児童館の学童保育へ配置換えをした。

10. <<苦情・相談結果報告>>

※苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		7件	4件	3件

○苦情・相談内容

- ・階段で友達に服を引っ張られて躓き脛にあざができた。今後このようなことがないように注意してほしい。

- ・学童保育を利用している同じ学年の児童に学校で悪口を言われている。
先日は公園でも言われていたので学童で言われていたのを目撃していないか。
- ・17時の退館時刻に雨が強く振ってきた為、車で迎えに行くので待たせておいてほしいと電話をした。17時10分に迎えに行くと延長保育を出していないので次からは延長保育を出してもらいますと言われた。雨が強いと危険だと思うが雨の強さで待たせてもらう基準などはないのかコーナー長に聞きたい。
- ・子ども同士のトラブルがあったからといって帰り時間を過ぎて話し、迎えに来ている者を待たせるのはおかしい。保育園への迎え時間も過ぎていた。以前に履き間違えられた靴も出てきていないがどうなっているのか。(中央区社協にも電話があった。)
- ・同じ学年の児童にからかわれている。やめるように言ってほしい。
- ・職員が肘内障になるほど子どもの腕を引っ張るのはおかしい。以前も職員に注意され泣いていたことがあり安心して預けることができない。

○まとめ

- ・見守りカメラで確認をし、当日二人が階段で遊んでいて危険であったため指導をしていたが怪我に気付いていなかった為そのことについて謝罪をした。
- ・職員に確認をしたが聞いた職員はいなかったため、学童でそのようなことがあった場合は指導をし、保護者にもお伝えすると返事をした。
- ・基本17時以降は延長保育の申請が必要なこと、雨の量の基準などはないが視界が悪い場合などはお迎えに来るまで待機する場合もあることを伝え、柔軟な対応について検討することを伝えた。
- ・時間を過ぎて待たせてしまったことを謝罪し次回からは事前に承諾を取るか翌日の対応にすることを伝えた。靴に関しては途中経過を報告することとし、見つからない場合は弁償することを伝えた。最終的に弁償した。
- ・相手の児童に事実確認をし、指導した。
- ・電話で謝罪をした後、神戸市に報告、相談し、コーナー長、責任者、当事者の三者で自宅まで謝罪に行った。

1 1. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (児童)	感染拡大防止対策で要 した費用	感染拡大防止対策で得 た補助金・見舞金等
0件	12件	1,242,096円	1,200,000円

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令による神戸市からの通達をもとに、その都度運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙や『さくらメッセージ』の配信にて保護者へと知らせた。
- ・感染者が出た場合は感染者が出たことや兄弟の利用の有無を各園に知らせ連携を図った。

1 2. 《虐待の疑いのある児童への対応》

○内容

- ・顔に傷がある児童がいたため本人に話を聞き、保護者に叩かれた際、机にぶつけてできたとのことであった。

○対応

- ・虐待の疑いのあるケースと思われたため、統括部長と小学校に話し、児童の住む区の保健福祉部へ当方から連絡を入れた。保健福祉部担当者の指示に従い、学童にて聞き取りが終わるまで児童を待機させた。保健福祉部担当者の家庭訪問を翌日以降に行うことになり、児童を家まで送り届け、今回のようなことがあると当方は役所へ報告する義務があることを伝えた。

○まとめ

- ・翌日が祝日であったため翌々日に家庭訪問がされたと連絡があった。
- ・職員間で情報共有をし、変わった様子がないか観察をするようにした。
- ・その後は通報に至るような出来事は起きていない。
- ・妹が法人内の小規模保育園に通っているため情報を伝えた。

1 3. 《総括》

- ・利用申込者が多く、大半が1年生～2年生のため、手がかかることが多かった。特に年度当初は不安になる児童、保護者が多いため、より丁寧な対応を心掛けていきたい。
- ・前年に比べ苦情の件数が増えている。連絡不足や不注意など防ぐことができることが原因にある。報連相や不用意な身体接触を避けるといった、確認し合ったことを職員全員でお互いに注意しながら徹底していく。
- ・職員の不注意で児童が怪我をしてしまうことがあった。普段から不用意に児童に触れることをしないように伝えてはいたが、伝えてから時間が経っており、意識が薄れていた為、不注意につながったと思われる。継続して職員への教育を行っていく。
- ・衝動的行動をする児童がおりカウンセラーの助言を受けながら対応している。少しずつ落ち着いて過ごす姿が見られるようになってきているので、引き続き気になる児童にはどのように接していけばいいのかを話し合い、情報共有をしてチームで取り組んでいく。
- ・第二コーナー開設に向けて新たに採用した職員が多く、業務の手順や決まり事への理解、職員間の連携がうまくいっていない場面が多々あった。どのような意図があって決まり事や作業があるのかを理解できるように繰り返し説明していく。
- ・虐待の疑いのある児童がおり、対応に当たった。学童保育施設から通報をしたのは初めてであり戸惑いもあったが、周囲の助けもあり必要な対応ができた。児童の顔の傷はマスクの下にあったため、気付にくい場所であったが、職員が見逃さなかった為、適切な対応ができた。今後も小さな異変に気付いていけるよう職員が一丸となって業務に励んでいく。

1. 《基本方針》
 - ・利用者の最善の利益を目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する
 - ・母と子の権利擁護の為に、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する
2. 《中長期計画》
 - ・入所者が金銭的、精神的、社会的に自立出来る様、自立に繋がる支援をする。また、全職員がそのヴィジョンに対し、共通の意識を持ち業務を遂行する
 - ・職員の資質向上
 - ・母子生活支援施設の認知の向上
3. 《令和4年度報告》
 - ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする
 - ・親子関係、金銭面、不登校など、入所者それぞれの課題を明確にし、職員全員がチームとして支援出来る様に努めた。また、必要によっては、専門機関と連携を図る等し、ニーズに沿った支援を行った。
 - ②人財育成計画を作成し、実行する
 - ・新任職員を対象に、育成と離職をテーマにした育成プログラムを作成し、実行した。
 - ③施設と母子連盟で母子生活支援施設の認知の向上に向けた活動を行う
 - ・施設…母子生活支援施設について大学で講義を行った。
 - ・母子連盟…市母連のホームページを作成した。
4. 《地域貢献事業》
 - ①法人こども園の時間外保育受け入れ（20時以降）
 - ・依頼は1件のみだった。
 - ②リフレッシュ保育事業の保育時間延長（21時以降）
 - ・新型コロナウイルス感染症対策のため、受け入れせず。
 - ③アフターケア（居室訪問、相談業務、病院の付き添い、金銭管理、関係機関との連携等）
 - ・4世帯に行った。
 - ④ほっとかへんネット中央との連携
 - ・研修会への参加、広報活動を担った。
5. 《修繕・購入報告》

各居室の電気メーター取り換え工事、退所後のリフォーム、防犯カメラ増設
6. 《活動報告》
 - 研修
 - ・母子関係の研修、法人内研修、施設内研修に参加した。
 - 広報
 - ・毎月、施設内新聞を利用者、関係機関に配布した。また、大学で講義を行った。

○学習指導

① 小学生

- ・長期休み以外（各児童週1回）→主に国語、算数を行い、個々の能力に沿って学校の宿題、プリント、ワークを用いた。
- ・長期休み（1回30分 回数は児童により1～3回）→国語、算数の宿題を行った。

② 中学生

- ・テスト前以外（各児童週1回）→学校、塾のワークを用いて行った。
- ・テスト前（各児童2日間連続）→テスト範囲の指導を行った。

※11/28～12/2は、新型コロナウイルス感染症対策の為、各学習指導を実施せず。

○健康診断

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便（O-157）	月1回	—	—

○避難訓練

- ・消防訓練（毎月1回） ・浸水訓練（7月） ・不審者訓練（10月） ・地震訓練（11月）
- ※1月の消防訓練は前日に犯行予告のメールが来たため中止。その他は予定通り実施した。

○保健衛生

- ・業者に依頼し、害虫駆除、各居室のエアコン清掃、排水管清掃、廊下清掃を行った。

○リフレッシュ保育事業

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、受け入れ中止。

7. 《行事報告》

年間行事

月	行事
4	昼食会（カレーライス・プチゼリー）
5	母子協 母と子の運動会
6	害虫駆除（防虫用品配布） 卓球大会（中止）
7	母子協 児童キャンプ（中止）七夕（弁当、ゼリー配布） 昼食会（カレーライス・プチゼリー） 昼食会（豚丼・みそ汁・ミニジュース）
8	地蔵盆（飾り・ご詠歌・ハンバーグ配布） 昼食会（クリームシチュー・ロールパン・ヨーグルト） 昼食会（二色丼・おすまし・ミニゼリー） 昼食会（チキンライス・コーンスープ・プリン）
9	母子協 バス旅行（おもちゃ王国） 焼肉パーティー（弁当 or お肉配布） 昼食会（カレーライス・プチゼリー）
10	OB会・親子エンジョイ（中止） ハロウィン（クイズ・景品配布）
11	施設内忘年会（お取り寄せ配布） 児童エンジョイ（ひらかたパーク）
12	施設内クリスマス会（ピザ配布・景品配布） 京都水族館招待（児童のみ） 昼食会（ビーフシチュー・おにぎり・ブロッコリー・フライドポテト・チキンナゲット・ジュース）
1	母子協 新春母と子の集い（くじ引き大会・芸術コンテスト開催） 新年会（すき焼きセット配布、くじびき） 昼食会（お餅・雑煮・みかん）
2	節分（豚汁・豆・具材を希望世帯に配布）
3	母子協 児童スキーキャンプ ひな祭り（豚汁・ひなあられ・カード配布） 中学生以上児童エンジョイ（アトア、ラウンドワン） 昼食会（カレーライス・プチゼリー）

月間行事

- ・母の会
月1回行い、行事の予定等について話す。
- ・個別遊び
月1回行い、外出、お菓子作り、工作を行った。

8. 《入居者の異動利用状況》

○入居者の異動利用状況（定員…入所→20世帯、短期保護→2世帯）

月別区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍世帯数		19	20	20	20	20	20	20	20	20	19	17	18	233
初日在籍人数		43	45	45	45	45	45	45	45	45	43	38	41	525
入所		1	1									1		3
		2	2									3		7
退所										1	2			3
										2	5			7
短期保護	母子	1												1
		2												2
	婦人									1	1	2	2	6

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

9. 《会議報告》

○施設内会議

- ・職員会議、支援会議、リスクマネジメント会議、ワンアップ会議（各月1回）
- ・リフレ委員会
※新型コロナウイルス感染症対策により、受け入れを止めていた為、開催せず。

○行政との会議

- ・三者連絡会議（年2回）
会議参加者…ハーバー大慈、中央区役所 保健福祉課・生活支援課

10. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

○報告件数

	令和3年度		令和4年度	
	事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
入所者	0件	22件	0件	7件
リフレ	0件	0件	0件	0件

○事故発生内容

- ・病院を受診する様な怪我は無かった。

○まとめ

- ・リフレッシュ保育事業の受け入れを行わなかった為、リフレの事故、ヒヤリハットはなかった。また、ヒヤリハットの内容は、職員による事務関係のミスが多かった。昨年に比べ件数が減少しているのは、コロナ関係の対応に慣れ、ミスが減少した要因もあるが、報告が上がって来ていない事も要因としてあるため、未然に事故を防げる様、報告書の提出は徹底していきたい。

1 1. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告 件数	合計	苦情	相談	報告 件数	合計	苦情	相談
	3件	3件	0件		14件	14件	0件

○苦情内容

- ・他の入所者の騒音について13件の苦情があった。
- ・他の入所者のゴミの放置、異臭について1件の苦情があった。

○まとめ

- ・騒音に関する苦情にも、異臭の改善訴え、廊下の荷物の放置が含まれている。騒音に関しては、確認が出来た際に伝える様にしていたが改善が見られず、職員の対応に不信感を与える結果となってしまった。この件を踏まえ、入所時面談の際に、施設のルールとして丁寧な説明を行う事、またアンケートを配布し、入所者の声を聴く様にしたが、苦情、相談に対して初期対応を速やかに行い、日頃より丁寧な対応を心掛けていきたい。

1 2. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (利用者)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・ 見舞金等
3件	13件	353,650円	483,493円

○まとめ

- ・感染症対策として、健康状態の管理（検温表の提出）、入館の制限、外部業者が出入りする際の検温、職員の体調管理（検温）、職員間の情報共有、陽性者発生時の施設内消毒、行事の中止、内容の変更、リフレッシュ保育事業、短期保護事業、新規入所者の受け入れ制限を行った。

1 3. 《総括》

- ・新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、可能な範囲で行事を再開した。入所者同士及び入所者と職員の接点が少なくなっており、関係性にも変化が見られていたため、コミュニケーションを取れる場として再開出来たのは良かった。
- ・人財面では、3年程前より、職員の採用と育成に力を入れ、今年度、両方の面で結果が得る事が出来た。今後も継続して行い、働きたいと思ってもらえる職業、職場にしていきたい。
- ・入所者、施設数が全国的に減少しており、一つの要因として母子生活支援施設の認知不足が

挙げられる。実際に入所されている方より、こういった施設がある事をもっと早く知りたかったという声もある為、施設、連盟での広報活動を来年度も行っていきたい。

1. 《基本方針》
 - ・ 児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき児童の人権を尊重する
 - ・ 共同で行動することを通して、生活習慣、人間関係、思いやり等が身につくように援助する
2. 《中長期計画》
 - ・ 地域福祉の一環として、地域のニーズに応え、利用者が安心して利用出来るサービスを提供する。また、各利用者が集団生活を通し、思いやりの心と考える力を育める様努める
 - ・ 職員の資質向上
3. 《令和4年度報告》
 - ①個別配慮が必要な児童の受け入れ等、利用者のニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを提供する
 - ・ 個別配慮が必要な児童等の受け入れを行うために、職員の配置を増やすなど、対応した。
 - ②リスクマネジメントに基づき、リスクの軽減を図る
 - ・ 会議や引き継ぎを通し、職員間で話し合い、情報を共有する事で、リスクの軽減に努めた。
 - ③人材育成計画を作成し、実行する
 - ・ 新任職員を対象に、育成と離職をテーマにした育成プログラムを作成し、実行した。
4. 《地域貢献事業》
 - 延長保育の時間外受け入れ（18時～19時）
 - ・ 定額での延長保育希望者だけではなく、ニーズがあった際は19時以降も預かりを行った。
5. 《修繕・購入報告》
 - 登下校等管理システムの導入
6. 《活動報告》
 - 広報
 - ・ 保護者、各区役所、神戸市役所こども家庭局に学童新聞を発行した。新聞の内容には、行事予定やお知らせ等を記載した。
 - 避難訓練
 - ・ ハーバー大慈報告書参照。（夜間想定以外、同様に行う）
 - 保健衛生
 - ・ エアコンのクリーニング、排水管清掃、廊下清掃を業者に依頼し、実施した。また、毎週金曜日（祝日、年末年始除く）、大掃除を行った。

7. 《行事報告》

年間行事

行事	
4月	お花見 昼食会 (カレーライス・プチゼリー)
5月	グループワーク (スポーツ大会)
6月	グループワーク (大倉山公園) 個別懇談会 (希望者対象)
7月	水遊び 映画会 昼食会 (カレーライス・プチゼリー) 昼食会 (豚丼・みそ汁・ミニジュース)
8月	スイカ割り 屋台村 交通安全教室 水遊び 消火器訓練 映画会 地蔵盆 (お供えのお下がり配布) 昼食会 (クリームシチュー・ロールパン・ヨーグルト) 昼食会 (二色丼・おすまし・ミニゼリー) 昼食会 (チキンライス・コーンスープ・プリン)
9月	昼食会 (カレーライス・プチゼリー)
11月	グループワーク (王子動物園) 個別懇談会 (希望者対象)
12月	クリスマス会
1月	もちつき (お餅・雑煮・みかん)
3月	昼食会 (カレーライス・プチゼリー)

月間行事

- ・のびっ慈DAY

月1回行い、工作などをする。

8. 《月別在籍人数報告》 定員35名

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
4月	6	5	12	4	27
5月	6	5	12	4	27
6月	6	5	12	4	27
7月	6	5	12	4	27
8月	6	5	12	4	27
9月	6	5	11	4	26
10月	6	5	10	4	25
11月	6	5	10	4	25
12月	6	5	10	3	24
1月	6	4	10	3	23
2月	6	4	10	3	23
3月	6	4	10	3	23

9. 《会議報告》

- ・学童委員会 (月1回)

10. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

※ケガの定義…事故以外のケガで、職員が処置したもの

○報告件数

令和3年度		令和4年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
1件	9件	0件	37件

○事故発生内容

- ・病院を受診する様な怪我は無かった。

○まとめ

- ・ヒヤリハットの内容は、新しく導入したシステムに関連するもの、新任職員による送り出しの忘れ、事務的なミスが多かった。昨年度に比べ件数は多くなったが、職員それぞれが報告書を適切に上げる事で、対策を話し合う事が出来、今後に繋げる事が出来た。

11. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義…運営委員長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

令和3年度				令和4年度			
報告件数	合計	苦情	相談	報告件数	合計	苦情	相談
	3件	1件	2件		1件	1件	1件

○苦情内容

職員の保育中の対応について1件の苦情があった。

○まとめ

- ・当事者より、学童の管理者ではなく法人本部、第三者委員の介入について要望があったが、その後、当事者からの連絡等はなく、話しが途中で終わってしまった。今後も苦情、相談を受けた際は、初期対応を速やかに行い、日頃より丁寧な対応を心掛けていきたい。

12. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (利用者)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・ 見舞金等
0件	8件	208,475円	208,475円

○まとめ

- ・感染症対策として、児童の健康状態の管理（検温、健康観察表の確認）、定時の換気・消毒・手洗いや消毒等の徹底送迎時の入館の制限、外部業者が出入りする際の検温、職員の体調管理（検温）、食事中的パーティションの設置、おやつを持ち帰り、職員間の情報共有、陽性者発生時の施設内消毒、行事の内容変更を行う。

1 3. <総括>

- ・要配慮児童や小規模を希望する利用者のニーズが増えており、職員配置も必要に応じて増やした。また、グループワークの行き先や行事の内容なども配慮をした。今後も地域の方に安心、安全に利用してもらえる場として、ニーズに沿った事業を継続していきたい。

令和4年度 事業報告書

おやこふらっとひろば中央

1. 《基本方針》

- ・中央区の子育てコミュニティの拠点になる。
- ・親子に寄り添って支援を行う。
- ・中央区の子育て関係機関や近隣施設との積極的な連携を行う。

2. 《中長期目標》

- ・親子が安心して利用できるよう一人一人に寄り添って支援を行う。
- ・子どもが興味関心を持つよう環境を整える。
- ・「おやこふらっとひろば中央」を知っていただくように積極的に広報を行う。

3. 《令和4年度報告》

①中央区こども福祉課や保健師、関係課と密な連携を図り、子育て支援を行う。

- ・中央区こども福祉課課長、保健師、保育サービスコーディネーターとの情報交換会を行った。

保健師や保育サービスコーディネーターにイベントの講師をしていただいたり個別相談を行っていただいたりした。

困っている保護者や疲れている保護者には、保健師と繋げられるよう連携を図った。

②中央区における子育てに関する課題を抽出し、対応できるように企画する。

- ・双子、三つ子の保護者同士を繋げるようにイベントを行った。

孤立している保護者に子どもの年齢の近い保護者と話ができるよう促した。

③一人一人に寄り添って子育て相談に応える。

- ・どの保護者とも話をし、特に子育てに困っている人には十分時間を取って応えた。

④子どもの興味関心のあることを見極め、玩具を始めとする環境を整える。

- ・子どもの様子をよく観察し、必要な玩具を用意した。

⑤広報活動を積極的に行う。

お家におられる方にも情報が届くよう、SNSの活用等、工夫する。

- ・4カ月健診やその他の健診の時にパンフレットを渡していただいた。
- ・近隣施設にもパンフレットを置いていただいた。
- ・SNS等を活用して広報を行った。

⑥職員全員で情報を共有し、親子が安心していられるようにする。

- ・保護者からの情報は全職員で共有し、全員が同じように支援ができるよう取り組んだ。

4. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
7月	アート de 記念樹 (オープニングイベント)
8月	0歳タイム・1歳2歳タイム (ふれあいやあそび)、栄養相談、バースデー ベビーマッサージ
9月	0歳タイム・1歳2歳タイム (感触あそび)、栄養相談、バースデー 神戸芸術工科大学連携プログラム、保育サービスコーディネーター相談会
10月	0歳タイム・1歳2歳タイム (運動会ごっこ)、栄養相談、バースデー ハロウィンパーティー、三宮図書館連携プログラム
11月	0歳タイム・1歳2歳タイム (こども本の森 神戸連携プログラム)、栄養相談 バースデー、フォト講座 保育サービスコーディネーター相談会、三宮図書館連携プログラム 保健師による保健衛生講座
12月	0歳タイム・1歳2歳タイム (楽器あそび)、栄養相談、バースデー、フォト講座 クリスマスパーティー、三宮図書館連携プログラム
1月	0歳タイム・1歳2歳タイム (ふれあいやあそび)、栄養相談、バースデー 双子・三つ子イベント、三宮図書館連携プログラム
2月	0歳タイム・1歳2歳タイム (手作り玩具)、栄養相談、バースデー 三宮図書館連携プログラム
3月	0歳タイム・1歳2歳タイム (こども本の森 神戸連携プログラム)、栄養相談 三宮図書館連携プログラム

5. 《令和4年度 利用人数一覧表》

○利用人数

	0歳	1歳	2歳	3歳以上	大人	合計
7月	119	113	45	15	286	578
8月	328	277	92	39	717	1453
9月	355	227	62	17	681	1342
10月	321	253	55	20	616	1265
11月	350	258	48	11	661	1328
12月	332	255	62	26	635	1310
1月	288	238	53	29	592	1200
2月	275	283	63	9	623	1253
3月	311	354	69	10	743	1487
合計	2679	2258	549	176	5554	11216

○居住地別利用 組数

中央区	灘区	東灘区	兵庫区	長田区	須磨区	垂水区	北区	西区	市外
3409	709	272	231	38	138	86	84	74	203

○頻度 組数

新規	再来
1408	3836

6. 《リスクマネジメント報告》

○報告件数

令和4年度	
事故	ヒヤリハット
0件	39件

○リスクマネジメントまとめ

- ・親子で一緒にいるので、大きな怪我はなかった。
- ・0歳1歳の子どもが、利用している子どもの87%を占めているので、バランスを崩しての転倒や打撲が多かった。
- ・危険のないように、保護者と共に見守り安全に遊んでいただけるよう配慮する。

11. 《苦情・相談結果報告》。

○報告件数・・・1件

令和4年度			
	合計件数	苦情	相談
報告件数	1件	1件	0件

○内容

わたしから神戸市への提案（1人）

- ・区役所のおやこふらっとひろば、ふらっと行けません。
- ・直前になると予約できない。
- ・直前でも空きがあれば予約できるよう改善されると良いと思います。

（回答）担当課長から神戸市へ

- ・おやこふらっとひろば中央では、ホームページより予約していただき、新型コロナウイルス感染症対策のため11日4部を完全入れ替え制で運用させていただいています。
- ・現在4部とも多くの予約をいただいております、ほとんどの部が、定員に達し、キャンセル待ちになっている状況です。
気軽にご利用いただけない状況になっており、申し訳ございません。
- ・空いている部については、1・3部は開始の1時間前まで、2・4部は開始の2時間前までのホームページでの予約受付が可能です。また、予約受付可能時間経過後、ご希望の部が空いている状況であれば、予約可能な場合もございますので、お手数をおかけしますが、直接、おやこふらっとひろば中央（TEL078-332-5710）にご連絡ください。

○まとめ

- ・中央区の事業ということで、直接おやこふらっとひろばに苦情を申し出るのではなく、「私からの神戸市への提案」投稿された。
- ・毎日登園する園や学童保育と違い、何か嫌なことや心配なこと等があったら、改善を求めるのではなく、来場しなくなるのだと思われる。
また、SNSなどに投稿するのだと予想される。
日頃から、その時その時が全てだと思い、子どもや保護者と接している。
これからも一人一人と丁寧に接することを心がけていきたい。

1 2. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和4年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (子ども・保護者)	感染拡大防止対策 で要した費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等
1件	不明	332,030円	300,000円

○新型コロナウイルスまとめ

- ・おやこふらっとひろば中央の開始の時期が既に新型コロナウイルス症拡大防止対策が必要な時期であったことから、完全予約、完全入れ替え制で1部につき10組限定とした。利用している親子が新型コロナウイルス感染症に感染したかどうか、不明な方が多く、把握はできていない。
- ・たくさんの方が利用し、近距離での対応だったが、感染防止対策を徹底することで、職員は1名の感染にとどまった。

1 3. 《総括》

- ・7月19日のオープン以来、約6000組の親子が利用した。
- ・三宮周辺に児童館等の親子で遊べる場所、子育て相談のできる場所がなく、「おやこふらっとひろば中央」ができて喜ばれている。
特に、職員が親身になって話を聞いてくれると好評を得ている。
- ・保健師に繋げたケースや生活保護課と情報共有をしたケースがあった。
保健師に繋いだケースは、中央区だけではなく、垂水区の保健師に繋いだケースもあった。
- ・公募条件であった、「こども本の森 神戸」、「デザイン・クリエイティブセンター神戸」「三宮図書館」と連携を図ることができ、共催イベントや「おやこふらっとひろば中央」主催に来ていただいたイベントが実現した。
- ・今後も中央区で安心して子育てができるよう、関係者がチームとなり、子育て支援の輪を広げていく。そして、利用している保護者の方一人一人に寄り添って、子育て相談を始めとした子育て支援を行っていくよう努める。